

付録 2.1

PRA ミーティングの記録

1.0 PULAU GADANG PRA ミーティング

村の名称 : PULAU GADANG
実施日 : 2002 年 3 月 12 日
時間 : 午後 2 : 30 ~ 5 : 30
議長 : DRS. YOSERIZAI (女性)

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. Desriwan, SH
 2. Ir. GMEManurung, MSi
 3. Achmad Rivai, ST, MP
 4. Ir. Lumen Mundi
- ・PT. Bita Bina Semesta (BBS) :
 1. Dr. Lucia Nugroho, MSc
 2. Ir. Bahan Suhendar
 3. Ir. Agust Siswanto

参加者 : 67 人 (付録の参加者名簿参照)

1.1 一般的事項

会議は午後 2 時から 5 : 30 まで開かれた。参加者は 67 人、村役人、村の長老 (Ninik Mamak)、コミュニティ指導者、伝統継承者、宗教指導者、イスラム教聖職者、村の知識人、コミュニティの人々、女性、子供など。まず、リアウ大学チームが、コトパンジャン HEPP プロジェクトがコミュニティの社会経済的及び社会文化的側面に与えた影響に関してコミュニティの意見を聞くことと、会議の目的を説明した。また村長はコミュニティに対して、礼儀正しく真実を述べるよう求めた。

これまでに NOG やその他の様々の団体が、情報収集のため村の状況について尋ねたいと連絡をとってきたと、コミュニティは述べた。しかし現実には、彼らの生活には何の変化もない。従って、今回のリアウ大学とコンサルタントの訪問が、特にコトパンジャン HEPP プロジェクトで大きな影響を受けている村の経済状況に対して実際の利益をもたらすことを、コミュニティは願っている。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

Pulau Gadan 村コミュニティは一般的に、コトパンジャン HEPP プロジェクトによる移転に対して、新しい村に移転してきた時には生計手段が何もなくとても悲惨な状況だったと述べている。

しかし、政府がそれまでに約束していた農園と住宅が不満足なものだったので、彼らは思い切って淡水魚の捕獲を始め、これが現状を大きく変化させた。初めて新しい地に移転してきた時、農園はまだ植林されておらず居住地域には上水の供給もなかった。移転前に政府が約束した内容と異なり、MCKはなく、台所と浴室は家から離れたところにあった。半永久的住居を提供することも約束されていたが、実際の住居は設計と異なるものだった。コミュニティの人々は、以前の村ではきちんとした半永久的住居に住んでいた。また、水田耕作、ゴム採取、森の薪集め、ココナツ採り、村の周りの水田での稲作などで生計を立て、コミュニティを十分維持することができた。

コトパンジャン HEPP ダムによる移転の結果、以前あった生計手段の全てが失われたということが、コミュニティの一般的な意見である。現在、Pulau Gadan の人々の主な収入源は、patin fish の淡水魚養殖である。新しい土地の経済状況は以前の村と非常に異なっており、人々の収入は依然として不十分である。政府が提供した設備が不適當だったので、コミュニティは自主的に道路、橋、プランテーション、上水などの改善に取り組んだ。政府が移転地近くに提供した畑は非常に質が悪く、作物を収穫することができなかった。しかし、住民は政府の支援で自分で土地を耕すことができた。

Pulau Gadan コミュニティがこれまで経験した他の問題は、住居問題である。政府が提供した住居はコミュニティの期待を満たすものでなかった。生活費 (jminan hidup/jadup) はわずか 1 年分しか支給されず、住居の屋根はほとんどが雨漏りし、床や壁の板は古く、近くの道路は舗装されていなかった。このような状況の中、コミュニティは、魚、ゴム、その他の農産物を市場に出すのが便利になるよう道路を舗装するよう要求した。

B. 移転による効果は水没前に計画されたが、結果的にコミュニティに不利益となった。

コトパンジャン HEPP ダムがその地域で及ぼす直接的及び間接的影響は水没前に保証されていたが、その後のコミュニティの生活に不利益となった。原因は、新移住地の地形が以前の村とはかなり異なっていたからである。さらに、多くの実際の状況が、政府がもともと約束したものと大きく異なっている。例えば以前の村と比較して、半永久的住居、ゴム採取の準備が整ったゴム園、上水供給、村道、MCK などはコミュニティに不利益となった。

C. コトパンジャン HEPP ダム開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

114MW の送電能力をもつ電気タービン発電機に対応するコトパンジャンダムは、特にものもとダムの上流入り江付近に住んでいた Pulau Gadan 住民に電力を供給しており、これはダムがもたらすプラス面である。移転前は、夜の礼拝や子供たちの学校の勉強に石油ランプを使用していた。このコミュニティは、以前の村の財産は水没したので、現在の収入源によって生き残るのに必死である。

スマトラ・ハイウェイに通じる様々の手段は、以前の村に比べてより近くなった。

2. マイナス面

- ・ 現在、コミュニティには水田がない。農地や農園の状態は以前の村と同じではない。また現在、コミュニティには生活を支える生計手段がない。水資源は、移住地からかなり遠いところにあるので日常生活に支障をきたしている。新しい土地に移転する前、コミュニティは日常生活、特に MCK に対する水資源及飲み水用に Kampar 川を利用していた。住居の状態もまた、政府が水没前に約束したものと全く異なっていた。
- ・ 新しい移転地は分散しておりまた中心地から離れているので、同じグループ内の家族の絆が薄くなった。
- ・ 提供された農地の広さは限られているため、生活費がますます増加している。
- ・ コミュニティがこれまで所有していた土地 (Tanah Ulayat または Tanah Adat) はもはや使用できず、従って次世代が使用できる農業、農園の土地はもはやない。
- ・ もはや、新世帯が使用できる土地はない。
- ・ 子孫や甥に関することを決めるのに最も必要な文化や慣習が変化した。
- ・ 以前の村と比べて、土地の広さと質が変化した。

1.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 土地補償問題に対する PAF の意見

コトパンジャン HEPP ダムによる水没の被害を受けた人々に対し今なお苦しみを与え解決されない問題は、不満足な補償問題そして未だ解決されていない補償問題である。水没している 14 区画がまだ補償を受けていないことが、新たに明らかになっている。また、すでに支払われている補償額が自分たちの査定額よりかなり低いので、コミュニティはその見直しを要求している。例えば、以前の農地は 30 ルピア/㎡、庭は 70 ルピア/㎡であった。これはクローブシガレットより安い。ココナツも同じで、その時点で 7800 ルピア/本、ココナツ実 500 ルピア/個であった。

2. 補償要求を提出するコミュニティの取り組み

コミュニティは補償を受け取るための取り組みをいろいろと実施してきたが、成功していない。彼らは疲労困憊しており、ダム建設側と歩み寄りをする望みは残されていない。多くの人は補償問題の解決に対する確実な報いが得られるか分からないまま、多くのお金を費やした。

補償問題では、合意すると責任を負うべき関係者は合意した金額を支払うべきで、また関係者に支払われるべきだと、コミュニティは提案している。

B. 上水の供給

1. 上水に関する政府の約束

コミュニティは、新しい移住地に移転する前には Kampar 川から上水を手に入れていた。政府は、上水施設の利用と供給を準備することを約束していた。しかし、実際にコミュニティのひとつが新しい移住地に移転すると、約束された施設は何もないことが分かった。従って多く制約があったにもかかわらず、コミュニティは政府が提供した井戸を修理した。しかし、結果は不満足だったので、特に飲み水を得るため川の水を利用した。川は幅 1m、深さ 0.5m である。初めて新しい移住地に移転してきた時、井戸はあったが枯れていたため、政府がタンクの水で井戸を満たした。

2. 上水供給設備改良の取り組み

上水施設に対するこれまで取り組みは、現在の井戸を修理しようと試みたことだった。一方、政府はコミュニティが新しい移住地に移転した後で上水施設を建設したが、設計が不十分で水は1年しか供給できなかった。コミュニティの取り組みを配慮しながらも、川の水を飲み水、入浴、洗濯、トイレに使っている人々もいる。

3. 上水提供に関するコミュニティの提案と提言

新しい村に住む人々の数が増えているので、コミュニティの提案と提言は上水の需要を満たすために早急を実現されねばならない。

- ・ 各世帯に水が供給されるように、掘り井戸を建設すること。
- ・ 水が供給できて使用できるように、現在の井戸を修理すること。
- ・ 各世帯で水が利用できるように、丘陵地から流れてきた水を蓄えられる貯水池を建設すること。

C. MCK 設備

1. MCK の提供に関する政府の約束

コミュニティによると、新しい移住地には洗濯や入浴の設備がない。また、新しい移住地のトイレは深さ1メートルの穴があり、しゃがむ様式で、不適切で利用しにくい。このトイレの穴は非常に浅くて1枚の波型鉄版で覆っただけのものなので、汚物が流れず逆流したりするので、利用することができなかった。そしてついに、利用されなくなった。新しい移住地の入浴施設は以前のものと同状態が異なり、特に浴室は全く不十分なものだった。最終的に、MCKの設備の全てが利用されなくなった。

この状況を改善するため、政府は何の努力もしなかった。従って、Pulau Gadan村の90%の住民はこれまで入浴、洗濯、トイレに川を利用している。資力のある人々は、魚がいる池の上に水洗トイレを作った。

2. MCK に関するコミュニティの提案と提言

コミュニティによると、必要な資金があれば使いやすい良い水洗トイレをつくることができ、もはや川に行く必要はなくなる。

D. 電力供給

1. 電力供給に関する政府の約束

政府が移転前に約束した電力は、Pulau Gadan コミュニティが新しい場所に移住した後の2週間だけ供給された。各世帯に PLN 電力が供給されたが、コミュニティは電力料金の支払いをしなければならなかった。しかし、コミュニティは外灯を設置するよう要求した。政府は取り付け・接続無料で5MWを供給することを約束し、全て完了した。

E. 住居提供

1. 住居提供に関する政府の約束

政府はコミュニティが移転する前、セメントと木の半々で建築した半永久的住居を提供することを約束していた。しかし新移住地に移転した時に提供された住居の品質は、政府が約束したものと似ても似つかぬものだった。床は粗末で厚さ3cmしかなく、木の株が突き出したところもあった。板の品質は普通だが、株が突き出たりしていた。

コミュニティはこれまで何らかの支援を求めてきたが、今後修理や補償が実施される予定はない。コミュニティはコトパンジャン HEPP による移転に対し不満を感じているので、残りの住むのに適さない住居は修理されるべきで、また自分の資金で修理した人にはその費用が支払われるべきだと、コミュニティは要求している。

2. 政府が実施した住居修理に対する対策

- ・政府はいままで、住居の修理のため対策を何もっていない。

3. 住居に関するコミュニティの提案と提言

- ・住居を自費で修理した世帯には、かかった費用が弁償されるべきだ。
- ・住居は、コミュニティが新移住地に移転する前になされた政府の約束どおりに建設されるべきだ。

F. やし油及びゴム園

1. 農園提供に関する政府の約束

政府はコミュニティが移住する前、収穫の準備が整った3年もの木を提供することを約束していた。しかし、新しい村に移転した時、農園はなかった。さらに、農園開発の援助が実施されたのは、コミュニティが Pekanbaru 知事に抗議デモをした後の1990年のことだった。家族を養うのは困難だったが、Pulau Gadan の PAF は決してあきらめたくはなかった。彼らは重労働や建設作業など、どのような場所でも雇ってもらいたいと望んだ。新移住地に移転してから10年後、政府はついに約束した農園開発を行ったが、まだ生産されてない。以前の農園の4-5%はまだ利用されているが、その一方、以前に約束されていた農園は今でも生計の手段として利用されていない。

2. 農園改良のための政府の取り組み

1990年末、政府はついに状況を改善するため、苗木、肥料、賃金を提供し対策を取りはじめた。

3. ゴム園に関するコミュニティの提案と提言

約束された農園を政府が改善し、生産できるようになる時期まで、開発、管理、維持のための追加支援を、コミュニティは提案した。また、特に雨季に、コミュニティから農園に行くことが困難なので、農園に通じる道路を補修するよう提案した。

G. 収入

1. 新移住地の収入源

Pulau Gadan コミュニティは、以前の村では土地を耕し、米を栽培し、農業をし、Kampar 川で漁をし、森で薪を集めていた。しかし、現在の新移住地では、特別の苗木しか栽培できず、また水の供給が難しく灌漑がないので稲栽培はできず、以前のような生計手段は失われてしまった。新移住地では、資力のある人々は patin fish の養殖を始め、それがいない人々はコトパンジャン湖で魚釣りをしたり、他の場所で稼ぎに出かけた。コミュニティの生計手段は移転によって変化し、さらに生計手段が限られているにも関わらず、就学年齢に達した子供を引き続き学校に行かせることができた。

新移住地の生活費、特に交通機関が高い。従って、政府が約束した農園は最大限に利用されるべきであり、さらに実用的事業に関する訓練や教育を特定の人々に対し、経済状況によって提供し、また道路、市場、住居、医療機関などのインフラの補償も行うべきだ。

2. 収入を改善、増加させるための PAF の取り組み

コミュニティはあらゆる場所で職探しをし、また資本のある人々は patin fish を養殖したり、自分の庭にオレンジの木を植えたりした。

3. 生計に関する PAF の提案と提言

コミュニティは、以下の支援を提案している。

- ・ 肥料、他の木を管理するなど、農園の改善すること。
- ・ これまでなされた約束を実現するために、魚捕獲用の浮き網を支援、敷設すること。

H. NGO に対する PFA の意見

1. 訪れた NGO

Pulau Gadan コミュニティは、これまで支援団体、慈善支援団体、特に NOG など何の支援も行っていないと述べた。もし、リアウ大学がコミュニティと一緒に、これからのより良い生活を展望し、計画することができるなら、自信が湧き、そして楽観的になれると、コミュニティは考えている。

2. NGO を知っているコミュニティ

コミュニティは NGO をいくつか知っている。しかし、彼らは村長からは何の意見も聞いていないので、ただ彼らはコミュニティでなく、niniki mamak (村の長老) と会うためにだけやって来たのだと、コミュニティは考えている。

3. 移住地における NGO の存在

NGO は村の長老に会うために 1 回だけ訪問した。その NGO は、BUKIT Tinggi の Taratak である。

1.3 その他の確認事項

1. Pulau Gadan コミュニティは、PRA ミーティングの成果について質問した。
2. 様々の機関が訪れても何の成果も残さないでいることに対して、コミュニティは飽き飽きしているので、その会議で決定したことはできるだけ早急に実現すべきである。
3. これまでに大学はかなりの期間で問題の本質を知っているので、新移住地にある設備とそれを支える全てのインフラを再検討すべきである。
4. まだ支払われていない補償は、実際の金額が支払われるべきである。
5. 公営上水道、各家庭に対する MCK の提供、住居修理、農園。
6. 街灯の設置、農園に通じる道路の補修。

Pulau Gadang 村における問題解決の優先順位

番号	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	42	1	3
2	ゴム及ヤシ油農園	29	32	11
3	上水供給	4	34	15
4	電力	0	9	2
5	住居状態	2	2	2
6	MCK	0	2	4
7	道路状況	3	10	5
8	生計の手段	17	10	48
9	世帯の拡大	2	0	0
10	村の境界	2	0	0
11	実際の補償	4	4	0

PAF は、良く訪れるゴム園、市場、学校（小学、中学）、礼拝場所、診療所、村事務所などへ行くのにかかる距離、時間についての質問を受けた（図 1）。

1.4 PRA ミーティングの概要

- 1 . 従来型の土地設定の変化、コミュニティの社会経済的及び社会文化的側面の変化。
- 2 . 集団的農作業による社会構造は、現在、個人的農作業に変化している。
- 3 . ダムによるプラス面は電力普及などいくつかのがあるが、スマトラ・ハイウェイに通じる複数の手段が以前の村より近くなったと、PFA は考えている。マイナス面は、永続的な生計手段がないこと、同じ集団で家族のつながりが希薄になり、生活費が以前より高くなり、受け継いだ土地「Tanah Adat」が失われ、文化と伝統が変化したこと。
- 4 . 未解決の補償問題に関する争いを、人権に関する政治問題に利用しているグループがある。
- 5 . 新移住地の経済的困難の結果、生活様式が変化した。
- 6 . 新しい村の地形は以前の村と異なっている。
- 7 . PAF は、土地補償、上水供給、生計などはできるだけ早期に解決すべき問題であると考えている。

図 1 Pulau Gadang 村の重要施設までの距離

… 省略

2.0 KOTO MESJID 村 PRA ミーティング

村の名称 : KOTO MESJID
実施日 : 2002 年 3 月 10 日
時間 : 午後 2 : 00
議長 : DRS. YOSERIZAI (女性)

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. Ahma Rifai, SP, MP
 2. G ME. Manurung, SP, MP
 3. Ir. Sakti Hutabarat, Magr. Eon
 4. Ir. Lumen Mundi
 5. Desirwan, SH
- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) :
 1. Dr. Lucia Nugroho, MSc
 2. Ir. Bahan Suhendar
 3. Ir. Agust Siswanto

参加者 : 40 人 (会議参加者簿参照)

2.1 一般的事項

Koto Mesjid 村コミュニティとの会議は午後 2 時ごろ始まり、参加者は 40 人で、村役人、村の長老 (「ninik mamak」)、コミュニティリーダー、コミュニティ学識者など。女性も参加が予測されたが、実際にはなかった。日本 JBIC も参加。

一般的に言って、Koto Mesjid 村の生活は、コトパンジャン HEPP 開発の影響を受けた以前の村よりも良い。村人の主な職業は patin fish の養殖である。村の長老と養殖の責任者によれば、1 日当たり 2 - 3 トンの収穫である。しかし、全員がこの職業についているわけではない。PAF の中には、オレンジを栽培する人もあり、結果は順調。

人々は、この日の会議が生活を改善する成果もたらすことを望んでいる。また、近い将来、電力供給や道路舗装など村の社会・公共設備の実現を望んでいる。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

コミュニティの人々は、現在の状況は移転前の状況とかなり異なると感じている。その地域の環境は農園に適しており、また、稲作、魚養殖ができ適切な水供給があるので、以前の村より経済レベルを高める条件が備わっている。以前は、PAF は、「patin」fish を養殖していなかったが、市場性はとても有望である。一方、住居設備に不満があり政府の約束と一致しないと、PAF は考えている。

B. 移転による効果は水没前に計画されたが、結果的にコミュニティに不利益となった。

一般的に言って、水没前に政府がおこなった計画と約束は非常に素晴らしいもので、人々の状況を改善するだろうと思われていた。しかし、現実には約束のほとんどが守られなかった。現在行われている patin の養殖は政府の提案でなく、コミュニティの自発性によって提案され、周辺の低地地域を利用したものである。養殖は現在の主な収入源になっている。従って政府が村の灌漑施設を改善してくれることを、コミュニティは願っている。

C. コトパンジャンダム開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

- ・ 新しい村の小学、中学、高校に通うことができ、子供の教育レベルが高まった。
- ・ コミュニティに対する電力供給が可能になった。
- ・ 新しい村の道路は以前より主要道路に近くなり、輸送が容易になった。
- ・ 新しい収入源「patin」養殖は、家計に大きな助けとなっている。
- ・ Pasi Pangarayan 及び Pekanbaru へのアクセスが以前より近くなった。

2. マイナス面

- ・ 農園が収穫できず他の生計手段もないので、patin を養殖しない人々は収入が不十分と感じている。以前は水田を所有し、年間を通じて食料供給は保証されていた。
- ・ 慣習と伝統が廃れた。例えば、以前の村では特別の行事で年 1 回バッファローを殺していたが、新しい村では行っていない。以前は、儀式は非常に尊重されて保存されてきたが、なくなるかも知れないとコミュニティは心配している。

2.2 具体的事項

A. 土地補償

一般に多くの PAF は、土地補償が完了して満足していると述べている。以前の村にある離れた森林地など、補償を受けていないと土地があると述べている PAF もいる（全体で約 390 区画が補償を受けていない）。従って、その土地は補償を受けるのに適していないが、受けたら与えるべきだと主張している PAF もいる。

コミュニティは、墓地の補償と墓地移転の補償(墓地当たり 75,000 ルピア)を受け取っていない。また、「sialang」木（ミツバチの巣がある）も同じである。

1. 政府に土地補償要求を提出するコミュニティの取り組み

補償要求の取り組みは何もない。コミュニティは、コンサルタント、NGO、大学関係者など村を訪れた団体に対して土地補償問題を説明している。

2. 土地補償問題解決のための PAF 提案

土地補償問題に関して、PAF は土地がまだ補償がなされていないと述べている。補償の支払いは透明であるべきで、いかなる仲介者も介せず直接コミュニティに支払われるべきである。

B. 上水の供給

1. 原則的には、政府は新しい村で上水を供給した。ディーゼル電力のポンプで汲み上げ PAF の各世帯に供給された。しかし、貯蔵タンクは家から遠い場所に設置されていたので、村全体が利用できなかったわけではない。2年後、政府は経済援助を停止したので、コミュニティは運転費を払うことができず、機械が停止した。これに対し PAF は、自分で井戸を掘ってこの問題を解決した。これまでに、全世帯が自分で掘った井戸を持っているが、高地 (RTI) 世帯はまだ井戸を持っていないので飲み水を得ることはできていない。

1. コミュニティが上水を確保するために実施した取り組みは、丘陵地の山から長さ 2.5km 幅 3 インチのパイプで水を引いてくることである。

2. 上水に関するコミュニティの提案及び提言は、全世帯が上水を確保できるようにパイプを延長し、貯蔵タンクを備えることである。

C. MCK 設備（公共浴場とトイレ）

政府は、各世帯に MCK を提供することを約束していた。しかし、浴室と水設備は実際には提供されなかった。トイレはあっても不十分なもので、ほとんどのものが使われていない。

1. 政府は、機能していない MCK 設備を改善するため PPK（地域開発プログラム）を実施し、礼拝所に 2 つの公共 MCK を提供した。
2. コミュニティによると、現在までコミュニティの約 95%が自分の家にトイレをもっていない。村人のほとんどは、魚のいる池で用を済ませている。従ってコミュニティは、各世帯にトイレが提供されるよう求めている。

D. 電力の供給

1. 移転から 3 年後、コミュニティは政府が提供したディーゼル発電による電力を利用している。各世帯の計器の設置など、電力関連の設備が無料で設置された。コミュニティが支払うのは、電気代のみである。コミュニティは一般的に、電力供給に関して満足している。

にもかかわらず、コミュニティは全世帯への電力供給と街灯の設置を求めている。

E. 住居の提供

1. 住居の提供に関して、プロジェクトオーナーである政府は、セメントの下部構造で上部と壁が板で建てられた住むのにふさわしい半永久的住居を建設する約束をしていた。しかし、ダム付近に住んでいた PAF が移転した時には、新しい住居は床がセメントで塗られ、住むのに適切でない木造住宅だった。家の内外には、木の株が見えていた。また、電線も漏電していた。

この住居に関して、コミュニティはいくつかの提案をした。

- a. 住むのに適さない住居は撤去すべきだ。
- b. 新しい村に引っ越して以来、もともと Koto Mesjid にいた PAF は、360 世帯に増えている。故に、コミュニティは RSS ハウジングローンである住居開発ローンを BTN に要求する。

F. ゴム園

1. 政府は、コミュニティが新しい土地に移転した時、収穫の準備ができたゴムの木を提供することを約束していた。しかし、実際には、約束されたゴム農園は植林されておらず、ゴムの木はなく、ましてや収穫どころではなかった。さらに、ゴム農園は 1999 年に作られたもので、村から遠く、そこへ通じる道路事情が悪く、行くのが困難だった。
2. ゴム園に関連する問題を解決するためコミュニティが要求した提言は、ゴムの支援を無料で受けたり、費やした資金の返済を受けている他の村と同じような待遇を受けることである。分水地点にある土地は、本土に移すべきである。またもし可能なら、ゴム収穫の準備が整うまで生活費手当て (Jadup) が支給されるべきである。
3. PAF は、ゴム園に関して、他の収入源を確保するために生産物を多様化するように求めている。

G. 収入

Koto Mesjid 村コミュニティの生計手段は、新しい土地に移転する前には農業、漁業、薪や岩の採取など様々な活動や資源があった。新しい村では、生計の主な手段は patin 養殖と農園労働である。魚の値段が上がるなら、以前に比べて収入ははるかに良い。

コミュニティによると、新しい村の生活費は特に交通費などがかなり高く、また日用品も高いので、村の外で買わなければならないほどだ。

0.4ha の土地を最大限に利用するには資金が必要であるが、そうすることによって収入を増やすことができると、住民は提案している。

また、他の移転した村と同じ扱いを受けることをコミュニティは要求している。例えば、道路の整備と補修、農園維持のための割り当て額、日常手当ての支給、寄付金の支給などである。

H. NGO

LSM patriot & LSM BMT Pekanbaru など、いくつかの NGO が、コミュニティ支援を行っている。しかし、コミュニティは、NGO からは何の利益も得られていないと感じており、大学が支援してくれると信じている。

2.3 その他の確認事項

1. コミュニティは、本会議が今後の活動につながることを望んでいる。
2. 会議の中で、誰かが Taratak Kampar NGO であると自己紹介し、コトパンジャン HEPP 水没の犠牲者である Tigabelas Koto Kampar のために支援していると述べ、日本で取った自分の写真を紹介した。
3. 会議では、まず下記の3点を解決すべきであることが指摘された。
 - a. 支払いが実施されていない土地に対する補償。
 - b. 各世帯への上水供給と、池に水を供給すること。
 - c. ゴム農園の収穫の準備ができるまでの農園維持費と生活資金。

Koto Masjid 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	2	1	0
2	ゴム及ヤシ油農園	5	12	5
3	上水供給	2	4	0
4	電力	0	0	1
5	住居状態	0	2	4
6	MCK	0	0	1
7	道路状況	4	5	9
8	生計の手段	17	3	4
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝場所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、PAF は質問を受けた。（図 2）

2.4 PRA ミーティングの概要

1. 他の村とは異なり、新しい村では経済状況を改善していく機会が以前の村に比べて恵まれていると、PAF は述べた。
2. ダムがもたらすプラス面は、教育施設が以前より整っている、電力供給がある、主要道路網に近い、新しい収入源の機会があるなど。主なマイナス面は、水田が自分たちの米の需要を十分に満たすことができず、習慣や伝統の衰退に直面していること。
3. 土地補償は、この村では唯一あまり重要でない。
4. 政府が提供する上水供給と MCK は、不満足である。これまでにほとんどの世帯が自家用の井戸を掘り、またほとんどの世帯にトイレがない。

- 5 . PAF は、電力を政府から無料で提供されている。他の村と異なり、この村の PFA は電気供給に満足している。
- 6 . PAF によると、政府は住居とゴム農園の提供をするという公約を履行しなかった。
- 7 . PAF による解決すべき問題の優先順位は、生計、ゴム農園、道路状況の順である。

図 2 Koto Mesjid 村の重要施設までの距離

… 省略

3.0 RANAH SUNGKAI 村 PRA ミーティング

村の名称 : RANAH SUNGKAI
実施日 : 2002 年 3 月 11 日
時間 : 午後 3 : 00
議長 : DRS. YOSERIZAL (女性)

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. Ahma Rifai, SP, MP
 2. G ME. Manurung, SP, MP

- ・PT. Bit a Bina Semesta (BBS) :
 1. Ir. Agust Siswanto
 2. Ir Bahan Suhendar

参加者 : 198 人 (会議参加者簿参照)

3.1 一般的事項

会議は午後 3 時ごろ始まり、参加者は 198 人で、村役人、村の長老 (「ninik mamak」)、コミュニティリーダー、コミュニティ (男女) と若者、コトパンジャン HEPP プロジェクトの被害を受けた子供たち。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

現在の状況は移住前とかなり異なっていると、コミュニティは感じている。特に地域の状況で、以前の村の生活に比べると、プランテーション、稲作、漁業、上水供給など経済成長が見込めるほど十分である。移転前には、土地が狭いなど地理的状況や PLN からの電力供給もなかったので、経済的に成長することが困難であった。従って今でも、子供が夜間に電気を使うことはできないと感じている。

移住後、その他のコミュニティに対する影響は、住居の状態は政府の約束に合っておらず、衛生設備も不適切である。

B. 移転による効果は水没前に計画されたが、結果的にコミュニティに不利益となった。

一般的に言うと、政府が水没前に立てた計画と公約はとても素晴らしいもので、人々の状況を改善するはずだった。しかし、実際はほとんどの約束が履行されなかった。人々の生活は悲惨になり、特に主な職業がなくなった。

また、約束ではゴム園は収穫の準備ができていたはずだったが、新しい村に入るとゴム園はなく、ゴムの木は 1999 年に植えられたものだった。また、水を確保するのに支障をきたし、村道を照らすための電気もなかった。

C. コトパンジャンダム開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

コトパンジャン HEPP プロジェクトがコミュニティに与えたプラス面：

- ・以前にはなかった Tandum Rohul 地域に通じる道路がある。
- ・村道はまだ街灯がないが、各世帯に電力が供給されている。
- ・新しい制限付き開発プロジェクト：農林プロジェクトなど。

2. マイナス面

コトパンジャン HEPP によるマイナス面：

- ・以前は水田があり、年 2 回収穫できた。収穫が少ない時も、生活ができた、H.Rusli は言う。しかし現在、何も頼るものがないので、年中米を買わなければいけない。
- ・H.Rusli の話に他の人も同意した。現在の状況は以前より悪い。以前は、ゴムの木を植えて子供たちを大学にも行かせることができた、現在は、子供を Gngkinang の高校に行かせることもできない。

3.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 以前、政府は Kampar Regency の代表を通じて、コミュニティの土地全部に対する補償を約束した。それは移住前に述べられたもの。しかし、その約束は期待通りのものではなく、これまで全ての土地が補償を受けているわけではない。

これまでコミュニティが受け取った土地補償に関する意見は、以下の通り。

- a. コミュニティがこれまで政府から受け取った補償は、金額の合計が少なすぎる、また受け取るよう強いられたものであることから、コミュニティはそれを再度検討するよう要求している。その補償は：

- ・補償額は、庭は 700 ルピア/m²、畑 30 ルピア/m²、ゴムの木 2,500 ルピア/本だった。
- ・ドリアンの木は年中収穫でき、時々販売もしたが、1 本当たり 6,000 ルピアで見積もられた。ドリアンの果実は 1 個 3,000 ルピアで販売されているので、これはコミュニティの大きな損失である。

- b. 数人の住民が、補償を受けていない自分の土地について尋ねた。
- c. 日本政府または OECF が作成した土地補償表はインドネシア政府または Kampar 地方政府が決めたものと同じかどうか、コミュニティは尋ねた。

2. 土地補償要求を政府に提出するコミュニティの取り組み。

コミュニティは、土地補償論争を進展または解決するための政府取りくみについて尋ねた。PAF は Kampar Regency 政府機関に要請または要求したが、結果はまだ得られていない。

3. 土地補償問題を解決するための PAF の提案

会議は、参加者の約 75% が土地補償価格の再検討を要求することに同意し、20% の人が土地補償に関心がなく、経済を改善するよう政府に要求している。

B. 上水の供給

政府は、各世帯に井戸で上水を供給すると約束していた。しかし、実際には井戸はあったものの、あまりにも浅いものだった。村のほとんどはこの井戸を使うことができず、さらに深い井戸を掘ったり、雨水を溜めたりして水を確保している。

1. 上水供給改善のための政府の取り組み

上水供給を改善するための政府の取り組みはとても不十分だと、コミュニティは感じている。従って、コミュニティは川から水を確保したり、また自らの資金で井戸を掘ったものもある。

2. コミュニティの提案と提言

少なくとも 2 世帯ごとに 1 つのポンプ式井戸を掘ることを、コミュニティは提案している。

C. MCK 設備（公衆浴場とトイレ）

- 1. 政府は、各世帯に MCK を提供すると約束した。実際には、浴場とトイレ設備は提供されなかった。トイレはあったが、不十分でほとんどのものが機能を果たしていなかった。

PAF の約 50%にトイレがなく、川を利用したり、穴を掘ったり、またビニール袋を使用してそれを処分している。

3. 政府の取り組み

政府はこれまで機能していない MCK 施設を改善または修理するために何の取り組みも努力もしておらず、何らかの対策が採られなければならないと、Ranah Sungkai 村の人々は感じている。

4. コミュニティの提案と提言

この問題を真剣に検討し支援されることを、コミュニティは期待している。

D. 電力供給

1. 政府公約と実現

政府は、コミュニティが新しい住居に移転した時には、各世帯に電力が供給され、取り付け料も使用料も無料であると約束（口頭であったが）しており、電力は重要な問題のひとつである。実際は、電力は移住期間内に供給されなかった。従って、コミュニティは 2 年待たねばならず、各世帯は、取り付け料として 150,000 ルピアと月々の使用料が請求された。結論として、コミュニティは、登録し、支払いをし、待って電力供給を受けることができ、扱いは他のコミュニティ（都市部など）と同じである。現在、PAF の約 50%の世帯に電力供給されている。

2. 電力問題を改善するための政府の取り組み

この村の電力問題を改善するための政府のこれまでの取り組みは、非常に不十分であると、コミュニティは考えている。

3. コミュニティの提案と提言

コミュニティは PLN に対して、電力使用コストの削減、村道への街灯設置などの電力サービスを受けるためにロイヤリティーを求めている。

E. 住宅供給

1. 政府公約とその実現

政府は、住むのに適した下部構造がセメントで上部構造が木造の半永久的住居を建設する約束をしていた。しかし、現実には：

- a. 住居は木造（一次しのぎ）で一時的避難所と、コミュニティは考えている。

- b. 屋根には、使用が強く禁止されているアスベストが使用されている。PAF のほとんどは、波型鉄板の屋根を望んでいる。
- c. セメントで塗り固めた床は、ごみなどと混じって状態は非常に悪い。

2. 状況を改善するための政府の取り組み

コミュニティは移住の時から不満を述べているけれども、政府は以前の約束に従って住居状態を改善する取り組みを何もしていないと、コミュニティは感じている。

3. コミュニティの提案と提言

政府は適切な住居を提供すべきで、自分の家を修理した人には相当の補償をすべきであると、コミュニティは提案している。また、各世帯の修理費はそれぞれ 500 - 1,000 万ルピアである。

F. ゴム及びパーム油農園

1. 政府の公約とその実現

政府はコミュニティが新しい土地に移住する時には、PAF 当たり 2ha のゴム園と収穫の準備が整ったゴムの木を提供すると約束していた。しかし、現実には、約束されたゴム園はまだ植林されておらず、ゴムの木はなかった。収穫の準備ができたゴムの木は実際にはなかった。それから 5 年たって、ゴムの木が植えられた。

ゴム園は移転前にはコミュニティの主な収入源だったので、重要な問題である。現在のゴムの木は 1 - 2 年物で、ゴムの液体を収穫できるのに後 2 年が必要である。庭が水没していない家の村人数人は、生活必需品を満たすことができるので前の村に帰っている。ほとんどの村人は、生き残るために何かしなければならぬ。ゴム園は村から 2 - 4km 離れているので、特に雨季には不便である。従って、コミュニティは政府に道路の補修を要請している。

2. 政府の実施した取り組み

ゴム園を改善するために政府が取った取り組みは、肥料の供給、管理、1 年分の生活費手当てである。

3. コミュニティの提案と提言

コミュニティは、ゴムの木の収穫の準備ができるまで生活費手当てを支給することと収穫準備に必要な設備を提供することを提案した。

G. 収入

1. Ranah Sungkai 村のコミュニティは、移転前にはゴム園で生計を立てていた。新しい村では、状況が変化し生計手段も変化した。ダムで魚を採っているものもいる。水域が広がったので、魚の数が増えた。しかし、捕獲しすぎたために魚が減少している。他の生計手段はガンビールの木で、移住した時に植えられたが数が限られている。FAP は、村の外で農園労働者、ポーターなどの仕事を探そうとしたものもいる。
2. コミュニティが収入を増やすため実施した取り組みは、Tandun Pasir Pangayan など他の地域にある畑で働くことである。
3. コミュニティは、ゴムの木が収穫の準備ができるまで、生活費手当て (jadup)、畑の管理などを要求した。

H. NGO

1. NGO の関与

NGO やその他の団体はこれまでに、生活を改善するための支援を行っていないとコミュニティは感じている。しかし、NGO はコミュニティの熱意と戦うことに寛容であったので、一般的にはいい印象である。NGO が非現実的約束をして、コミュニティに争いを引き起こしたので、マイナスイメージを持っている村人もいる。にもかかわらず、UNRI が支援とアドバイスを提供するために訪問したことを、コミュニティは歓迎している。

2. NGO 活動

コミュニティは、自分たちの村で NGO がこれまでどんな活動をしているか知らない。

3. NGO やその他の団体が他の村で活動していることは見た事があるが、自分たちとは接触していないと、会議の参加者は述べている。

3.3 その他の確認事項

1. 数人のコミュニティ指導者は、自分たち自身とコミュニティを向上させるため、この会議の確認事項に関しての今後の具体的計画について尋ねた。
2. コミュニティは、UNRI がニーズを追及し、積極的に支援するよう望んだ。
3. アンケートの結果得られた優先的に解決すべき 3 事項は、下記の通り。
 - a. 土地補償。十分な基準に沿って見直すべき。
 - b. 生活を改善するための代替の生計手段。
 - c. 村の境界。

Ranah Sungkai 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	96	7	1
2	ゴム及ヤシ油農園	3	5	0
3	上水供給	3	1	4
4	電力	0	2	0
5	住居状態	70	31	26
6	MCK	1	3	10
7	道路状況	1	7	8
8	生計の手段	22	105	25
9	世帯の拡大			
10	村の境界	4	30	115
11	実際の補償	0	0	0

PAF は、良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図 3）

3.4 PRA ミーティングの概要

- 1 . PAF は、自分たちの生活を経済的困窮に追いやった移住プロセスに腹を立てている。
- 2 . 土地補償、水供給、電力供給、住居提供に関する政府の約束は不満足なものだった。
- 3 . 生活の糧となるゴムの木は存在しなかった。
- 4 . PFA のほとんどが、現在の経済状況は以前より悪くなったと感じている。
- 5 . 政府がいい政治的意思を持っていようがいまいが、ダムへ通じる道路は便利であるべきだ。従って、PAF は keramba fish を養殖し、市場に出す訓練を受けるべきだ。
- 6 . PAF による問題解決のための優先順位は、土地補償、生計、村の境界の順である。
- 7 . コミュニティリーダーの幾人かが、彼ら自身とコミュニティの向上のため、この会議の結果に関する今後のより詳しい計画について質問した。

図3 Ranah Sungkai 村の重要施設までの距離

… 省略

4.0 LUBUK AGUNG 村 PRA ミーティング

村の名称 : LUBUK AGUNG
実施日 : 2002 年 3 月 15 日
時間 : 午前 9 : 00- 11 : 15
場所 : Musholla (Lubuk Agng 礼拝所)
議長 : DRS. YOSERIZAI (女性)

チームメンバー

リアウ大学 (UNRI) : 1. Desriwan. SH
2. G ME. Manurung, SP, MP

・PT. Bita Bina Semesta (BBS) : 1. Dr. Lucia Nugroho, MSc., DEA
2. Ir. Agust Siswanto

参加者 : 90 人 (会議参加者簿参照)

4.1 一般的事項

会議は午前 9 時から 11 時 15 分まで、参加者は 90 人で、村長、村役人、イスラム教聖職者・指導者、村の長老(「ninik mamak」)、知識人、若者、女性。会議は UNRI のチームが開会し、この会議の目的はコトパンジャン HEPP プロジェクトの社会経済的及び社会文化的影響に関して人々の意見を理解することであると説明した。議題に入る前、なぜリアウ大学は前もって自分たちを訪問しないのかと、コミュニティからの質問があった。コミュニティが新しい村へ移転してから、UNRI は彼らにほとんど関心を示してこなかったし、コミュニティはコトパンジャン HEPP 開発によって多くの苦しみを経験した。これに対してチームは、学生のフィールドワークやコミュニティサービスプログラムで支援を行うために、実際にリアウ大学が訪問していると答えた。最後に、コミュニティはその訪問に感謝した。村長が開会を宣言し、歓迎の言葉を述べ、同時に参加者に礼儀正しくするよう求めた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

PAF はもともと西ジャワで、Saguling HEPP 開発で移転させられたコミュニティを直接観察するための比較研究の対象となった後、現在の場所に移住させられた。研究結果によると、Saguling のコミュニティは移動が自由で、全ての財産が補償されたが、コミュニティの生活の質は改善されず、実際、自分財産を所有することができなかったものもいた。コトパンジャン HEPP 開発にともなう移住に関しても、PAF は財産も補償され、電力などのような公共設備と同じく住居やゴム園も提供されるとも本理解していた。故に、PAF は移住を決定した。

一般的に、コトパンジャン HEPP 開発の結果として Lubuk Agung の PAF に起きた問題は下記の通り。

- 1 . でこぼこで険しい地形の道路、これに対し、以前の村は比較的平坦な場所にあった。従って、現在の土地を耕し農業を行うのは難しい。PAF によると、農地で穀物や米を栽培していた以前の村の生活に比べると、現在の生活はとても悲惨である。
- 2 . 現在の土地はでこぼこしている地形なので、PAF の多くは比較的平坦な場所にあるコミュニティの土地 (tanah ulayat) へと移動を余儀なくされた。従って、丘陵地にある住居は解体され、tanah ulayat に移転させられた。ここでは自然災害に対しても十分持ちこたえられ、農業用の水も確保できる。
- 3 . PAF の中には、政府が土地と苗木に支払った補償は、日本による予算枠のわずか 10% で、同意した額に見合っていないと信じている者もいる。従って、PAF にとって価格は不適切で失望的なものである。
- 4 . 上水、入浴、洗濯、トイレ用の水の供給は、予想と約束からかなりかけ離れたものである。PAF が新しい村に到着した時、そこをセメントで固めた井戸が 3 - 4 戸当たり 1 つあった。当然、1 週間後に井戸は枯れた。
- 5 . 住居の状態は基準以下だったので、PAF は修理を要請した。政府はこれまで、以前の村にあったような半永久的構造の住居を提供すると約束した。しかし、PAF は実際見たのは、3cm 厚さのセメント床で木の株がむき出しの住居だった。補償金で基準以下の住居を修理するために使われたが、新しい事業の資本として使われるべきだったろう。
- 6 . 政府は、PAF が 3 年で収穫できるゴム園を提供すると約束した。しかし、これまでこれは実現していない。
- 7 . 新しい村の補償、地形、水質、住居の質など全てが、予想と政府の約束以下であった。
- 8 . 以前の村の生活と比較すると、政府が約束した生計手段 (ゴム園) が実現されていないので、新しい村の Lubuk Agung PAF の状況はかなり悲惨である。従って、PAF は生き残りのために、他の村またはその地区の外で雇用労働者として働いたり、商売をするしかない。

B. 移転前に計画された移転による効果は、結果的に子イミュニティーに不利益になった。

政府は、Lubuk Agung コミュニティの生活は移住によって改善され、特に収入と支援施設が特に改善すると約束した。しかし、実際 PAF が新しい土地に移転すると、政府の PAF に対する約束のいずれも果たされていなかった。

PAF がいままで受け入れないままになっている問題は、土地補償、住居の状態、ゴム園、上水施設、MCK 施設である。彼らが新しい土地に移転した時、土地には草が生い茂り、住居状態は約束とはるかに異なったので、自分の家を探すのが非常に困難だった。PAF が見つけたのは半永久的住居どころか、木の切り株が残り、厚さ 3cm の荒いセメントで塗られた床の家だった。

状況は約束によって予想される以下だったので、PAF は特に土地と農園の補償に関して不満で、失望している。

C. コトパンジャン HEPP ダム開発によるプラス面

1. Lubuk Agung PAF が移転してからこれまで得た利益のプラス面は、道路である。以前の村では、村を離れるのに小さなボートを利用しなければならなかった。現在は、車を利用している。
2. 家庭で電気が利用できる。

D. コトパンジャン HEPP ダム開発によるマイナス面

新しい場所における、PAF に対するマイナス効果：

1. 土地と植物に対する補償額が低すぎて、不適切であった。
2. 農法が変化した。以前の村は比較的平坦な土地であったが、新しい土地は土壌が痩せて、でこぼこしている。
3. 政府が約束していた収穫の準備ができたゴム園は真実でなく、安定した生計と固定した収入を確保することが困難である。
4. 政府が約束した住居は住むのに適さず、MCK は利用できず、上水の確保が難しい。

5. 家族があちこちに点在し、家族の絆が変化した。これにより、社会的構図、特に村と以前の村にいる親戚の関係が変化した。

4.2 具体的事項

A. 土地補償

1. PAF が受けた土地補償

PAF が受けた補償に対する様々の問題

PAF は、前の土地に対する補償を受けられると認識していた。しかし、支払われた総額は日本側による補償表の 10% しかないと考えている人々がいる。従って、PAF は、補償の総額は不適切であり、残りを政府が受け取っていると考えている。

コミュニティが受け取った補償総額の例。

- ・水田 = 500 ルピア/m²
- ・畑 = 30 ルピア/m²
- ・中庭 = 500 ルピア/m²

PAF によると、まだ補償を受けていない墓地と 3 区画がある。PAF は設定額(日本側による)の 10% しか支払われていないと考えているので、政府その他の仲介者なしで残りの額を直接支払うよう要求している。過去の経験では、補償の多くは仲介者もなく、BPN (Badan Pertanahan Negara または国土庁) 職員の自宅で決定された。

2. 補償問題を解決するため PAF が実施した取り組み

Lubuk Agung PAF は Batu Bersurat 村の一部を代表しているが、これまで補償問題を解決するためになんと取り組みも行っていない。故に、PAF は補償問題を解決するために、前の村の協力を求めなければならない。これはむしろ難しいことだ。この会議を仲介として、同意された契約(日本側による補償表)に従って補償 100% を支払われなければならない。PAF はこれまでに補償問題を解決して本来の権利を獲得するために、法的手続きをしていない。

3. 土地補償問題に関する PAF の提案と提言

補償問題を解決するために PAF が提出した提案と提言は、以下の通り。

- ・ まだ支払われていない補償の額は、PAF と政府が同意した額に一致するものでなければならない。また、補償を受けた土地の全てに対して実際の額を支払わなければならない。
- ・ 再度支払いがなされるなら、仲介者なしで行うよう PAF は要求する。

B. 上水の供給

1. 政府が約束した上水供給に関する PAF の意見

PAF が新しい村に移転する前、飲み水資源と MCK は、Batang Kampoar 川だった。新しい場所では、上水設備で各世帯に供給することを、政府は約束していた。しかし、上水設備はそれまで約束されたものと同じ設計でなく、使用されなかった。従って、PAF は家から 100 - 200m 離れた小さな川や沼から家庭用の水を手に入れなければならなかった。

2. 上水設備を修理改善するために政府が実施した取り組み

PAF が新しい場所に移転すると、3 世帯ごと深さ 3 - 4m で雨水が溜まる井戸が提供された。しかし、AFP はその設備を使用せず、近くの川から水を手に入れた。新しい場所で 4 年が過ぎ、政府は小さいダムを建設した。しかし、この取り組みは成功せず、利用されなかった。現在、政府は、要望に沿った新しい場所の地形に合った新しい上水設備を建設している。新しい設備はまだ正式に動いていないので、PAF は川の水を飲み水、洗濯、トイレ用にいまだに利用している。

3. 上水に対する PAF 提案

PAF は、各世帯に新しい上水設備を設置し、共同利用のタンクを道路沿いに建設することを提言した。

C. MCK 設備

1. MCK 設備に関する政府の約束

政府は MCK 設備に関して何の公約も決して行っていないことを、PAF は認めている。しかし、通常そのような設備は政府が提供する住居設備の一部であると PAF は考えている。

各世帯に提供された MCK 設備は、家から 10m 前後にある汲み取り式トイレである。1m 四方を厚板と波型鉄板で覆い、屋根は波型鉄板である。流す水がないので、トイレは悪臭し、衛生的に好ましくないので利用できないと PAF は考えた。最終的に PAF は、川や地面に掘った穴やビニール袋で排便し、後で家の近くの藪に捨てることを決めた(仮の水洗トイレとは、PAF が使った言葉である)。そのような状況は、健康や子ともに悪い影響を与える。新しい土地では、胃腸関連の疫病が増加している。

2. MCK 改善の取り組み

政府はこれまで MCK を改善するための取り組みを何も行っていないので、PAF は今でも川を利用している。PAF の資力がある人は、自ら MCK を作ったり、現在の MCK を修理したひともいる。しかしほとんどの PAF は、補償金を家の修理に当てたのでそれができない。

3. MCK に関する PAF の提言

Lubuk Agung PAF は、政府に対して各世帯に適切な MCK を提供することで衛生上適切な MCK を設置するよう求めている。

D. 電力供給

1. 電力に関する政府の約束

政府はこれまで、PAF は電力が無料で利用できる家に住むことができると約束していた。しかし現実とは異なった。政府が必要な全ての電力設備は提供すると約束したが、全くのうそであったので、PAF は非常に失望した。

電力がないので灯油ランプを使用しており、一方前の村ではすでにジェンセット社 (genset) の電気を利用していた。

PAF が新しい村に移転してから 4 年後、ついに電力が供給された。だが、PAF は設置と接続料の支払いを求められた。900 ワットの場合、接続料と 3 箇所の設置料で 450,000 - 1.300.000 ルピアだった。しかし設置と接続のためには、長い間順番を待たなければならなかった。

現在、村の電力ネットワーク全てには必要な電線が揃っているが、村の生計は非常に困難なので、PAF 全てが個人の家に接続できるわけではない。

2. 電力供給のため政府が実施した取り組み

PAF が新しい村に到着して 4 年後 1997 年、村には電力が供給された。しかし、PAF は電気料を支払わねばならず、個人の家に電気を接続するには長い間待たねばならなかった。

3. 電力供給に関する PAF の提言

街灯は月々の電気料に含まれるので、村は街灯を備え付けるべきと PAF は提言した。

E. 住居

1. 住居に関する政府の約束

政府はそれまで、新しい村では PAF に対し半永久的住居を提供することを約束していた。しかし実際、住居構造は 3cm の厚さのセメント床の木の株が突き出た構造で、とても失望するものだった。PAF はだまされたと感じた。さらに、移住地は水資源が遠く、MCK もなく、主要道路から離れ、丘陵地に建設されているので、PAF はひどい扱いを受けたと感じている。

その場所はもともとの約束に沿っていないので、自分の家を解体したり、高速道路により近い場所に引っ越した PAF もいた。

2. 住居の質を改善するために政府が実施した取り組み

これまで、政府は住居の質を改善するためになんの取り組みも行っていない。それどころか、PAF は、政府が提供した住居を放棄したり、解体したり、また水資源、村道、電力ネットワークに近いより適切な場所に再度移転した人もいる。

3. 住居に関する PAF の提言

政府は丘陵地にある住居をもっと適切な場所、つまり水や交通手段に近い場所に移動させるよう、PAF は提言している。さらに、新婚家庭は別に住居を提供すべきと、PAF は求めている。

F. ゴム及びパーム油園

1. 農園の提供に関する政府の約束

政府はもともと、新しい村では収穫の準備が整っている 2ha のゴム園を提供することを PAF に約束した。しかし、それは中味のないうそであった。新しい場所には、何の農園もなかった。

2. 農園改善のために政府が実施した取り組み

新しい村に移転して以来（1995 年）、PAF が約束されたゴム園を手に入れるため様々の取り組みを行った後の 1998 年、政府はついに各世帯に支援をおこなった。それは、2ha の土地、苗木、肥料、農薬、合計 1,060,000 ルピア/ha の維持費などである。維持費には、伐採、植林の準備、植林、肥料散布、害虫の駆除などが含まれる。現在、木は 3 年育っている。

3. ゴム園に関する PAF の提言

PAF は、ゴム園がない時期の 1995 年から 1998 年または 3 年間で 2ha 分のゴム収穫額に相当するお金を支払うよう要請している。さらに、生活費手当または Jadup を、現在 3 年育ったゴムの木が生産できる時期まで提供するよう要請している。

G. 収入

1. 新しい場所での収入源に対する PAF の考え

政府が主な収入源であると約束したゴム園が実現しなかったため、PAF は新しい場所に移転した後、他の村のゴム園労働者またはきこりなどの仕事をして生計を立てた。政府の約束が守られていないので、現在 PAF の生活は非常に苦しい。したがって、PAF は決まった収入がなく、子供たちの教育に影響を及ぼし多くの子どもが学校を辞めている。

以前の村と比較すると、生活は非常に苦しい。以前の村では、ゴムの木からゴムを採取したり、漁をしたり、稲を育てたり、農業をして生計を立てていた。現在の場所では地形が荒く、農業に適しておらず、湖からも遠い（漁のため）。

2. 収入増加のための PAF の取り組み

収集を増やすために PAF が実施していることは、近くの村での労働、あちこちで職を探すこと、コトパンジャン湖で漁をすることである。しかし、湖は村から遠く、家族を養うのに十分な漁はできない。

3. 収入増加に関する PAF の提言

収入増加のために Lubuk Agung PAF による提案と提言は、下記のとおり。

- ・ 湖で漁をする機会が増えるように、湖に通じる道路を補修する。
- ・ 浮き網など、漁に対する技術的及び経済的支援を行う。
- ・ 村の移住と住居設計は、経済活動を促進するために改善すべきである。
- ・ 「Jadup」または生活費手当への支給は、ゴムの木の生産体制が取れるまで延長する。

H. NGO

Lubuk Agung PAF は、これまで NGO の訪問を受けたことがない。UNRI やコンサルタントチームの訪問では、コミュニティは初めて自分たちの苦しみを伝える機会となった。

4.3 その他の確認事項

Lubuk Agung 村に関するいくつかの特別事項：

- ・ Lubuk Agung の PAF は、会議で自分たちの苦しみに対する解決策が見つかることを希望している。
- ・ もともと提供された多くの家が解体され、道路や上水設備のある場所に移転した。
- ・ UNRI はどうして今だけ、コトパンジャン HEPP 開発による経済的困難に対する解決策を探るため、Lubuk Agung の PAF を支援する提案をするのか」と、PAF は会議中に尋ねた。

会議では、3つの課題が下記の優先順位で解決すべきだとした。

1. 補償は実際に適切な額が支払われるべきで、仲介者または政府の介入なしで直接関係者に支払うべきである。
2. 収入増加のための雇用と事業の機会。
3. 新婚家庭には住居を提供すべき。

全体の優先順位を示したものは下記。

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	112	4	6
2	ゴム及ヤシ油農園	0	9	2
3	上水供給	0	0	1
4	電力	0	1	0
5	住居状態	0	3	3
6	MCK	0	0	0
7	道路状況	0	0	0
8	生計の手段	9	112	5
9	世帯の拡大	0	66	7
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	1	4	21

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝場所、診療所、村事務

所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。(図4)

4.4 PRA ミーティングの概要

- 1 . Lubuk Agung 会議の結果は、移転前に約束された上水供給、MCK, 電気、住居提供の多くは、予想どおりに実現されなかった。
- 2 . 政府が PAF に支払った補償は、日本側が設定した予算枠のわずか 10%であったと信じている PAF もいる。
- 3 . Lubuk Agung の PAF は現在の場所がでこぼこで険しい地形であると不満を述べている。つまり、地すべりの恐れがあり、土壌が痩せていて、また水資源が何もない。
- 4 . PAF は政府が提供した住居を去り新しい場所に移転するか、もっと他のいい場所を探すことを選んだ。これは子供の学業にも影響を与え、多くが学校を途中で止めている。
- 5 . 政府の約束したゴム園は虚言で、新しい場所には何の農園もなかった。
- 6 . 政府が約束したほとんどが守られなかったので、PAF にとって現在の生活はかなり厳しい。
- 7 . PAF によると、土地補償、生計、生活費手当ての 3 つが早急に解決すべき問題である。

図 4 Lubuk Agung 村の重要施設までの距離

… 省略

5.0 BATU BERDURAT 村 PRA ミーティング

村の名称 : BATU BERSURAT 村
実施日 : 2002 年 3 月 6 日
時間 : 午後 7 時 30 分 - 10 時 30 分

議長 : DR. SUARDI TARUMUN

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. GME. Manurung, SP, MSi
 2. AHMAD Rifai, SP, MP
 3. Ir. Lumen Mundi

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS):
 1. Ir. Agust Siswanto
 2. Suyono, SH
 3. Ir. Agus Darsono
 4. Ir. A. Rachman Sabiro

出席者 : 46 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

5.1 一般的事項

会議は、村役員、LKMD、農業従事者代表、nirik mamak (村の長老)、コミュニティおよび宗教指導者、女性および若年層を含む 46 名ほどが列席して午後 7 時 30 分から 10 時半にわたり、村の公会堂で開催された。会議の冒頭に UNRI チームによる同会議の目的についての説明を含めた声明、UNRI および BBS 双方の調査チームのメンバー紹介があった。その後、村長が簡単な歓迎の辞を述べる機会を与えられた。

同コミュニティは、NGO で構成された一団または他の組織が、情報収集やコミュニティの状況についてのデータ収集に訪れたが、今日まで、コミュニティが提供した情報およびデータから何の成果も得られなかった、よって、今回の会議が彼らの元の村からの移住問題、とりわけ土地の補償問題の打開に寄与するよう望むと述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

一般に同村コミュニティは、政府に騙された被害者であると感じている。政府の約束は何も実現されなかったということがほぼ全員の一致した意見である。かくてコミュニティはもはや政府に信頼を置いていない。

Batu Bersurat は Tiga Belas Koto Kampar の小管区の首都である。よって、支援設備およびユー

ティリティは同地域の他の村々よりましである。コトバンジャン・水力発電プロジェクトによるプラスの効果には、Batu Bersurat 村が州道の近く（およそ 3 km）に位置しているため、物流が活発になったことがある。さらに、コミュニティには、電話を設置している家庭はほんの一部ではあるが、電話網のサービスを楽しんでいる。

同プロジェクトによるマイナスの効果には、ゴムプランテーションがまだ生産段階に至らないため、収入の減少がある。

5.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 政府の約束についての PAF の見解

PAF は、政府はその約束の 2 割しか守らなかったため、彼らを騙したと感している。とりわけ、彼らが土地の 1 平米毎の設定額を低すぎると感じたが、PAF は交渉に参加を許されなかった。一部の人は今日に至るも一銭の補償も政府から受け取っていない。未支払の土地補償金は同コミュニティの一部が受け取りを拒絶しているためだが、よって支払は保留になっている。しかし、PAF 全員が土地補償は不十分であり、常軌を逸しているとの点で合意している。家屋敷は平米 700 ルピー、果樹園は平米 30 ルピー、ゴムの木は 1 本につき、2,500 ルピーの賠償であった。コミュニティ全体がこれらの数字は異常だと考えている。政府は墓地の移転についても 7 万ルピーの約束をしたがこの約束は守られなかった。

2. コミュニティの、政府に対する土地補償請求申し立ての努力

今日まで、コミュニティの当問題解決の努力は政府および関連省庁と話し合いを持つことだったが、何の結果も出ていない。

3. 土地補償に関する PAF の提案および勧告

補償問題打開に向けた PAF からの種々の提案および勧告には次のようなものがある。

- ・未支払の補償額は、PAF および政府が合意した額に一致するべきこと。したがって、既に補償金を受け取った土地の全てについても実額で再支払なされるべきこと。
- ・再支払が実施される際には、仲介人の介入なしに実施されるべきことを PAF は要求している。

B. 上水の供給

1. 上水道に関する政府の約束

政府はこれまでに井戸の供給を約束したが、深さ 3 メートルの井戸は空で干上がっていた。現在のところ、Batu Bersurat 村では適当な上水源の存在しないために、上水問題は重大な問題である。地下水は少なくとも地下 20 メートルに位置するため、地下水の井戸を掘るには相当の資金が必要となる。コミュニティが新しい場所に移動してきた時、上水設備は何も利用可能ではなかった。換気には、井戸は干上がるので、コミュニティは家から遠く離れた水源を求めなければならなかった。湖の近くに住んでいるものは楽だったが、遠くのものにははるばる湖まで水を採りに歩かなければならなかった。湖の水を車で売りに来る行商人から買う者もあった。2 年ほど後に、政府が上水設備を建設した。水源は貯水槽 (PAM 様式) に収容された掘削井戸からの地下水で配管を通して各家庭へ分配した。しかし、井戸から出る水が利用に不適だったために、かなりの額 (10 億ルピー) の予算を投下したにもかかわらず、このプロジェクトはいつまでも終了せず、また利用もされなかった。Sumatera Barat の Tanjung Pauh 村と比較すると、この状況は全くひどいものである。同村では、僅かに 1500 万ルピー (Tanjung Pauh 村で調査を行っていた 1 人の日本人学生の寄付) で、多くの家庭に水を供給できる上水設備を建設することができたのだ。このプロジェクトの全面的な失敗があって、コミュニティは PAM 様式をまねた水設備の建設をもはや望んではない。コミュニティは、たとえ深く掘らなければならないとしても、各戸に井戸の建設を提案している。

2. コミュニティの努力

コミュニティが取った水問題克服の努力は自力で井戸を掘ることである。しかしながら、この策に頼ることができるのは手段を有する者たちで、そのような余裕のない者たちは湖に取りに行くか、もしくは雨水を集めなければならない。

3. コミュニティによる政府への提案は各家庭用の地下水井戸の建設か、あるいは少なくとも公共の掘削井戸の建設である。

C. MCK 設備

1. 政府の約束

政府は MCK 設備提供の具体的な約束は何もしなかったが、コミュニティは住居設備のイブとして当然それが含まれるものと理解していた。しかし、新居には風呂も洗い場もなかった。トイレは準備されていたが、使用に適したものではなかった。

現在のところ、約半数の世帯にトイレはなく、川を利用するか、または排泄物をどこにでもして埋めている。(中にはビニール袋に入れて近くの茂みに投げ込む者もいる)。政府が建設したトイレはほとんど、壊れたか、使用に不適なため、使われていない。

2. コミュニティの、政府に約束を履行させるための努力

コミュニティは Kampar の摂政に陳情して、政府の約束の実現を果させる努力をしてきたが、徒労に終わっている。それ故に、MCK 問題を打開するためには、手段のある者は自力で MCK を建設している。言うまでもなく、それはコミュニティの少数に過ぎない。他の者らは裏庭を使用せざるを得ない。

3. コミュニティの提案

総じて、コミュニティは各戸に永久的な水洗トイレを建設し、一方、風呂と洗濯場は共同でよいと提案している。

E. 電気の供給

1. 政府の約束

これまで政府は電気の供給を約束した。新しい住居ではスイッチを押すだけで灯りがつく。さらに、引き込みも無料で月々の使用料も無料だと。しかし、実際は、彼らが新しい村に移住した時電気は来ていなかった。コミュニティは、どの家にも電気があるまでに 2 年間待たねばならなかった上、家屋への電気の引き込みに、一戸につき 15 万ルピーを支払わなければならない。月々の使用料も請求されている。コミュニティは電気の接続のために列を作り順番をまたなければならない。PAF は電気の取得について他の人々(都市の住人)と同じ様に扱われている。即ち、申請し、支払い、長いこと待たされる。更なる問題は、現在彼らの電気料金の請求は以前より高くなっている。以前は電気のメーターを PLN がチェックしに来たことはないので、全員が一律の額払っていた。しかししばらくして、PLN がメーターをチェックした時、明らかに消費量は彼らの当初の予想を越えていた。それでコミュニティは支払増を強いられた。一般にコミュニティはそのような高額な請求を支払う余裕がなく、PLN に電流を断絶させないように脅かしをかけている。

2. コミュニティの努力

電気の供給に関して、PAF は電気獲得の努力は何もしなかった。運命にまかせているのだ。

3. 提案

コミュニティは今日までコトパンジャン水力発電プロジェクトによって今は冠水している土地を所有していたのであるから、電気料金支払から開放され、すでに支払った分は返還するよう提案している。彼らは自分達をロイヤルティの権利を有する利害関係者と考えている。故に無料の電気を享受することを許されるべきだとしている。

F. 住宅の供給

1. 政府の約束

これまで政府は 36 型半永久住宅、すなわち下半分はセメントで、上半分は適切な品質の木製の厚板製の住居を提供すると約束した。しかし実際に建てられた住宅は全体が木の壁で薄いセメント床がついたもので、使用に適さない。

2. コミュニティの努力

コミュニティは、特に屋根について政府に陳情した。当初はアスベストでできてきたが、人々が声高に訴えた後、波上鉄板に替えられた。

3. コミュニティの提案

コミュニティは、政府が半永久住居を供給するという当初の約束を守ることを勧告している。

G. ゴム / 油やしプランテーション

1. 政府の約束

コミュニティの主な収入源はゴムのプランテーションである。かくてプランテーションは重要な問題である。彼らの元のプランテーションの補償は通常価格に即したものではなかった。新しい場所に移るまえに、政府は新しい土地のゴム園は収穫ができるものであるか、少なくともほとんど収穫間近のもの（3年生）を準備すると約束した。しかし実際には、コミュニティはゴム園がどこにもなく、木さえ植えられていないことを発見した。一方、ゴムのプランテーション開発用資金は利用できたが、政府管理のプロジェクトは全くの失敗であった。

2. コミュニティの努力

ゴムが生計の主な源であるという事実およびコミュニティからの強い陳情（他の村々と協働してのデモ）に応じて、5年後の1999年に、リアウ州政府はゴムの植樹資金を提供した。現在、木々はわずか1-2年生で、コミュニティはゴムの収穫を始められるまであと3年待たなければならない。当該ゴムプランテーションプロジェクトは、資金提供以外は地域政府が参加せず、コミュニティによって管理されたので、比較的成功を収めている。ゴムプランテーションの開発の遅れは、コミュニティの困窮を作り出し、人々の心を傷つけた。日々の必要を満たすために、水に沈まなかったゴムの木が残っている元の村に帰る者もいる。コミュニティの中には、生き残るために、Bangkinangでのきつい労働や、隣接する西スマトラの村々で雇われ農夫になるなど、手に入る仕事なら何でも引き受けざるを得ない者もいる。

ゴム園に関して、同村は、ゴムの収穫が可能になるまで政府があと3年間支援を延長することを提案している。さらに、ゴム園事業の開発を政府が引き受けることを提案している。

3. コミュニティの提案

コミュニティはゴムの木がゴムを生産し始めるまで、生活費の供給を提案している。

H. 収入

1. 新しい居住地へ移住してからの彼らの収入

新しい村へ移住する前のコミュニティの収入源はゴムのプランテーション、ヤシ油（2x1年）、オレンジなどの果樹および牧畜であった。

新しい場所へ移住した後、その条件はもとの村とは全く違っていたので、彼らの収入源は変化した。職業を変えて湖（ダム）に魚を求めた。湖の水面が上昇したので、魚の量も増えた。しかし、現在は、魚の数および湖面が不十分な中で、漁をする人の数は多く、乱獲によって魚の数が減ってきている。他の生計手段は彼らが最初に移住してきたときに植えたガンビールの木があるが、数は極めて少ない。コミュニティの他のものはプランテーションの労働者、クーリー、違法な木材の伐採、建設作業員などとしてよそで仕事を求めている。会議に参加したPPLの一人（Hamdan）によると、Tigabelas Koto Kampar 地区の全村落のなかで Batu Bersurat 村が最も嘆かわしい経済状態を代表しているという。

この状況は、住居とプランテーションの距離がかけ離れているため、持ち主が滅多に訪れぬプランテーションは放置されている。かりに持ち主が来て1週間留まるとしても、ここには何も最低限の日常生活に必要なものがない。

2. コミュニティの提案

上述の如くであるからして、PAF は彼らが農園の適切な世話ができるように、生活費（JADUP）の追加配給を提案している。

PAF は収入増のために、新しい生計の源として、湖での浮き籠の展開を許可されることを提案している。さらに、彼らは新規の魚捕り器具および果樹栽培のスキルの提供を要望している。

1. 非政府組織（NGO）

1. NGO の存在

NGO に関する一般的な反応は肯定的である。コミュニティの一部は、現実離れした約束をしたとして、NGO の存在を否定的に捉えている。このことはコミュニティの肯定派と反対派の間に衝突を生み出した。コミュニティによると、今日に至るまで、Batu Bersurat 村に公式に入った NGO はないということだ。

2. NGO の活動

今日までコミュニティの経済状況を改善したと記憶に留められる NGO 活動はない。

3. NGO の訪問回数

コミュニティは NGO による訪問を受けたことは一度もないと報告した。

5.3 その他の確認事項

1. 総じて、コミュニティは新しい村での生活は元の村でよりはるかに困難だと感じているが、会議に参加した者の多くはバイク（自動二輪車）でやってきた。
2. 住宅に関しては Batu Besurat の 25%の住宅が永久型住宅に改修されたが、のこりは元の状態のままである。
3. 居住地から遠く辺鄙なところにゴムのプランテーションがあるので、住民はプランテーションに 1 週間泊り込みをしなければならない。
4. 壊れた橋のためにプランテーションへの輸送に支障をきたしている。
5. 住民は Batu Bersurat 村の土壌が粘土質なので、水を得ることが困難だと報告した。

PAF による解決最優先ランキング投票結果は次のとおりである。

1. ゴムプランテーション問題：住民は自分達のゴムプランテーションの世話ができるように十分な支援（例えば追加的 dadup）の提供、およびプランテーションへ行くのに車を使えるように端の修理を望んでいる。

2. 補償問題：住民は補償額の再考を要求している。
3. 上水およびMCK：住民は政府がコミュニティにMCKおよび上水設備を提供するよう要望している。

投票結果は次のとおりである。

BATU BERSURAT 村における解決すべき問題の優先順位

No.	問題の種類別	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地の補償	0	24	2
2	ゴム / ヤシ油プランテーション	32	8	4
3	上水道	2	6	36
4	電気	0	0	0
5	住宅条件	2	4	2
6	MCK	0	0	0
7	道路条件	0	2	6
8	生計	8	4	3
9	世帯の展開	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	Jadup (生活保証)	4	12	8

PAF はゴム園、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等によく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた。（図5 参照のこと）

5.4 PRA ミーティングの概要

1. PAF はコトパンジャン水力発電プロジェクトから生じたマイナスの影響には、ゴムのプランテーションがまだ生産性がないことによる収入の減少がある。
2. 補償問題に関して、PAF は政府が彼らを騙したと感じている。というのは、政府の約束は 20% しか守られなかった。特に、土地の各平米について設定された額は、非常に低かったが、PAF には交渉権がなかったと感じている。今日に至るまで、政府から一銭も補償金を受け取っていない者もある。
3. 政府はこれまで井戸の提供を約束してきたが、実際には、3メートルの深さの井戸は空っぽで干上がっていた。今現在、Batu Bersurat には適当な上水源がないので、上水は重大な問題である。
4. 政府は MCK 設備の提供に付いてなら具体的な約束はしなかったが、コミュニティはそのような設備が住居設備に含まれていると解釈していた。であるにも関わらず、実際は新居にはバスも洗い場もなかった。トイレはついていたものの、利用には不適なものだった。

5. これまで、政府は電気の供給を約束した。PAF は新居で電灯のスイッチを押すだけで電灯がつくはずだった。さらに、電気の引き込みは無料で月々の使用料金も無料のはずだった。だが実際は、彼らが新しい居住地へ移ってきたとき、電気は来ていなかった。
6. これまで、政府は 36 型半永久住宅の提供を約束した。しかし、実際の住居は使用に不適切な薄いセメント床の全体が木の壁で立てられていた。
7. 政府は移住先にすぐ収穫できるか、少なくとも収穫間近(3年生)のゴムのプランテーションを準備すると約束した。しかし、実際にはコミュニティはゴムのプランテーションはなく、木さえ植えられていないのを発見した。
8. 今現在、住民の中には、湖(ダム)での魚捕り、ガンビールの木の栽培、プランテーション労働者、クーリー、違法な材木伐採、建設労働者などの仕事をしている者がいる。
9. NGO に関しての一般的な反応は肯定的である。コミュニティによると、今日まで Batu Berusrat 村に公式に入った NGO はないということだ。
10. PRA ミーティングによると、早急に解決しなければならない優先的課題はゴムのプランテーション、補償問題および上水および MCK である。

図5 Batu Bersurat 村の重要施設までの距離

… 省略

6.0 BINAMANG 村 PRA ミーティング

村の名称 : BINAMANG 村

実施日 : 2002 年 3 月 6 日

時間 : 午後 2 : 00- 5 : 30

場所 : Musholla 村 (Binamang 礼拝所)

議長 : I R. KUMEN MUNDI

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. G ME. Manurung, SP, Msi
 2. Ahnmad Rivai, Sp, MS

- ・PT. Bit a Bina Semesta (BBS) :
 1. Dr. IR. Bambang Panuju, M. Phill
 2. Ir. Agust Siswanto
 3. Ir. Baban Suhendar
 4. Drs. Ano Sumarno
 5. Ir. A. Rachman Sabiro
 6. Ir. Agus Darsono

参加者 : 83 人 (会議参加者簿参照)

6.1 一般的事項

会議は午後 2 時ごろ始まり、参加者は 83 人で、村役人、村長老 (nirik mamak)、コミュニティリーダー、コミュニティ (男女)、若者。穏やかな雰囲気始まり、Wali Nagari が会を宣言した。Wali Nagari は、Bandung チームと UNRI の目的は、コトパンジャン HEPP 開発の影響に対する人々の不満に関してデータを集めることだと参加者に説明した。

これまで日本の NOG やさまざまな組織が、情報やデータを集めるため村にやって来た。Binamang コミュニティはデータを提供してきたが、これまで提供した全ての情報から結果が得られていない。従って、この会議がデータを集めるだけで具体的に何も結果を伴わないなら、Binamang 村はただ情報を提供する意思はない。なぜなら、何の明確な結果も得られないなら、チームの質問に飽き飽きし、疲れ果てているからだ。

この会議がコトパンジャン HEPP プロジェクト、主に Binamang 村の犠牲となった人々の生活が持続可能であるように支援するための明確な結果をもたらすよう人々は望んでいる。しかし、会議の結果も研究も Binamang 村コミュニティにとって今後何らかの結果をもたらさないなら、今回はコミュニティが情報を提供するの最後となるだろう。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

現状は、コトパンジャン HEPP が存在する前の状況とするとかなり異なっている。以前生活は（前の kampung）簡素だったが、ゴムを採取したり、稲作をしたり、ココナッツを栽培したりなどの生計手段は、人々を支えるのに十分だった。しかし、コトパンジャン HEPP プロジェクトが実施されて以来、ゴムの木と水田は失われた。

現在、Binamang コミュニティに唯一残された頼りとなるものは、約 99% が魚を採りに池に行くことだ。以前の kampung で行ったゴムや稲作に比べると、魚捕獲で得られた結果はととても比べ物にならない。以前、Binamang 村の人々はゴム、米、ココナッツなどを栽培して得たお金で生活し子供を学校にやっていた。しかし現在、多くの親が中学、高校に子供を通わせることができない。これは学校が Bangkinan など Binamang 村から遠く離れた場所にあることと、子供たちを学校に通わせる手段と追いかねがないからだ。

現在、Binamang 村コミュニティが漁業で得る週あたりに収入は、魚 1 キロで 27.000 ルピアである。その金額は家族を支えることもできないし、ましてや子供を学校に行かせることもできない。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

水没前に政府が行った計画と約束はとても素晴らしいもので、人々の環境を改善するものだったろうと思われた。しかし実際には、ほとんどの約束は守られなかった。これによって人々の生活に不満が増し、特にゴム園は今でも収穫できていない。故に、人々は何の決まった収入源をもっていない。さらに水を確保するのにも困難を感じている。

B. コトパンジャン HEPP ダム開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

コトパンジャン HEPP プロジェクトが引き起こしたコミュニティに対するプラス面：

- ・ 他の地域と同じように、電力が供給される。
- ・ 道路が利用でき、生活が便利になった。以前の kampung は州道から ±13km 離れており、現在はわずか ±3km である。
- ・ 新しい収入源は漁である。しかし、この手段は生計を立てる手段とはなりえていない。

- ・ 現在新しい kampung には電話線が敷かれ、人々は連絡を取ることができる。

2. マイナス面

コトパンジャン HEPP が引き起こすマイナス面：

- ・ 現在の環境は以前の kampung よりひどいと、人々は感じている。以前の kampung では生活は質素だったが、ゴム、米、ココナツなどから得た収入で少なくとも日用品を買うことができた。生活し、子供が教育を受けるに十分だった。しかし、今は日用品を買うに十分な収入がない。ゴムを採取するゴムの木もなく、水田も、ココナツもない。湖で取れる魚が唯一頼れるものだが、正味残額で子供を学校に行かせるのにはまったく足りない。

Pak Ahmad Datuk によると、以前はゴムプランテーションを所有しており、4人の子供は2人が小学、2人を中学に通わせることができた。しかし、現在は子供2人残り、小学と中学だが、やがて学校をあきらめないといけないだろう（資力がない）。

- ・ コミュニティは kampung の下端、丘陵地の下にあったので、容易に水が確保できた。現在は、丘陵地にあり水の確保が難しい。従って、雨水を集めるしかなく、それでは十分でない。

6.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 政府が約束した補償

これまでコミュニティが受け取った土地補償に関する意見。

- a. これまで受け取った補償に関しては、政府が決めた金額は低すぎるし、また受領は強要されたものなので、コミュニティはそれを再検討するよう求めている。例えば：
 - ・ その時点で、ココナツは1本あたり4,800ルピア。現在は、ココナツのみが1個あたり1,200ルピアである。故に、1本あたりで受けた補償では、現在4個のココナツしか買えない。1本の木がココナツのみを数個つける。

- ・その時点で収穫の準備ができていたゴムの木は、1本あたり 2,500 ルピアで、現在は少し待って、ゴムの木を育てると1本あたり 25,000 ルピアである。
- ・コミュニティの経済的収入源で年2回収穫がある水田は、わずか 500 ルピア/m²であったが、灌漑地になった。
- ・ドリアンの木は、6,000 ルピア/本だった。昨日、1個あたり 5,000 ルピアで買ったが、この木は実を付けるととても収穫がある。

b. コミュニティは、コミュニティがこれまで受け取った額と日本側による土地補償表に照らして同じかどうかを尋ねた。

c. 土地補償を受けていない住民も何人かいた。

2. 政府に対する土地補償要求を提出するコミュニティの取り組み

a. 土地補償のため Pemda を要求している人々もいるが、今まで何の返答もない。

b. データ収集目的で村を訪れる団体に対し、土地補償問題を説明することでこの問題が政府に届き、さらにその後の行動と人々の望みを満足させて終了するよう望んでいる。

3. 土地補償問題を解決するための PAF 提案

土地補償問題に関する、コミュニティの提案と提言は：

a. コミュニティは、彼らが受けた補償金額を再検討し、1993年の市場価値で調整すべきだと提案している。

b. コミュニティのメンバーの中には、日本側が作成した土地補償表を提出し、受けた補償金と比較し、再検討し、また日本が作成した表に記載される額と調整すべきだと提案するものもいた。

B. 上水の供給

政府はこれまで、各家庭に上水を供給することを約束したと何人かが述べた。しかし、約束は守られず、新しい土地に移転した時には何の上水設備もなかった。

1. Blnamang 村の上水供給を改善するために行った政府のこれまでの取り組みは非常に不十分であると、コミュニティは感じている。政府が実施したことは、井戸をいくつか掘ったことだが、それは不満足なものでその多くが水が出ない。

2. 上水供給に関するコミュニティの提案と提言

- a. 各世帯に井戸を掘るために、資金を望んでいる人もいる。
- b. 各世帯に井戸を掘ることができないなら、Blnamang 村コミュニティ全体の需要を満たすよう 4 つのドリル井戸を掘ることをコミュニティは要請している。

C. MCK 設備（浴室、洗濯場、トイレ）

1. 政府はこれまで各世帯に提供することを約束した。現実には：

- a. MCK のわずか 20% が利用でき、浄化槽は建設されていない。
- b. MCK は家の前に建設されており、人々は不快感を感じて取り壊した。

2. Blnamang 村の人々は、政府は機能していない MCK 設備の改善、補修に何の取り組みも努力も今までしていないと感じている。

3. この問題を解決するため、各世帯に MCK 設備を備えるよう要求している。

D. 電力供給

1. 電力供給に関して、政府は移住前にコミュニティに対し移転した時には各世帯に電力が供給され、設置料も 1 年間の使用料も無料だと約束していた。しかし、現実には：

- a. 設置料金を支払わねばならなかった。
- b. 約束ではもともと 1 年分の使用量が無料だったが、支払わねばならなかった。
- c. コミュニティの約 20% が取り付け料を払えないので、電力の供給がない。

2. PAF コミュニティが不満を述べても、政府は今まで何も答えず抗議も受け入れていないと、コミュニティは感じている。

3. 電力供給に関し、コミュニティによる提案と提言：

- a. コミュニティは政府が約束を果たすよう求めている。また、取り付け料、1年分の電気使用料を返還するよう政府に求めている。
- b. コミュニティは PLN に対し、現金ではなく、継続的に電気を無料供給するロイヤリティーを要求している人もいる。

E. 住居の提供

1. 政府はいままで、アスベストの屋根とセメントを塗った床の 36 型の半永久的な住居を建設することを約束している。しかし、現実には：

- a. 住宅は木の株（あちこち）が突き出た、6m 四方の家で、一次避難所だとコミュニティは考えている。
- b. アスベストは有害なので、屋根にアスベストを使用することに対しコミュニティは当初から強く反対しており、雨水が溜められるので波型の鉄板を使用することを求めた。
- c. セメントで塗り固めた床はごみなどが混じっており、非常に不都合である。

2. 屋根はこれまで当初の約束を果たすため住居の状態を改善する努力を何もしていないと、コミュニティは感じている。

3. 住居に関するコミュニティの提案と提言

- ・ 取得した半永久的木造住宅の㎡当たりのコストを計算して、修理のための補償を一部のコミュニティが要求している。
- ・ 合計の差額は、住居補修用として彼らに渡すべきだ。

F. ゴム農園

1. 政府はこれまでに、コミュニティが新しい土地（上部 kampung）に移転した時、収穫の準備が整った 3 年物のゴムの木を提供することを約束していた。しかし、現実には：

- a. 約束されたゴムの木は植林されておらず、ゴムの木はなく、収穫どころではなかった。
- b. Desa Binamang のゴム園は 7 - 10km と村からかなり遠く、2 つの場所に分かれていた。最初の場所に到着するには、歩いて行きそしてボートで ±1.5 時間かかり、2 つ目の場所は、ボートで川を渡り橋がないので ±1.5 時間泳がなければならない。故に、プランテーションにたどり着くには、Binamang 村の人は約 3 時間、往復 6 時間かかることになる。

2. Binamang 村のゴム園を改善するために政府が実施した取り組みは：

- a. 農林大臣ムスリミン・ナスティオン (Muslimin Nasution) 任期中、ゴムの木をパーム油に取り替える計画があった。しかし、任期は長く続かず、リアウ知事 Saleh Yasid は、この場所はパーム油には適さないと述べ計画は中止された。
- b. 2000 年、政府は計画を立て直し、住民が管理のためゴム園に入ることにした。従って、政府は各世帯に 1,060,000 ルピアを 3 つに分割して 1 年で段階的に提供することを約束した。

3. ゴム園に関する問題を解決するため、Binamang 村コミュニティが行った提案と提言。

- a. コミュニティがゴム園にアクセスするための道路と橋の建設。
- b. ゴム園が遠いので維持費を 3 - 4 倍に増やすこと、そうすれば農園に行く時、誰か (妻や子供) のために何かが残せる。だが、ゴム園はまだ何も生産していない。
- c. 里親または PIR 制度の実施を要請。

G. 収入

1. コトパンジャン HEPP プロジェクトの結果として、コミュニティの収入の変化：

- a. 新しい土地に移住する前、Binamang 村コミュニティの生計は、ゴム、稲作、ココナッツ売り、コーヒーなど様々の様式と資源があった。このような生産活動によって、生活が十分でき、子供を学校に通わせることができたコミュニティは感じている。
- b. 以前の村に住んでいた時、米、ココナッツなど最低限必要な品物を買う必要がなかったと、コミュニティは感じていた。

2. 収入を増やすためコミュニティが実施した取り組みは：

- ・魚釣り、これは不十分。

3. 収入を増やすための PAF の提案と提言

- a. 生活費手当て (Jadup) または生活費を 1-2 年またはそれ以上提供すること。
- b. 漁業や畜産のための資本、ローン、道具を提供すること。
- c. コミュニティが魚を捕獲するのを支援するため、湖の魚を産卵させること。

H. NGO

1. NGO もその他の団体もこれまで、コミュニティの生活改善を支援していないと、コミュニティは感じている。

2. コミュニティの社会福祉と経済を発展させることを支援したいと望んでいる NGO、その他の団体を彼らは知らないし、特に注意していない。

3. これまでにどの NGO や団体にも接触していないと、コミュニティは述べている。

6.3 その他の確認事項

1. Binamang 村コミュニティは、この会議でその後どんな具体的な活動が生まれるかについて尋ねた。

2. Binamang 村コミュニティの何人かは、「コトパンジャン HEPP による影響を受けたコミュニティフォーラム」(Forum Akibat Dampak PLTA コトパンジャン) という団体を結成している。

3. この会議には NGO から 2 人が参加し、ひとり Panglima Sakti Kampar 及びアドバイザーの H. Yunus, もう一人は Laskar Sakti Kampar の Amran。なぜこの会議に参加したかは不明。

4. この会議では 3 つの問題が優先順位で解決すべきとした。それは：

- a. 土地補償。コミュニティによると、補償は低すぎると感じており、再度計算するよう要求している。
- b. 上水が各世帯に供給されている。
- c. ゴム園に通じる道路と橋の建設。

結果は下記のとおり。

Binamang 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	7	1	0
2	ゴム及ヤシ油園	7	3	3
3	上水供給	1	1	2
4	電力	3	1	6
5	住居状態	0	5	0
6	MCK	0	0	0
7	道路状況	1	0	1
8	生計の手段	1	1	0
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	5	5	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校 (小学、中学)、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。(図 6)

6.4 PRA ミーティングの概要

1. コトパンジャンプロジェクトで起きたプラス面は、電力の利用、電話 配線、道路、漁業などの新しい収入源である。マイナス面として、以前の村より環境がひどくなったこと、またその場所が低い土地にあるので上水を得るのが困難であると、PAF は感じている。
2. PAF は、補償を再検討すべきだと要求し、また日本側による土地補償表について尋ね、土地区画が補償されていないと感じている人もいた。
3. 政府は家庭に上水を供給すると約束したが、実際には守られておらず、PAF が新しい土地に移転した時、上水設備は提供されていない。
4. MCK 問題に関し、政府はこれまで各世帯に MCK 設備を提供することを約束したが、実際は MCK のわずか 20% しか利用されず、浄化槽は建設されていない。
5. 移住の前、政府は PAF に対し、移転の際には各世帯には電力が供給され、取り付け費用と 1 年分の使用料が無料だと約束した。しかし、実際には PAF は取り付け料と 1 年分の使用料を払わねばならなかった。
6. 住居提供に関し、政府はこれまでアスベストの屋根とセメントで塗り固めた床の 36 型の半永久的住居を提供することを約束した。しかし実際は、木の株が（あちこち）ある木でできた 6m 四方の家だった。

7. それまで政府は、PAF が新しい土地（上 kampung）に移住すると、収穫の準備が整った 3 年物のゴムの木を提供することを約束していた。しかし、実際は約束のゴム園には植林されておらず、ゴムの木もなく、収穫どころではなかった。
8. PAF は以前の村に住んでいた時、米、ココナツなどの最低限の品物を買う必要がなかった。しかし、現在は収入がないので全てのものを非常に高い値段で買わなければならない。
9. NGO も他の団体も連絡を取ったことがないと、PAF は述べている。
10. PAF 会議によると、早急に解決すべき優先順位が高い問題は、上水、ゴム園に通じる道路と橋の建設である。

図 6 Binamang 村の重要施設までの距離

… 省略

7.0 PONGKAI BARU 村 PRA ミーティング

村の名称 : PONGKAI BARU 村
実施日 : 2002 年 3 月 6 日
時間 : 午後 2 : 00-5 : 45
場所 : Pongkai Baru 村礼拝所
議長 : GME MANURUNG. SP, MSI

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. GME. Manurung, SP, MSi
2. Halim

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) : 1. Ir. Agust Siswanto
2. Ir. Agus Darsono

参加者 : 84 人 (会議参加者簿参照)

7.1 一般的事項

会議は午後 2 時から、参加者は 84 人で、村役人、村長老 (nirik mamak)、コミュニティリーダー、一般の人々であった。会議は穏やかな雰囲気で行われ、村長が開会を述べ、Wali Nagari が宣言し、UNRI の訪問の目的と、コトパンジャン HEPP 開発の影響に対する人々に関してデータを集めるため Bandung チームの目的を参加者に説明した。

様々の団体や NGO が建前ではコミュニティを助け正義を成し遂げるために村に何度もやって来たこと、コミュニティは述べた。しかし、その取り組みは何の効果的結果ももたらさず、コミュニティを単なる対象物だと感じさせるものだった。会議の冒頭で数人の参加者がコトパンジャン HEPP 評価の結果を尋ねた時、このような感想が聞かれた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

移住前、コミュニティには安定した定期的な仕事 (稲作、ゴムの採取、ココナツ栽培、漁業) があり、それにより基本的ニーズを満たし、子供を高校に通わせることができ、また貯蓄もいくらかできた。このような理由から、以前の生活が良かったと感じている。新しい土地では、生計の 90% が賃金労働、薪集めによるもので、政府が約束したゴム園はまだ収穫することができない (現在 1 年半)。他の村と異なり湖が遠い (12Km, 歩いて 4 時間) ので、Pongkai Baru の住民は漁業をしている者はいない。最初に Pongkai Baru に移住した人々のわずか 70% しか政府が提供した住居に住んでおらず、残りの 30% は新しい土地では適切に生計を支えることができないと考えて、他の新しく来た人々 (プロジェクトによる影響を受けていない人々) に自分の家を売却した。

また、収入も少なく子供を学校に行かせることはできない。さらに小学校は 1 校しかなく、中学校は Tnjung 村から 8km 離れ、Bangkinag の高校は 45km 離れている。このように学校が遠いので教育費がかかり、高校には行けない。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

移住前政府が行った約束によって十分に生活が改善されると、コミュニティは感じていた。しかし残念ながら、現実には予想から程遠いものだった。例えば移住前にはゴムを採取し、水田を世話し、農業などを行っていたが、新しい土地ではこのような農作業を続けることができなかった。主な収入源だと見込まれたたゴム園は、ゴムの木がわずか 1 年半にしかならず収穫の準備はできていなかった。ゴムの木が植林されたのは、2000 年と 2001 年だった。

B. コトパンジャン HEPP 開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

- ・主要道路へのアクセスがより近くなりスムーズ。電力供給がある。
- ・村には電話回線網が敷かれ、住居の間取りも良い。

2. マイナス面

- ・主な収入源の変化。75%が賃金労働者（以前の職業事情と異なる）
- ・一人当たり収入の減少。
- ・中学・高校が遠く、子供は学業を継続できない。もし子供が下宿すれば、食費などよけいな出費がかかり、親に更なる負担となる。
- ・以前の土地に比べると、上水の入手が非常に困難である。

7.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 補償問題に関する PAF の考え

土地補償金額は一般市場価格より非常に低く、住人の 80%がまだ補償を受けていない。

土地補償に対する、コミュニティの考えは下記の通り。

- a. コミュニティは概して、補償枠を実際の一般価格に沿って再検討するよう強く願っている。例えば、ココナツの木は 4000 ルピア/本に見積もられ、ココナツの一枝は 9,000 ルピアだった。
- b. コミュニティは、補償額を決めるのに実際の一般市場価値を適用するよう提案している。彼らは、補償枠を関係機関が修正したのだと確信している。
- c. コミュニティの土地の約 35%は、まだ補償されていない。住民は土地の所有権を持っているので補償を求める文書を提出すると、政府は故意に支払いを遅らせ、住民は困惑した。

住民が受けた補償額の例：

- ・ 灌漑水田 = 500 ルピア/m²
- ・ 耕作された土地 = 600/m²
- ・ プランテーションの土地 = 30/m²
- ・ ココナツの木 = 4000/木
- ・ ゴムの木 = 5000/木（生産可能）
2500/木（生産不可能）
- ・ 墓地の移転に関する支払いはまだない。（75000 ルピア/1 墓地）

2. 土地補償請求政府に提出するコミュニティの取り組み

コミュニティは、地区事務所の前でデモをしたり、知事に会ったりして補償を請求する取り組みを実施して来たが、これまでこれに対して何の反応もない。また、法的要求の申し立てもない。

3. 土地補償に関する問題を解決するための PAF の提案

- ・ 補償額の再検討。
- ・ 祖先の墓を移転する費用を、政府の約束に従って支払うこと。
- ・ ゴムの木がゴム採取ができるまで、生活費手当て（jaminan hidup）を支払うこと。

B. 上水の供給

1. 上水供給に関する政府の約束

水供給に関する政府の約束は、ほとんど実現されていない。

- a. パイプによる各世帯への水の供給は、まだ実現していない。

- b. 現実には、政府の約束とかなりかけ離れている。水とインフラの質は基準以下。
- c. 政府が提供した上水供給設備は、住民が使用する前にすでに痛んでいた。

2. 上水設備改善の取り組み

- a. 掘られた井戸ほとんどの水質が悪いので、政府の取り組みは満足する結果を生んでいない。
- b. 井戸の基準を高めるために深さ 15m の井戸を自主的に掘っている住民もいるが、それでも水質はまだ悪い（色がついている）。

3. 上水供給に対するコミュニティの提案

- a. 全住民が協同利用できる井戸を設置すること。10 世帯につきひとつの井戸を掘る。または、他の水供給手段を探す。
- b. 山から水を引き、パイプで移住地の様々の重要箇所に水供給する。

C. MCK 設備（公共浴場、洗濯場、トイレ）

- 1. 政府は各世帯にひとつ MCK 設備を備え付けることを約束したが、実際には実現していない：
 - a. トイレのみが備え付けられているが、住民が使用する前に状態はすでに悪かった。浴室と洗濯場は備わっていなかった。
 - b. トイレは家からかなり離れた場所に設置してあった。約 15m 離れ、浄化槽は縦横 1m の土。
- 2. これまで、MCK の問題を改善・建設する取り組みはない。
- 3. コミュニティは MCK 問題を改善するため、MCK 建設（永久的）を以下のように提案する。
 - a. 各世帯に半永久的 MCK 設備を備え付ける。
 - b. 公共の MCK 設備を建設する。（例えば、数件の世帯当たりひとつの MCK）

D. 電力供給

- 1. コミュニティが Ponkai Baru に移転する前、政府は各世帯に取り付けと接続を無料で行い、すぐ利用できるように電力を供給することを約束した。しかし、実際は：
 - a. コミュニティが新しい村に移転したのは 1994/1995 年だが、電力供給が村に導入されたのは 1999 年で、移転から 4 年目で電力が供給された。
 - b. コミュニティは、1995 年設置料の 165,000 ルピアを支払わねばならなかった。また、2001 年の使用料は 450,000 ルピアだった。しかし、住民の 40% は今でも電力の供給を受けていない。
 - c. コミュニティの約 20% が電気を使えない。

2. コミュニティが再三不満を述べても、政府は電力供給を増やすための取り組みを何も行ってない。これまで、全く何の対応もない。
3. 電力供給に関する PAF の提案。
 - a. すでに支払った電気取り付け料を返還すること。
 - b. 月々の電気使用料を無料にすること (HEPP プロジェクトの利益配分)。

E. 住宅供給

1. 移転前、政府は波型の金属板の屋根とコンクリートの床の 36 型半永久住宅を提供すると約束した。しかし、現実には下記の通り。
 - a. かなり薄いセメント床の 5×6m の住宅。床の 65%は痛んでいる。
 - b. アスベスト屋根。
2. コミュニティが知事公舎の前でデモをするなどの様々の取り組みにを行っているが、これまで住宅を改善のための政府の取り組みはない。
3. 住宅供給に関する PAF の提案。

政府は 36 型半永久住宅を提供すると約束したが、それに沿って住宅を改築すべきだ。

F. ゴム及びパーム油農園

1. 農園提供に関する政府の約束

移住前、コミュニティは以下のことを約束された。

- a. ゴム採取の準備が整ったゴム園。実際は、移住 5 年後にゴムの木が植えられ、現在は 1 年半目である。
- b. 移住地から農園までは 2 - 7 km である。

2. 農園を改善する政府の取り組み :

- a. 1,060,000 ルピア/2ha/1 世帯の基金提供。木の伐採 250,000 ルピア/2ha、植林 150,000 ルピア/ha など、段階/仕事量により、段階的に支払う。
- b. 関連機関による、ゴム園耕作のための一時的訓練。

3. Pongkai Baru のコミュニティは、ゴム園に関して次の提言をする。

- a. ゴム園が収穫の準備ができるまで、生活費支援を提供する。
- b. 農園に適切な維持管理を行う。
- c. 肥料の支援。
- d. コミュニティが賃金労働者または肉体労働者になって農園を共同経営する企業を捜す。

G. 収入

移住の結果、コミュニティの収入は大きな影響を受けている。例えば：

1. 新しい村の収入源

- a. 現在、コミュニティの約 15%が従来型の猟師やきこり、残りの 75%が賃金労働者である。移住前は、農業に従事していた（ゴム農園、稲作）。故に Pongkai Baru コミュニティの雇用問題は早急に取り組む必要がある重要な問題でる。
- b. ゴム農園の収穫準備ができていないので、彼らは賃金労働者として働かねばならない。

2. 収入を改善し増加させるための PAF の取り組み

- a. 移住前に見られた一般的な職業と異なる雇用を捜す（例えば、他の村で雇われる）。
- b. 森で薪を集める。
- c. 湖は移住地から約 18km 離れ歩いて 4 時間かかるので、猟師の可能性は薄い。

3. 収入問題を改善するため、コミュニティは以下を提言する。

- a. ゴム農園が収穫の準備ができるまで、運転資金、生活費援助を提供する。また gogo 水田や園芸作物の栽培など新しい雇用機会の訓練を提供すること。
- b. gogo 水田、ガンビールなどの穀物栽培や畜産の訓練。
- c. 地元経済が通常に戻るまで、生活費援助を提供する。

H. NGO

- 1. コトパンジャンダム NGO の弁護人による NGO の援助（付属資料参照）。
- 2. NGO 活動： 目的は Pongkai Baru コミュニティの正義を獲得すること。しかし、これまで何の成果もない。
- 3. NGO の訪問で、PAF はデータ収集を助けコミュニティの熱意を伝えた。データ収集 3 - 4 回、現地事務所に対するデモ数回（付属資料参照）。

7.3 その他の確認事項

- 1. コミュニティは、この会議が成果をもたらし、それが現実することを望んでいる。

2. コミュニティは、開発支援プログラムが将来実施されることを望んでいる。Pemda ではなく日本の支援によるもので、地元住民を巻き込んだものであるべきだ（村の長老、伝統的指導者）。

3. 優先順位のある 3 つの問題を確認する調査

- ・土地補償計画の見直し。
- ・ゴムの品質を高める。
- ・上水設備を提供する。

優先順位問題の結果

Pongkai Baru の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	54	3	5
2	ゴム及ヤシ油農園	20	7	6
3	上水供給	16	24	13
4	電力	0	8	6
5	住居状態	1	14	19
6	MCK	2	9	10
7	道路状況	1	0	1
8	生計の手段	7	10	34
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図 7 参照）。

7.4 PRA ミーティングの概要

1. コトバンジャンプロジェクトによるプラス面は、電力、電話網、道路が利用できることである。マイナス面は、収入が減り、遠いので子供が中学、高校へと学業を継続できず、上水へのアクセスが非常に難しいこと。
2. 土地補償価格は、一般市場価格よりはるかに安く、住民の 80% は今だに補償を受けていない。
3. 水供給に関する政府の約束は、各世帯に水をパイプで供給することを含め不十分なもので、今でも実施されていない。現実には約束とはるかにかけ離れており、水質とインフラの質は基準以下である。政府による上水設備の提供は、PAF が使用する前にすでに痛んでいた。

4. 政府は各世帯に1式のMCKを提供することを約束したが、現実には実現していない。提供されたのはトイレだけで、PAFが使用する前にすでに状態は悪く、また浴室、洗濯設備は提供されていない。
5. 政府は、取り付け・接続料が無料で使用できる電力を各世帯に提供する約束をした。しかし、PAFは1994/1995年に移住したが、実際に電力が供給されたのは1999年である。また、PAFは取り付け料を支払わねばならないので、PAFの約20%は電気が利用できない。
6. 政府は移居前、波型鉄板の屋根とセメント床の36型半永久住宅を提供すると約束した。しかし、実際は、非常に薄いセメント床の5×6mの木造住宅で、床の65%が痛み屋根はアスベストである。
7. PAFは移住前にゴム採取の準備が整ったゴム園を約束されたが、実際は移転から5年後、ゴムの木が植林され、ゴムの木は現在1年半である。
8. 現在、PAFの約15%が従来型の猟師ときこりとして働き、残り75%は賃金労働者である。ゴム園は採取の準備ができていないので、住民は賃金労働を余儀なくされている。
9. Pongkai Baru村には今までPAFを支援しようとするNGOはない。
10. PAF会議によると、早急に解決すべき優先度の高い問題は、土地補償、ゴム園、上水である。

図7 Pongkai Baru 村の重要施設までの距離

… 省略

8.0 MAYANG PONGKAI 村 PRA ミーティング

村の名称 : MAYANG PONGKAI 村
実施日 : 2002 年 3 月 16 日
時間 : 午前 9 : 00 ~ 11 : 30
場所 : Balai Desa (村会館)
議長 : AHMAD RIFAI, SP, MS
チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ir. Sakti Hutabarat, M. Agro. Econ
2. Ir. Lumen Mundi
- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) : 1. Dr. Lucia Nugroho, MSc
2. Ir. A. Rachman Sabiro

参加者 : 35 人 (会議参加者簿参照)

8.1 一般的事項

会議は午前 9 時から、Mayang Pongkai 村の、村会館で開催、参加者 35 人で、村役人、LKMD、農民グループ長、村長老 (ninik mamak)、コミュニティリーダー、イスラム聖職者、女性と若者であった。リアウ大学のチームが会の目的を説明した。会議に対するコミュニティの反応は、特にまだ全面的に解決されていない土地補償問題に関してはきわめて良かった。会議は穏やかな雰囲気で行われ、まだ支払いのない土地補償に関するチームの提言が望まれているようだった。

UNRI チームが会議を宣言すると、Sesa Moyang 村長が歓迎の言葉を述べた。村長は開会の言葉で、Mayang Pongkai 村コミュニティの現状は、以前の村と比べると実際は同じであると述べた。経済レベルは土地とゴム農園の所有によって異なり、以前の村はもっとひどかったという人もいる。つまり、以前の村で生活に満足していた PAF は、新しい村の生活はより困難と考える傾向があり、以前の村で生活に困難だった PAF は、新しい村の生活がよりよくなると考える傾向にあった。

コミュニティの場所に関しては、新しい村に移住してきた時、例えば住宅の床がただ土を覆ったものだとするなど、政府が約束したものの多くが満たされていないとする報告が多数あった。家に魚がいたという人もいた。さらに、電力や上水の供給も政府の約束に沿っていなかった。政府が提供した農園には満足したと報告があり、これまで約 75% がパーム油 PIR のローンを支払っていると述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

PAF のほとんどが、生活に満足していると述べた。しかし、以前の村で広大な土地（5 - 10ha）を所有していた PAF は、以前の村では広大な土地を所有し、ゴムプ園、稲作や農業などいろんな形態で収入を得ることができたので、生活はより困難になったと感じている。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

新しい村のマイナス面は、若者が新しい習慣を身に付けたことである。例えば、アルコールを飲んだりギャンブルをすることは以前の村ではなかった。これは社会状況やコミュニティの安全に影響を与えている。（H. Rustani 氏の報告）

C. コトパンジャンダム建設プロジェクトのプラス面とマイナス面

プラス面：

交通機関。以前は良くなかったので、今は州都や regency の接続が容易になった。

マイナス面：

植林する土地がますます減少している。

生計が以前より困難になっている（パーム油農園しかない）。

コミュニティの社会規範構造の変化。特に若者のアルコール飲酒はコミュニティの安全を脅かしている。

8.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 土地補償問題に関する PAF の意見

全般に土地補償は実現されているが、これまで支払われるべきはずの補償が政府から費払われていない土地区画がある。Mayang Pongkai 村長によると、161 区画に対する支払いがない。この中には個人所有 5 区画、保留 7 区画が含まれる。

2. 政府に対する補償要求の取り組み：

コミュニティは政府に対し土地補償問題を解決するよう要請しているが、これまで何の成果もない。コミュニティによると、政府はコミュニティに支払いをしていない土地を所有していることを宣言するように求められている。

3. PAF は、支払いのない土地はすぐに妥当な支払いをすべきと求めている。さらに、「保留」区画の価格は下げるべきではない。

B. 上水供給

1. 上水供給に関する政府の約束

政府はこれまで上水を提供では、2m 深さの井戸を 2 世帯に 1 つ建設すると約束している。しかし、コミュニティは井戸の建設にとっても不満足で、井戸はわずか 2 週間で枯れた。故に、夏季には井戸には水がない。

2. 上水供給の取り組み

政府はこれまで上水設備の修理のために何の取り組みもしていない。一方、PAF は政府が提供した井戸を深く掘って問題を解決しようとしている。資力のある PAF は自分の井戸を掘った。約 60% は、政府が提供する井戸 (2 世帯あたり 1 個) をさらに深く掘って利用している。また井戸を改造する資力のない人は、飲み水確保のため村の近くの川を利用している。

3. PAF は各世帯に配給する水システム建設を、地方自治体が運営するよう求めている。

C. MCK 設備

1. 政府はこれまで住居設備の一部として MCK 設備を提供すると約束している。しかし、PAF が新しい村に移住した時、住居にはトイレしかなく、浴室、洗濯場はなかった。トイレの浄化槽は浅く、1 m の木製の壁と床は板張りで、適切なものではなかった。水洗トイレは住居の裏のかなり離れた場所で長くは利用されなかった。

2. 政府は MCK 設備修理のため何の取り組みも実施していない。

従って、この問題解決のため、資力のある人は永久利用できる水洗トイレを作った。しかし、PAF の約 70% は川を利用している。

3. 浴槽がある MCK 設備を各世帯に提供するよう、PAF は求めている。

D. 電力供給

1. 政府はこれまで、各世帯に電力を供給すると約束している。これによると、PAF は（電気はすでに取り付けられている）スイッチを入れるだけで電気が無料で利用でき、また 1 年分の電気使用料が無料というものだった。実際は、PAF は電力の取り付け、接続、消費の支払いをしなければならなかった。
2. 政府は電力供給の改善のためこれまで何の取り組みもしていない。PAF は何もすることができず、現実をそのまま受け入れるしかなかった。
3. 電力供給に関して、PAF は取り付けと 1 年分の使用料として支払われたお金を返済するよう提案している。

E. 住居

1. 住居に関する政府の約束：
政府は下部構造がセメントで、上部が木造、波型鉄板の屋根、適切なセメント床の半永久的住居を提供すると約束していた。しかし現実には、PAF に提供された住居は薄いセメントの床の木造だった。多くの住人が、床はなく泥だらけだと述べている。さらに屋根はアスベストである。今は、取得した補償金で住居の多くが取り壊されている。
2. 住居施設改善のための政府の取り組み
政府はこれまで、住居施設改善のための取り組みを行っていない。
3. 住居施設に関する PAF の提案：
PAF は、住居改装に使ったお金の支払いを提案している。

F. パーム油農園

1. パーム油農園提供に関する政府の約束：
政府はパーム油を保護する 2ha のプランテーションを提供することを約束したと、PAF は一般に認めている。現在パームの木は 8 年経ち、75%の住民が「プラズマ」ローンの払い戻しを受けている。パーム油プランテーションの主な問題は、パームの木がそれ以上植林できないことと、PAF と述べている。故に、ヘクタール当たりの木が足りていない。パームの木の数も減少している。

パーム油農園は、その土地に関する「ulayat」コミュニティの土地の権利を持っていると主張する者が略奪したので PAF39 人が農園を手にしていないと、コミュニティは述べている。

2. 農園改善の政府の取り組み

政府はこれまで、農園改善のため何の取り組みもない。

3. パーム油農園に対する PAF の提案

農園を取得しない PAF39 人の問題を解決し、他の農園を提供すべきだと、PAF は提案している。

G. 収入

1. 新しい村の PAF の収入源：

PAF の収入源は、以前の村ではゴム栽培、稲作、耕作、農業などであった。新しい村では、唯一の生計手段はパーム油栽培である。

以前の村の収入は、生活を維持しそして子供を学校に通わせるのに十分だった。新しい村では、パーム油農園が収入源で以前の村より収入が少ない。

さらに、与えられた土地は非常に限られているとコミュニティは感じている。故に、農園を拡大するのは困難だ。この問題は、結婚した子供に残す土地がないので、結婚した子供を持つ人々にはより緊急の課題だ。またパームの木が古くなると、PAF には他の収入源がないのではと懸念している。

2. 収入レベルを改善し高めるため PAF が行った取り組み：

収入を増やすためコミュニティがこれまで行った取り組みは、土地（0.4ha）に適したパーム油の木と野菜を植えたことである。ほかの野菜と穀物を植えようとしたが、失敗した。他の収入源として鳥類を飼っているものもいる。

3. 収入に関する PAF の提言：

コミュニティは、他の技術や鳥類を育てるなどパーム油栽培のほかの収入源を提供することを提案する。

H. NGO

1. NOG はこれまで福祉改善のために何の支援もしていないと、PAF は感じている。
2. 彼らを支援する目的の NGO 活動はどれも社会福祉や経済を改善しているか、PAF は明確に認識していない。
3. NGO が何回訪れたか PAF ははっきりと分らない。NGO は全く訪れていないというものもある。しかし、村事務所の訪問者リストを調べると、Patriot 、BMT Pekanbaru グループが村を訪れている。
4. NGO はこれまで福祉改善のために何の支援もしていないと、PAF は感じている。
5. 彼らを支援しようとする NGO が社会福祉も経済も改善しているかどうか、PAF は確信がもてない。
6. 何度 NGO が訪れたか、PAF は確信できない。NGO は全く訪れていないというものもある。しかし、村事務所の訪問者リストを調べると、Patriot 、BMT Pekanbaru グループが村を訪れている。

8.3 その他の確認事項

1. 約 39 人の PAF は、他人からパーム油農園を取られたり奪われたりしている。故に、これまでこの PAF はパーム油農園を所有していない。
2. 以前の村は 2 つの「Madrasah」(宗教学校)と小学校があり、十分な余裕があったが、新しい村では学業成績が下がっている。Mayang Pongkai の新しい村は自分たちで建設した「Madrasah」がひとつしかなく、3 教室で 2 学年しかない。中学に進学するには、7km 離れた学校に通わねばならず、他の村からは 3km しかない。故に、PAF は子供を学校に通わせるのは大変難しいと考えている。

できるだけ早く解決すべきだと PAF が考える問題：

1. パーム油農園の問題：住民は、プラズマプランテーションのクレジット支払いの義務から解放されたい、またゴム農園とその管理を受けている他の村と同じく肥料などの支援を受けたいと望んでいる。
2. 補償：コミュニティは補償額見直しと、残した農地に対する補償を求めている。

3. 住居状態：住宅は政府の約束に見合うように改修すべきと、住民は望んでいる。

結果は以下のとおり。

MAYANG PONGKAI 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	9	0	0
2	ゴム及ヤシ油農園	5	3	2
3	上水供給	3	4	2
4	電力	1	4	4
5	住居状態	3	5	5
6	MCK	1	5	1
7	道路状況	6	5	2
8	生計の手段	4	1	2
9	世帯の拡大	0	1	1
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図 8 参照）

8.4 PRA ミーティングの概要

1. コトパンジャンプロジェクトのプラス面は交通手段の利用で、マイナス面は、土地が植林できなくなり、生計がますます困難になり、PAF の社会規範が変化していることである。
2. 全般的に土地補償は実施されたが、それまで支払われるはずのいくつかの区画が政府から支払いを受けていない。
3. 政府の上水供給に対する約束により、2 世帯につき 2m 深さの井戸ひとつが建設された。しかし、コミュニティによると井戸の状態は非常に悪く、2 週間後に水がなくなった。故に、夏季には井戸には水がない。
4. 政府はそれまで住居設備の一環として MCK 設備を提供することを約束していた。しかし、PAF が新しい村に移住すると、家にはトイレだけで、浴室洗濯場はなかった。
5. 政府はそれまで各世帯に電力を供給する約束をしていた。PAF はスイッチを押すだけで電気が利用でき（電気はすでに取り付け済み）、支払いもなく、1 年分の使用料を支払う必要がないというものだった。しかし実際は、取り付け料、接続料、使用料を PAF は支払わねばならなかった。

6. 政府はそれまで、土台がセメントで木製の、屋根は波型鉄板で適切なセメント床の半永久的住宅を提供する公約をした。しかし、実際の住宅は薄いセメント床の木造だった。多くの住人によると、床はなく土のままである。さらにアスベストの屋根である。
7. 一般に、政府が2haのパーム油農園を提供するという約束は守られている。しかし、新しい村では生計の唯一の手段はパーム油栽培である。
8. 以前の村では、PAFはゴムの木、稲作、養殖、漁業で生計を立てた。新しい村の唯一の生計手段はパーム油栽培である。
9. PAFは、NGOはこれまで福祉改善の支援を何もしていないと感じている。
10. PRAミーティングによると、早急に解決すべき優先順位の高い問題は、パーム油プランテーション、補償、住居状態である。

図 8 Mayang Pongkai 村の重要施設までの距離

… 省略

9.0 PONGKAI ISTIQOMAH 村 PRA ミーティング

村の名称 : PONGKAI ISTIQOMAH 村
実施日 : 2002 年 3 月 9 日
時間 : 午前 9 : 00-11 : 30
場所 : Pongkai Istiqomah 村礼拝所
議長 : AHMAD RIFAI, SP, MS

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) :
 1. Ahmad Rivai, SP, MP
 2. GME. Manurung, SP, Msi
 3. Ir. Lumen Mundi

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) :
 1. Dr. Bambang Panuju, M. Phill
 2. Ir. Baban Suhendar
 4. Ir. Agust Siswanto
 5. Ir. A. Rachman Sabiro
 6. Ir. Agus Darsono
 7. Suyono, SH

参加者 : 97 人 (会議参加者簿参照)

9.1 一般的事項

会議は午前 9 時から、参加者 97 人で、村役人、村長老、コミュニティリーダー、大人男女と若者であった。リアウ大学のチームが会の目的を説明した。会議は穏やかな雰囲気で行われ、村長が開会し、コトパンジャン HEPP 開発によるコミュニティの社会経済的影響に関するデータを集める予定の UNRI, BBS チームの訪問の目的について説明した。

一般に、コミュニティはコトパンジャン HEPP 開発に影響を受けてきたと感じている。コミュニティは開発前、ゴム採取、農業、漁業、森の木の伐採などで生計を支えるに十分な稼ぎがあった。しかし、現在、湖の魚を捕獲することしか手段がない。しかし残念ながら魚が減少している。以前、自分の水田で米を収穫できるなら、現在は日常の消費用に米を買わねばならない。

会議の初め、村長はこの会議が彼らの本当の生活改善のためになることを望んでいると村の熱意を表明した。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

Ponkai Istiqomah 村は、独立することを選択した村である。つまり、補償を受けた後で、コミュニティは自由に自分の選択で移動できたが、その代わり政府が提供する設備は手に入れられなかった。にもかかわらず、雇用の機会が限られているので、以前の村に比べ現在の生活はかなり悪いとコミュニティは感じている。米やココナツの必需品は買わねばならない。以前は自分の土地で収穫していた。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

一般に、水没前におこなった政府の約束は生活を改善するだろうと、コミュニティは感じていた。しかし、約束のほとんどが実現されず、多くの村が、特にこれまで収穫できないゴム園に関しては悲惨な目に合っている。故に、村は生計を支える安定した職業がない。コミュニティはまた、上水の入手が困難だと感じている。

C. コトパンジャン HEPP 開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

- ・他の村と同じく、照明に電力の利用ができる。
- ・自分たちで中学を建設して2年後、評議員が2つの教室を追加し、また5教室増えた。さらに道路が建設された。

2. マイナス面

- ・以前の村より現状はかなり悪いと、コミュニティは感じている。以前の村では、必需品は稲作、ゴム採取、ココナツ採取などから満たすことができたが、現在の村では毎日の消費するニーズを満たす安定した収入がない。
- ・以前の村では、上水を得ることは困難ではなかったが、現在は標高の高いところにあるので、水資源を見つけるのが難しい。雨水を溜めなければいけない時もある。

9.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 補償問題に関する PAF の考え

a. 政府が設定した補償基準が低すぎ、受領を強要されたので、それを見直すようコミュニティは求めている。:

・ココナツの木が 4000/木、一方ココナツの実は当時の価格 1200 ルピア/個。故に、保証金額では 3 個しか買えない。実際ココナツの木は、多くの実を付ける。

・生産可能なゴムの木は 4,800 ルピア/本、1 本の木を育て、世話するのに 25,000 ルピア/本かかる。一方土地は 30 ルピア/m²。コミュニティの経済資源で年 2 回収穫できる水田は、600 ルピア/m²。

・永久型 I 型住居は、165,000 ルピア/m²、I I 型 115,000 ルピア/m²、タイプ I I I は 85,000 ルピア/m²。

b. コミュニティが受け取った金額は、日本側が設定した土地補償計画と同じだったかどうか、コミュニティは尋ねた。

c. コミュニティは、補償が支払われていない土地区画もあるという人もいる。

2. コミュニティは土地補償を政府に要請する取り組みを行っていない。

B. 上水供給

政府は上水を各世帯に供給する約束をしたが、その約束は守られていない。コミュニティが新しい住居に移った時、上水供給設備はなかった。

1. 水供給のため、コミュニティは自分の井戸を掘った。

2. コミュニティは、各世帯が井戸を建設するための費用を要求している。

C. MCK 設備（公衆浴場、洗濯場、トイレ）

1. 政府はこれまで各世帯に MCK 設備を設置することを約束しているが、それは実現していない。

2. これまでに MCK 設備を改善する政府の取り組みはない。

3. この問題解決のため、コミュニティは MCK 設備の建設を要請した。

D. 電力提供

コミュニティは取り付けと 1 年分の電気料を含む各世帯への電力供給が無料だと政府は約束していた。

- a. 取り付け料を支払わねばならなかった。
- b. もともと無料だとされた最初の年 1 年分の電気使用料を支払わねばならなかった。
- c. コミュニティの 20% が取り付け料を支払うことができなかった。

E. 住宅供給

1. 住宅供給に関する政府の約束：

Pongkai Istiqomah のコミュニティは独自で移動することを選択したので、政府は新しい土地で住宅を供給する約束をしていない。コミュニティはお互いに開発と住居、新しい居住地の建設を行った。

新しい土地に移転する前に約束された住宅設備を改選する政府の取り組みは、これまでにはない。

2. コミュニティは住宅改築の補償と新しい家族に KPR が住宅を建設するよう提案している。

F. ゴム園

1. 農園提供に関する政府の約束

Pongkai Istiqomah のコミュニティは独自で移動することを選択したので、政府は新しい土地で農園を提供する約束をしていない。コミュニティは開発と住居、新しい居住地の建設をお互いに行った。

2. 農園を改善する政府の取り組み

- a. コミュニティが集めた要望書を提出した後、ゴム園を移転させた。
- b. 2000 年、政府は農園の代理店の後援で移転基金プログラムを実施した。プログラムの目的は、225 世帯またはプラズマ用に 2ha/世帯の土地約 450ha を解放することだった。ゴムの木の植林と管理はコミュニティが実施した。この目的のために政府は年 1.060,000 ルピアを管理費として 3 回分割にして支払った。

政府によると、各世帯が 800 万ルピアのローンを組み、ゴムの木が生産を開始して 4 年後ゴムの売り上げから月々完全に返済しなければならない。

c. 農林部は、リアウ Mandiri ファンデーションと協同でコミュニティ森林プログラムを実施した。このプログラムは、園芸用品（果樹、販売用木材）が人々の所有する土地に植えられた。このプログラムに参加を望む土地所有者は土地開墾と植林の賃金を支給され、肥料と種も支給された。プログラムそのものは、2000 年から 2002 年まで実施された。

3. 政府はゴム園に接続する道路や橋を建設するよう提案した。

a. ゴムの木を世話するのに、家族を支援する収入をあきらめて行うので、ゴム園の管理に 3 年分の費用を要求した。

b. 森林企業や PIR システムを要請している。

G. 収入

コトパンジャン HEPP プロジェクトの結果として、収入源が変化した：

a. コミュニティは開発以前、家族を支え、子供を学校に通わせるために、ゴム採取、農業、漁業、森で軒の伐採などから収入を得ることができた。しかし、現状では、湖での魚とりしか収入源はない。

b. コミュニティの提案：

- ・ 1 年から 2 年に生活費支援の延長。
- ・ 漁業及び牛を使った農業の資金、資本やローンの現金による支給。
- ・ 湖の魚の孵化。

H. NGO

今日まで、1NGO (Yayasan Riau Mandairi) がコミュニティを訪れた。活動の目的は、農林業で、森林省との協力で実施するプロジェクトで、「Hutan Kemasyarakatan」(コミュニティ森林プロジェクト)である。

9.3 その他の確認事項

1. Pongkai Istiqomah コミュニティは政府の認可を得ず、自分たちの合意で現在の地に移転した。故に、政府が支給した場所に移転した村と同じような設備や特権に政府は合意しなかった。
2. 会議では解決すべき3つの優先権のある事項を特定した。コミュニティが受けた低すぎる補償は再検討すべきだと要求し、各世帯に上水の供給、ゴムが生産可能となるまで3年間生活費の支給を要求した。

結果は以下のとおり。

PONGKAI ISTIQOMAH 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	18	1	7
2	ゴム及ヤシ油農園	54	20	27
3	上水供給	3	1	1
4	電力	1	0	1
5	住居状態	34	46	20
6	MCK	0	0	0
7	道路状況	0	1	1
8	生計の手段	11	35	50
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図9参照）

9.4 PRA ミーティングの概要

1. コトパンジャンプロジェクトのプラス面は電力利用、交通手段、小学校の追加の教室の建設である。マイナス面は、新しい村の道路事情の悪さ、上水の供給の困難さ。
2. 受け取った補償金に関して、政府が設定した基準は低すぎるし、受領を強要されたので、再検討することを PAF は要請した。PAF は、受け取った補償金は日本側が設定した土地補償と同じかどうか尋ねた。PAF の中には、補償を受けていない土地区画があると述べている人もいる。

3. 政府は各世帯に水供給の約束をしたが、現実には守られなかった。PAF が新しい場所に移転した時、上水設備はなかった。
4. 政府はそのときまで各世帯に MCK 設備の提供を約束したが、これまでそれは実現していない。
5. 政府は PAF に対し、取り付けと 1 年分の使用料含み電力供給を無料で提供することを約束した。しかし、約束どおりに実施されていない。
6. 政府は波型板金屋根でセメント床の半永久 36 型住宅を提供することを約束した。PAF はアスベスト屋根の薄くもろいセメント床の間に合わせの住宅が提供された。
7. Pongkai Istiqomah PAF は自らの判断で移動することを選んだので、政府は新しい村で農園の提供をする約束はしなかった。
8. 開発以前、PAF は家族を養い、子供を学校に行かせるため、ゴムの採取、農業、漁業、森の木の伐採などで十分な収入を得られた。しかし、現在、PAF は湖で漁をすることが唯一稼ぎの手段である。
9. これまで、1 つの NGO (Yayasan Riau Mandairi) が PAF を訪ねた。その活動は、農林分野で、「Hutan Kemasyarakatan」(コイミュニティー森林プロジェクト) で森林省との協力で実施するプロジェクトである。
10. PAF の会議の結果は、早急に解決すべき優先権のある問題は、補償、上水供給、生活費支給である。

図9 Pongkai Istiqomah 村の重要施設までの距離

… 省略

10.0 TANJUNG ALAI 村 PRA ミーティング

村の名称 : TANJUNG ALAI 村
実施日 : 2002 年 3 月 8 日
時間 : 午後 3 : 00
場所 : Tanjung Alai 村会館
議長 : AHMAD RIFAI, SP, MS
チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ahmad Rivai, SP.MP.
2. GME. Manurung, SP, MSI
3. Ir. Lumen Mundi

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) : 1. Ir. A. Rachman Sabiro
2. Ir. Agus Darsono

参加者 : 54 人 (会議参加者簿参照)

10.1 一般的事項

会議は午後 3 時から、Tanjung Alai 村会館で開催、参加者 54 人で、村役人、村長老 (nirik mamak), コミュニティリーダー、若者であった。会議は穏やかな雰囲気で行われ、村長が会議の目的を参加者に説明して開会した。その中で、UNRI チームと BBS は、コトパンジャン HEPP 開発が、Tanjung Alai コミュニティに与えた社会経済的影響について、データを収集するためにここへ来たと言った。

一般に Tanjung Alai の PAF は、コトパンジャン HEPP プロジェクトに影響を受けたと感じている。以前の村ではゴム園を所有し、農業や漁業を行っていた。現在の村では、政府が約束したゴム園にやっと最近ゴムの木が植林された。故に、生産できるまで暫く待たねばならない。現在の PAF の収入源は、湖での漁である。しかし魚の漁が減り捕獲高は十分でない。しかし、以前の村では自分で稲を育てることができたが、新しい村では日常必需品全てを購入しなければならない。

開会の辞で、村長は、PAF に代わって、現在の訪問はデータ収集だけでなく、自分たちの生活改善に現実的効果をもたらして欲しいとするコミュニティの熱意を述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

以前の村よりかなりひどいと、PAF は感じている。雇用機会が限られているので、生活を維持するのに稼ぐことがとても困難だ。新しい村では、多年生苗 (10 年) が生産が始まったばかりで、以前の村では、3 ヶ月ごとに米が収穫できた。

さらに、ココナツ、米などの必需品は買わねばならず、以前の村では辞部の畑で収穫できた。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

浸水前に政府が決めた計画と約束は、基本的に確信できるものでコミュニティの福祉を改善するだろうと思われた。しかし、約束のほとんどは果たされないまま。PAF は非常に悲惨な状況である。政府が約束したゴム園はこれまでゴム採取ができない。故に PAF は支える安定した収入がない。さらにでこぼこした地形は、水を確保するのを難しくしている。

C. コトパンジャンダム HEPP 開発のプラス面とマイナス面

1. コトパンジャン HEPP ダム開発のプラス面

PAF に対するコトパンジャンダム HEPP ダム開発のプラス面：

- ・ 生活が道路に面しているため、他の村に行くのが容易。
- ・ 電力が利用できる。この設備は、取り付け、1年分の使用料が無料だとする政府の約束に従うと、提供されていない。

2. コトパンジャンダム HEPP ダム開発のマイナス面

コトパンジャンダム HEPP ダム開発のマイナス面：

- ・ 生活は以前の村に比べると困難だと、PAF は感じている。以前の村では、生活必需品、米、ゴム採取、ココナツ売りなどから、自分の庭で間に合った。新しい村では、日常必需品を十分に買う収入がない。
- ・ 以前の村では、上水を手に入れるのが困難でなかった。新しい村では道路がでこぼこしており、水を手に入れるのが困難である。

10.2 具体的事項

A. 土地補償

PAF が受けた土地補償に、PAF は基本的に満足していない。補償料の例は下記。

- ・ ココナツ 4500 ルピア/本。新しい村では、PAF は新しい木を植えなければならない、それが育つまでは暫く育つまで時間がかかる。

- ・ ゴムの木生産は 2500 ルピア/㎡だった。
- ・ ゴムの木プランテーションは 30 ルピア/㎡だった。コミュニティの経済資源であり、年間 2 回生産する肥沃な畑は、600 ルピア/㎡だった。
- ・ 日本が設定した土地補償の計画は、コミュニティが受けた量と同じかどうか PAF は尋ねた。
- ・ PAF は補償を受けていない土地があると述べた。

1. 土地補償問題を解決する PAF の実施した取り組み

PAF は、土地補償に関し政府に要請していない。

2. 土地補償に関し PAF の提案と提言

- ・ PAF は、政府による評価が通常価格より低く、受領を強要されたので、受けた土地補償の見直しを要請した。
- ・ Tanjung Alai の安全を守るため、PAF は、各家庭は補償金として 25,000,000 ルピアを受け取らざることを提案した。
- ・ PAF が満足していないのでその憎しみのために村長と村のリーダーが道徳上の報い料を受けよう、PAF は求めている。

B. 上水供給

1. 政府公約の上水供給に関する PAF の意見

政府はこれまで、各世帯にパイプなどで上水設備を提供することを約束していたが、しかし、実現しなかった。PAF があたるしい村に到着すると、3m深さの井戸だった。10 世帯につき 1 つの井戸が提供された。構造と質が不適切なので、井戸には水がなく、利用できなかった。故に、PAF は水を手に入れるためにそれぞれ井戸を掘った。

2. 上水設備と改善のため政府が取った取り組み

政府はこれまで上水設備の改善と修理のために何の取り組みもしていない。PAF は各自の井戸を深く掘った。

3. 上水供給に関する PAF の提案

PAF は各家庭に井戸を建設するため、資金提供するよう求めている。

C. MCK 設備

1. MCK 設備に関する政府の約束

政府はこれまで各世帯に MCK 設備を提供することを約束した。しかし、約束は果たされていない。

2. MCK 設備の修理と提供のための政府の取り組み

Tanjung Alai の PAF は、これまで MCK 設備を改善する取り組みを政府は何もしていない。

3. MCK 設備に関する PAF の提言

PAF はこの問題を解決するため、MCK 設備を各家庭に提供することを求めている。

D. 電力

1. 電気に関する政府の約束

電気供給に関し、政府はこれまでに電気の取り付けと 1 年分の電気使用料を無料で、各世帯に電力を供給することを約束している。しかし現実には、PAF は下記を経験した。:

- ・ Tanjung Alai は、PAF が村に到着すると、政府が電力をすぐ提供すると約束したが、電力供給は 2 年過ぎてから。
- ・ PAF は取り付けと接続の支払いをしなければならなかった。
- ・ 1 年分電気使用料が無料で利用する代わりに、最初の年 PAF は電気料の支払いをしなければならなかった。
- ・ 取り付けと接続の支払いができなかったので、PAF の約 20% は電気がない。

2. 電力供給のため政府が取った取り組み

PAF は不満を述べたが、政府はその不満と要求に対し何も答えていない。

3. 電力供給に関する PAF の提案

PAF は政府が約束を守るよう要求している。故に、PAF は取り付け料が返還され、初年度に支払った電気料を返済するよう提案している。

E. 住居

1. 住居に関する政府の約束:

政府はこれまで、波型板金の屋根、セメントで塗り固めた床の 36 型半永久住居を PAF に提供することを約束していた。しかし現実には、PAF に提供された住居は、屋根はアスベストで薄いセメント床の 36 型木造住宅だった。緊急避難所のようにと PAF は思った。

2. 住居の質を改善するための政府の取り組み

政府がこれまで、以前おこなった約束に見合うよう、住居を改善するために政府は何も取り組みを行っていないと、PAF は考えている。

3. 住居に関する PAF の提案：

コミュニティは、政府は住居改善のために資金を提供することを要請している。価格は、木造住宅の㎡当たりのコストを差し引いた、半永久住宅の㎡当たりのコストから算出すべきで、住宅改造するため実質差額を加えるべきである。

F. ゴム園

1. ゴム園規定に関する政府の約束

政府は、PAF が新しい住宅に移転した時には、収穫の準備ができた 2ha のゴム園または 3 年ものゴムの木を提供することを約束していた。現実には、ゴム園はなく、収穫どころではなかった。

2. 農園改善の政府取り組み

これまで政府は農園改善のため何の取り組みもない。

ゴム園改善のため政府が実施した取り組み

- ・ PAF が全体の要請書を提出した後、政府はゴム園を移転する計画を立てた。
- ・ 2000 年、政府はついにゴム園のプログラムを実施し、再度植林した。それは、PAF が管理のために参加するもの。ついに、政府は ha 当たり 1,060,000 ルピアを支払った、それは管理費としてその年、3 回に分けて支払われた。

3. ゴム園に対する PAF の提案

PAF の提案は以下：

- ・ ゴム園に行くための道路と橋を建設する。
- ・ PAF はゴムの木を管理世話するために、家族を養うための毎日の仕事を止めなければならないので、管理費を 3 年間延長すること。

- ・ 植林を計画し、ゴム園を管理するため、育ての父または PIR を実施する。

G. 収入

1. 新しい村の PAF の収入源：

コトパンジャン HEPP 開発は、PAF の収入源を変化させた。以前の村では PAF は、ゴム採取、稲作、ココナッツ売り、森の薪探しなど様々な手段から生計を立てていた。その収入は、生計を維持し子供を学校に通わせるのに十分だった。政府が約束したゴム園が成功していないので、PAF の主な収入源は、池で魚を採ることである。しかし、収穫は十分でない。

2. 収入レベルを改善、高めるため政府が行った取り組み

PAF の収入を上げるため、ゴム園の再植林以外は、政府は何も取り組みを行っていないと、PAF は述べた。しかし、再植林した木は 1 - 2 年しか経っていないので、まだ収穫がない。

3. 収入増加に関する PAF の提言

収入に関する PAF の提案と提言は以下：

- ・ ゴムの木が生産可能となるまで、生活費支給をあと 1 - 2 年延長する。
- ・ 漁業や家畜業を育てるための資金や道具に対するローンや資本を提供する。
- ・ 政府が湖に魚を補充する要請。

H. NGO

NOG はこれまで PAF を訪問していないと、PAF は報告した。

10.3 その他の確認事項

この会議の結果によると、できるだけ早く解決すべき問題は：

1. **土地補償：** PAF は彼らがもともと受け取った補償額は低すぎるので、土地補償を増加すべきだと PAF は要請している。
2. **上水：** 各世帯に上水設備を提供する。

3. **生活費**： PAF はゴムの木が生産可能となるまで、生活費支給をあと3年延長する。
4. さらに、各家庭は苦しみの補償として、2000 万ルピアを受け取る。

優先順位の結果は以下のとおり。

Tanjung Alai 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	46	0	1
2	ゴム及ヤシ油農園	2	1	1
3	上水供給	0	0	17
4	電力	0	2	4
5	住居状態	0	2	3
6	MCK	0	0	0
7	道路状況	0	8	23
8	生計の手段	1	28	9
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図 10 参照）

10.4 PRA ミーティングの概要

1. コトパンジャンのプラス面は道路と電気が利用できること。マイナス面は、新しい村で生活が困難で、上水を手に入れることが困難なこと。
2. PAF が受けた土地補償に関して、PAF は基本的に不満足である。
3. 新しい村では、各世帯にパイプで水を引くなど上水設備を供給することを政府は約束していたが、この約束は実現されなかった。
4. 政府はそれまで各世帯に MCK 設備を提供することを約束していた。しかし、これは実現していない。
5. 電力供給に関して、政府はそれまで無料取り付けと1年分使用料無料で、新しい村の各世帯に電力供給を約束していた。しかし実際には、政府はこれを守っていないと PAF は感じている。

6. 政府はそれまで、屋根は波型板金で、床をセメントで整えた 36 型半永久住宅を PAF に提供する約束をしていた。しかし、実際の住宅は、アスベストの屋根で薄くセメントを塗った床の 36 型木造住宅だった。PAF は非難シェルターのようなと感じている。
7. PAF が新しい村に移転した時、政府は各世帯に生産準備が整ったゴム園 2ha または 3 年物のゴムの木を提供すると約束した。しかし、ゴム園はなく収穫どころではなかった。
8. 以前の村では、PAF はゴムの採取、稲作、ココナッツ売り、森で薪を集めるなどあらゆる手段で生計を立てていた。それで生活を維持し、子供を学校に行かせるのに十分だった。政府が公約したゴム園が果たされていないので、PAF の主な収入源は湖での魚とりだが、収穫量は十分でない。
9. PAF は、NGO はこれまで彼らを訪れていないと報告した。
10. PRA ミーティングによると、早急に解決すべき優先順位の高い問題は、土地補償、上水、生活費支給である。

図 10 Tanjung Alai 村の重要施設までの距離

… 省略

11.0 MUARA TAKUS 村 PRA ミーティング

村の名称 : MUARA TAKUS 村

実施日 : 2002 年 3 月 11 日

時間 : 午後 2 : 30-05 : 30

場所 : SD 014 Desa Muara Takus (EL 学校)

議長 : AHMAD RIFAI, SP, MS

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ir. Sakti Hutabarat, M. Agro. Econ
2. Ir. Lumen Mundi

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS) : 1. Dr. Bambang Panuju, M. Phil
2. Dr. Lucia Nugroho, MSc
3. Ir. Agus Darsono

参加者 : 58 人 (会議参加者簿参照)

11.1 一般的事項

会議は午後 2 時半から、参加者 58 人で、村役人、村長老、コミュニティリーダー、イスラム教聖職者、女性、若者であった。UNRI のチームが開会を宣言し、会の目的を説明した。開会に先立ち、村長がその日の課題を簡単に説明した。

NGO と名乗る様々の団体やその他の組織が、彼らの問題に関してデータや情報を求めるために彼らに接触してきたが、何の成果もないと、コミュニティは述べた。故にその日の会議が彼らの生活に良い成果をもたらすことを望んでいる。

このために、本日の会議の結果についての質問と要求を誰が述べるのか尋ねた。会議には何の成果もないなら、コミュニティはその結果会議の企画者にとって良い結果をもたらすのか。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

コミュニティはコトパンジャン HEPP プロジェクト前の状況と比べると、現在の生活は悲惨だと感じている。彼らは、生計手段がなく完全に無力なので、現在の状況は経済的に見ると完全に基準以下であると考えている。悲惨な状況は、現在の村の土壌が痩せているからで、以前の村では、土壌が肥沃で、米や、ココナツの木、ゴムの木、オレンジなどを栽培できた。農業から得られた産物で十分生活することができ、子供を学校に行かせることができた。新しい村では水田も、ココナツの木もなく、ゴムの木はまだ生産できない。故に生活はとても困難で、食べていくのも困難で、まし

てや子供を学校に行かせることもできない。

コミュニティはその地方の開発のために、そしてまた政府が住宅、無料の電気、上水、生産する準備が整ったゴム園を提供すると約束したので、祖先の墓や以前の村を離れようと決心した。故にコミュニティはそれに誘われ、以前の村を去ろうと決めた。

現在、コミュニティのほとんどが、湖の魚を採って生計を立てている。だが、収穫は減少している。故に、以前の村の生活が良かったと感じ、もし時間が戻れば、以前の村に帰りたいと多くが考えている。

B. 水没前に計画された移転による効果は、結果的にコミュニティに不利益となった。

移転前政府公約は素晴らしいもので、良い生活をもたらすだろうと考えた。しかし、どの約束も守られていない。多くがコトパンジャン HEPP プロジェクトに失望している。政府の約束は、新しい村に到着すると各世帯ではスイッチをつけると電気が使え、水道口水が使え、収穫の準備が整ったゴム園に関する規約だった。気を引くような約束だったが、今コミュニティは約束がひとつも守られていないので、非常に不満足にである。

C. コトパンジャンダム開発によるプラス面とマイナス面

1. プラス面

- ・ 良い道路状況
- ・ 電気照明が利用できる。
- ・ 魚が捕獲できる。

2. マイナス面

- ・ PAF は、生計手段が漁業のみで、収穫が減り、多くの人の稼ぎが少なくなったので、生活が困難になった。以前の村よりかなり現状は悪いとコミュニティは感じている。
- ・ 親の稼ぎが子供の教育に十分でないので、多くの子供は学校に通えない。

11.2 具体的事項

A. 土地補償

1. 補償問題に関する PAF の考え

・政府の約束の多くが守られていないので、土地補償に関してはだまされたと PAF は感じている。政府の約束では、誰も苦しむことも失うこともなく、コミュニティの生活は良くなるというものだった。しかし、それどころか生活は悲惨になったと PAF は感じている。

・コミュニティが受け取った補償は通常より非常に低く、そして土地と財産は水の下に沈んでいるのでもし受領を拒否すれば、何ももらえずとして受け取りを強要されたと感じている。彼らが受けた補償額は以下：

- a. 中庭 550 ルピア/m²。
- b. 近くの農園 35 ルピア/m²、遠くのブ農園 30 ルピア/m²。
- c. ドリアンの木 9000 ルピア/木。
- d. ココナツの木 8000 ルピア/木（実がなる木） 実のならない木 4500 ルピア/木。
- e. ゴムの木 4500 ルピア/木（生産できる） 生産できない木 3000 ルピア/木。
- f. 墓地移転の費用 75,000/1 基は支払われず、

2. 政府に対する土地補償を要請する取り組み

PAF は、Camat, POemda Level II, Pemada Level I, HEPP 役人に対し補償をもとめる署名を行った。Pemda の前で公然と泣くものもいた。残念ながら結果は何もない。コミュニティはまた、村を訪問する訪問者に対する苦情を述べた。

補償に関して、通常価格によって支払われるものを受領の提案をした。補償に関する不満足は、雨漏りのする住宅、医療施設、道路、追加的生活手当（Jadup）てに対するものなどもある。

B. 上水供給

1. 上水供給の政府の約束

政府はコミュニティの上水資源として、新しい村に井戸と貯蔵タンクで、各世帯に供給する約束をしていた。しかし、水は汚れ（匂いがある）があり全く使えなかった。

2. 上水提供の取り組み

政府による水供給は利用できないので、コミュニティは自ら井戸を掘った。しかし、みんながその資力がないので井戸が使えない人は、洗濯、入浴、トイレに川を利用している。

2000年、PPK (Projek Pembangunan Kecamatan) (地域開発プロジェクト)の支援で、コミュニティは他の資源を探し、3インチのパイプで水の川を引き、7世帯に1つの貯蔵タンクを備え付けるものである。これは25%が成功した。

3. 上水供給に関しては現在の配水管サイズを大きくし、全世帯に配水すべきだと提案した。

C. MCK 設備

1. 政府はこれまで各世帯にMCK設備を設置することを約束していた。しかし、政府が提供するMCK設備はひどいものだった。PAFによると、MCK設備は各住宅の一部であるべきだが、トイレだけがそろっていた。しかし、浄化槽が浅く、板で覆っただけの物で、非常に使いにくい。故に、PAFはあまり使用しなかった。コミュニティは自分の庭に穴を掘り、ようをたしているものもいる。

2. 政府はMCK設備改善のため何の取り組みもしていない。

3. MCK設備に関して、新しく適切で永久的MCKは各世帯に浄化槽をつけて建設するよう提案している。

D. 電力提供

1. 政府は、取り付けと1年分の電気料を含む各世帯への電力供給が無料であるということをそれまで政府は約束していた。つまり、コミュニティが移転すると、スイッチを入れるだけで電気が利用できるというものだった。

2. しかし、コミュニティは160000ルピアの取り付け料を実際支払わねばならなかった。この取り付け料を支払われないので、コミュニティの60%が電気を利用できない。

これまで政府は電力供給を改善する取り組みを何もしていない。

3. 電力供給に関する提案

- ・取り付け料をすでに支払った人にお金を返済する。
- ・ゴムの木が生産できるまで、電気料金の支払いを見送るよう PAF は求めている。

E. 住宅供給

1. 住宅供給に関する政府の約束は：

移転時まで、政府は各 PAF に水設備や MCK 設備のついた 36 型半永久住宅を提供する約束をしていた。しかし、コミュニティは薄いセメント床の、4×6m 四方の木の壁の家を支給されたので、政府の約束は口だけの大げさなものだった。

2. 住宅事情を改善するために政府の取り組みはない。

3. 住宅に関して、政府は MCK 設備に付いた約束に合った住宅を建てるようコミュニティは求めている。コミュニティはまた、住宅改築のために資金を要求しているものもある。

F. ゴム・パーム油農園

1. ゴム園に関する政府の約束：

PAF の新しい土地への移転に際し、各家庭は収穫の準備が整ったゴム園 2ha を提供することを政府は約束していた。しかし、実際は 1ha の何も植えていない土地だったので、政府の約束は虚偽であった。各区画には 2 - 10 本の木しかなく、それは何も無いに等しい。

2. ゴム園を提供する政府の取り組み：

ゴム園の請願のため、1999 年 PAF は他のコトパンジャン HEPP PAF と共に知事公舎前でデモを行った。それにより、1999 年リアウ州知事は、失敗したゴム園を改善するため、苗と管理のコストとして 3 年間支援した。

3. ゴム園に関する PAF 提案：

政府は支援を拡大し、ゴム園管理のコストをゴムの木が生産できる時まで行う（3 年ではない）。さらに、ゴムの木は沼地で育たないので、沼地にあるゴム園を適切な場所に移転することをコミュニティは提案している。

G. 収入

1. 新しい村の PAF の収入源：

以前の村の PAF の生計手段は、ほとんど農業だった。ゴムの木、コーヒーの木を世話し、オレンジや稲を育て、水牛を世話した。農業収入で、日常品を買うのに十分で、子供を学校に通わせた。PAF によると、以前の村では子供が教育を受け、必需品を満たすことができた。しかし、新しい村では、固定収入がなく、収入は激減している。唯一の収入源は、湖での魚とりで、政府が提供した土地は痩せている。故に生活するのがやっとなで、子供の教育はなおさらできない（PAF が使った言葉は、稼ぎは単なる食べるための物ではない）。このような状況で、新しい村の生活は以前の村に比べて、かなり困難だと PAF は述べた。

2. 生活を改善するために PAF が行った取り組みは、農作業に雇われるなどあらゆる手段を探すこと。
3. 収入に関する PAF の提案は新しい収入源を提供されることである。さらに、新しい事業を始める経済的支援を求めている。

H. NGO

1. 今日まで、彼らの生活を改善するのを助ける NGO はないと PAF は感じている。
2. PAF は、コミュニティの社会経済的生活を改善するのを助ける目的を持つ NGO について詳しく知らない。
3. PAF は、その村を何回 NGO が訪れたか詳しく知らない。一度も訪れていないというものもある。

11.3 その他の確認事項

1. PAF は、この会議の今後の動向を尋ね、またこの会議が結果と今後の動きについてどこで誰にすればいいのか尋ねた。この問題を強調したので、PAF のためには時間のロスにならないだろう。
2. 一人の PAF が、現在の村の場所は親の場所なで、また政府はこれまで補償をすると約束しているので、土地補償について尋ねた。実際は、この人は見舞金 (sago hati) として 200,000 ルピア/ha を受け取っている。
3. PAF は、Muara Takus 村の公共施設を建設したり、道路を舗装したり、痛んだ住宅を補修するなどを求め、そうすると不満がなくなるだろうとしている。

4. PAF は、補償金を過剰に受け取っている人もおり、また十分に受けていない人もいと述べた。故に、十分に受けていない人は、とりすぎた人からもらうべきだと提案している。
5. PAF は、さらに2年間、生活費手当て（Jadup）が必要であると求めている。

解決すべき問題の優先順位に関しては下記：

1. 補償： PAF は、補償金額を見直すべきで、補償として2000万ルピア/世帯を要求している。
2. ゴム園： PAF は、ゴムの木が収穫できるまで、支援を延長すべきと求めている。
3. 住宅： PAF は、住宅は政府の約束に沿って修復すべきと求めている。

優先順位の詳しい結果は以下：

MUARA TAKUS 村の問題解決の優先順位

No	問題点	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地補償	40	8	7
2	ゴム及ヤシ油農園	9	32	9
3	上水供給	0	1	5
4	電力	0	0	3
5	住居状態	13	8	23
6	MCK	0		0
7	道路状況	0	5	8
8	生計の手段	0	0	0
9	世帯の拡大	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	実際の補償	0	0	0

PAF は良く訪れるゴムプランテーション、市場、学校（小学、中学）、礼拝所、診療所、村事務所などへ行くにかかる距離、時間について、質問を受けた。（図 11 参照）。

11.4 PRA ミーティングの概要

1. 一般的に、Muara Takus の現在の生活の質は以前の村より悲惨で、ゴム園はまだ生産できず、唯一の収入源は湖で魚を採ることである。
2. PAF によると、ダムのプラス面は道路網がよく、電力利用でき、魚が採れることだ。マイナス面は生活がより厳しくなり、多くの子供が学校を続けることができないこと。
3. 今日まで、土地補償問題は解決していない。
4. 上水の供給、MCK 設備、電力供給、住宅提供に関する政府の約束は不満足なものだ。
5. 政府は、新しい村への PAF の移転に際し、各世帯にゴム採取の準備が整った 2ha の農園の提供を約束していたが、虚言となった。彼らが受けとったものは、ゴムの木のない 1ha の土地だった。
6. PAF の多くは、以前の村の収入に比べて新しい村へ出の収入が激減したと述べている。
7. さらに 2 年間、生活費手当て (Jaduop) を政府に求めている PAF もいる。
8. PAF による解決すべき優先順位の高いものは、土地補償、ゴム園、住宅事情である。

図 11 Muara Takus 村の重要施設までの距離

… 省略

12.0 KOTO TUO 村 PRA ミーティング

村の名称 : KOTO TUO 村
実施日 : 2002 年 3 月 11 日
時間 : 午後 8 時 15 分 ~ 10 時 15 分
場所 : Balai Desa Koto Tuo (村役場)
議長 : Ir LUMEN MUNDI

チームメンバー

・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ir. Sakti Hutabarat, M agro Econ
2. Ahmad Rifai, SP, MP
3. GME Manurung, SP, Msi
4. Drs. Yoserizai, MS
5. Dstriwan, SH

・BBS : 1. Ir. Agus Siswanto
2. Ir. Baban Suhendar

出席者 : 41 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

12.1 一般的事項

会議は、村役員、長老、コミュニティおよび宗教指導者、女性および若年層を含む 41 名ほどが列席して午後 8 時 15 分に始まった。会議の冒頭に UNRI チームが同会議の目的を参加者に説明し、続いて、村長による各出席者の紹介および基調演説があった。

同コミュニティは、事ある毎に様々な団体や NGO が状況データや情報収集に訪れたが何の成果も得られなかった、よって、今回の訪問が彼らの生活改善に益する結果をもたらすよう望むと述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

コミュニティは、彼らの現在の生活はコトパンジャン水力発電プロジェクトが顕在化する前に比べ、かなり悪化したと感じている。現状は普通の生活水準よりはるかに低いレベルにあるとの見解を持っている。現在の生活水準の急激な悪化は、元の村落の土壌が肥沃だったのに対し、新しい村落のほうは痩せた不毛な土壌であることに起因する。以前は米作、ココナッツ、ゴム、オレンジなどの栽培を営むことができ、そこから得られる収入によって、日常の消費のような基本的な入用から子供の教育費までを十分に賄うことができた。新しい村では、ゴムの栽培以外には何もできず、それさえもまだ樹液が出てくるまでに至っていないというような状況で、生活必需品を購うさえ非常に困難になってしまい、子供を学校にやることなどまして困難である。

PAF は、かつては教育のある住民が住む村として名を馳せた Koto Tuo 村が今は多くの子供が学校を辞めざるを得ない状況に至っていると報告している。

現在、ほとんどの住民の主な仕事は湖での魚捕りであるが、獲れる魚の量は減少してきている。なのでこのような状況から、元の村落での生活のほうが、新しい村落での生活よりよかったと感じている。その上、漁獲量の減少により魚捕りを主な収入源とするわけにもいかない。かつては、水浴びのついでに魚を取ってくるというように元手要らずだったが、今では魚を見つけることさえ難しい。

B. コミュニティにとって好ましくない結果をもたらすことになった、冠水以前に計画された変更点の影響

冠水の前に政府が示した約束は魅惑的なものであり、コミュニティは彼らの生活に改善をもたらすであろうと考えた。しかしながら、約束はどれも果されず、多くの村民はコトパンジャン・水力発電プロジェクトの実現に失望したまま取り残された。新しい村に移ったら、家に入れば、電気が通じていて、水道も設備され、ゴムプランテーションは収穫できる状態であるといった約束は空約束以外の何物でもなかった。PAF は彼らの多くが職を失ってしまったと感じている。

C. コトパンジャン・水力発電プロジェクト開発から生じたプラスおよびマイナスの影響の例

1. プラスの影響

- ・道路が利用できることにより円滑な輸送が可能になり、この状況はもとの村での状況より僅かによくなった。
- ・コミュニティ用の照明源としての電気が使用可能であること。

2. マイナスの影響

- ・主な仕事である漁業からの漁獲高が減少しているのでコミュニティの生活はより困難になってきている。よって多くの村民の経済レベルは低下した。
- ・親が学費を払う余裕がないため多くの子供達が学校に通っていない。平均して、親たちが遠く離れた摂政首都にある中学校高等科にまで子供をやる余裕がないために、ほとんどの子供達は初学校か中学校初等かに通うだけである。中学校高等科にやれば寄宿費や食費に余分の金がかかるだろうから。
- ・コミュニティの土地（*tanah ulayat*）がないため、殊に新世帯用のプランテーションの拡張が非常に限界がある。

・結婚した子孫が家建てられるような土地が新しい村にはないために、1つ屋根の下に2-3世帯が同居している場合がある。

12.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 補償問題についての PAF の見解

補償問題について、PAF の多くは、ほとんどの政府による約束が反故にされたことから政府に騙されたと感じている。政府は、コミュニティが新しい土地で苦しい目に遭うことはなく、移住は多くの利益をもたらすと約束した。しかし実際には、彼らが移り住んだ場所は不毛の土地だということが明らかになり、深刻に苦しむこととなった。

コミュニティは、以下に掲げる、強要されて受け入れた補償が期待にはるかに及ばないものであると感じている。

- ・庭園は平米あたり 600 ルピーと査定された
- ・近場の農地は平米あたり 600 ルピー、一方遠くの農地は平米あたり 30 ルピーの査定であった。
- ・ドリアンの木は1本につき 4,800 ルピーと査定された。
- ・ゴムの木は生産性のあるもので、1本あたり 4,500 ルピー、生産性のないものは1本あたり 3,000 ルピーと査定された。
- ・コミュニティの墓地の移転費用は、1基あたり 75,000 ルピーの約束であったが、いまだ支払われていない。

2. コミュニティの、政府に対する土地補償請求提出の努力

PAF はこの問題を地区の長 (Camat) および水力発電プロジェクト事務局へ持ち込むことによって補償請求に努めて来たが、今日まで何の返事も得られていない。

3. 土地補償問題解決について、PAF は補償額の再吟味およびコミュニティに対する適正な再支払を提案している。

B. 上水供給

1. 上水の供給に関する政府の約束

政府は4世帯あたり 1HU/タンクのパイプによる送水を約束した。しかしながら、主管が小さすぎて水流が少なすぎるために、コミュニティは建設された水道設備を利用することができなかった。

2. 水道設備改善に向けての努力

コミュニティは政府が供給した水道設備が使えなかったため、自主的に個々人の家に井戸を築き、また既存の井戸を深くした。しかしながら全ての村民が井戸を築く術を心得ているわけではなかった。それで井戸を持たない村民は川で洗濯、沐浴およびトイレの用を足している。

3. コミュニティは、政府が水が全ての世帯に行渡るようにより大きな水槽を供給することと、より太い管を敷設することを提案している。

C. MCK 設備（公衆浴場、洗濯場およびトイレ）

1. MCK を提供するという政府の約束はトイレを除き実現されなかった。そのトイレも使用に適したものではなかった。MCK 設備は水洗トイレを除き各世帯に提供されなかったし、そのトイレは1メートルの深さの穴を厚板で蓋っただけのもので非常に不適当なものであった。

2. 今日に至るまで MCK 設備の改善の努力は何もなされていない。

3. コミュニティは各世帯がよりよい MCK（恒久的な）設備を提供される様提案している。

D. 電気の供給

1. 政府はコミュニティに対し、各世帯が引き込み、接続、計器および1年間の無料使用を含めた電気供給を無料で行うことを約束した。しかし現実には、引き込み費用として16万ルピーを支払わなければならない、これは世帯によっては高額すぎるものだった。今日、世帯の半数は電気のない生活をしている。PAFの報告では、450世帯が電気供給費用を支払ったが、150世帯はいまだに家庭に電気を引いていないという。

2. 電気の供給量を増やすために政府は引き込み料および使用料について PLN を訴えようと試みたが、今日に至るまで何の反応もない。

3. PAF の電気供給についての提案は次のとおりである。

- ・ 支払済みの電気コストを払い戻すこと
- ・ 電気コストを引き下げること
- ・ コトパンジャン水力発電プロジェクトからの利益のシェアをコミュニティに還元すること

E. 住宅の供給

1. 政府の住宅供給についての約束

2. コミュニティの主張によると彼らが移住する前に、政府は水道および MCK 完備の 36 型半永久住宅を供給すると約束していたが、そのような約束は果されず、その代りに薄いセメント床の、4×6メートルの厚板囲いの家を与えられた。

3. 今日に至るまで政府の住宅設備についての改善の努力はない。

4. PAF の住宅供給についての提案の次のとおりである。

- ・住宅が政府の約束通りの仕様に則して建築されるべきこと
- ・新しく世帯には新しい家が供給されること
- ・古い家は改修されること

F. ゴム / 油やしプランテーション

1. プランテーション提供についての政府の約束
2. 政府は、コミュニティが新しい村に移転したら、各世帯が2ヘクタールの樹液の収穫が可能なゴムプランテーションを提供されると約束したが、彼らが新しい村に移住したところ、ゴムの木は1本もなく、空約束であったことが明らかになった。
3. 政府のプランテーション改善の努力
4. ゴムプランテーションについて提訴すべく、同村は他のコトパンジャン水力発電プロジェクトの被害を被った村々と団結して知事事務所前で街頭デモを行った。このデモが奏効して、リアウ州政府は失敗したゴムプランテーションに3年間の保全費用を提供し、その修復を支援した。現在、ゴムプランテーションの木々は2年生である。
5. ゴムプランテーションに関して、同村は、ゴムの収穫が可能になるまで政府があと3年間支援を延長することを提案している。さらに、ゴムプランテーション事業の開発を政府が引き受けることを提案している。

G. 収入

1. 新しい村における収入源

元の（以前の）村では、Koto Tuo 村地域の一般的な職業はゴム栽培、米作および水牛飼育であった。そういった活動からの収入は日常消費および教育費に充分であった。事実、元の村 Koto Tuo は教養あるコミュニティとして通っていた。しかしながら、新しい村では安定した雇用がないことや最低限のニーズを満たすために湖からの漁に頼らざるを得ないために収入は激減している。その上、政府から供給された土地は作物栽培には適さず、彼らの稼ぎは、教育費どころか日常の消費をかうじて満たすばかりである。このような状況を鑑みれば、新しい村での生活はもとの村での生活よりはるかに厳しいのは明白である。

2. PAF の材木伐採および湖での魚とりによる収入向上努力は充分ではなかった。
3. 当村は新たな職業の提供および浮網、丸皿魚の燻製作り等を展開するための投資資本援助を提案している。彼らは UNRI の農業課職員が、Koto Tuo 村における可能性のある農業品種および他の実現性のある雇用機会を見極めることを要望している。同村は彼らの経済活動を支援するための提携企業もしくは助成企業が村に置かれることを望んでいる。

H. NGO

1. コミュニティは Riau Mandiri 等の非政府組織の訪問を受けているが、
2. 今日に至るまで何も同 NGO からなされていない。
3. コミュニティは NGO の活動が彼らの社会的経済的福祉の向上を意図したものなのかどうかを知らない。
4. コミュニティは NGO の訪問回数について確信がなく、というより実際のところ、全く訪問を受けていないと主張している。

12.3 その他の確認事項

1. コミュニティは今回の会議が現実的な利益をもたらすことを望んでいる。
2. コミュニティは彼らの現状は非常に惨めなものである、かつては教育を受けた子供の数が最も多い村として知られていたが、今の村では資金不足のため多くの子供が通学を継続できないと主張する。彼らの失望は、湖が干上がったなら元の村に戻るという声明文に反映されている。
3. 彼らの失望に関して、コミュニティが要望している事柄の中には、小学校から中学校高等科までの学校建設、政府供給住宅の修復および電気関税の軽減がある。
4. コミュニティの数名の Bukit Tinggi に本部を置く NGO の会員は、彼らの生活をこのようなみじめなものにした責任は日本国にあるとして、JBIC に賠償を求める訴訟をおこす予定である。
5. コミュニティは、妻子を養うための収入源となり得る湖周辺の森林伐採を禁じられているのに、その許可証を発行する企業の理論的根拠に疑問を呈している。
6. コミュニティは、仲間の一員としての UNRI が日本人との会合の結果を伝えるにあたり、やがては自分達に誠実でなくなるのではないかと心配している。

PAF による解決最優先ランキング投票結果は次のとおりである。

1. ゴムプランテーション問題：同コミュニティは彼らのゴムプランテーションにもっと注意を払い、開発支援の提供を受けたいと望んでいる。
2. 雇用問題：コミュニティは浮き釣り網事業における雇用および他の事業への資本投下の提供を要望している。
3. 電気問題：同コミュニティは電気の引き込みおよび利用の費用について還付を受けることおよび電気が来ていない世帯には電気を引くことを要求している。

優先事項の全結果

KOTO TU0 村における解決すべき問題の優先順位

No.	問題の種別	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地の補償	6	1	1
2	ゴム / 油やしプランテーション	32	6	1
3	上水道	0	1	2
4	電気	0	15	3
5	住宅条件	0	4	0
6	MCK	0	0	0
7	道路条件	1	9	5
8	生計	3	7	26
9	世帯の展開	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	Jadup (生活保証)	0		0

PAF はゴムプランテーション、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等のよく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた。（図 12 参照のこと）

12.4 PRA ミーティングの概要

1. PAF は総じて、現在の村での生活は元の村での生活より厳しいと報告した。以前は家族を養うにも子孫の学費にも充分な稼ぎがあった。PAF はまた、政府が設定した土地の補償金額を、実際は少なすぎると思ったが、応じるように圧力をかけられたと感じている。PAF は本プロジェクトはたった 2 つのプラスの影響を生み出した、それはよりよい道路網が利用できるようになったことおよび電気の利用である、と述べている。一方、マイナスの影響には、PAF の収入の減少、親に金がないため子供が退学することおよび村の拡大のための共有地（tanah ulayat）がなくなったことが含まれる。
2. 新しい村での雇用は乏しく魚捕りへの依存が大きい。不幸なことに漁獲量は段々減ってきている。一方ゴムの木のほうは、成熟に達せず、ゴムの生産はまだない。事業見込みのあるものの一つはオレンジ栽培で彼らは農地でそれを行っている。
3. 政府が、MCK 設備、無料での水道および電気の引き込みおよび接続付きの 36 型半永久住宅の供給を約束したにもかかわらず、PAF は実際には 4×6 メートルの厚板囲いの家を支給された。主管の直径が小さすぎて、水道設備は役に立たず、MCK 設備も 1 メートルの深さで木の板を被せたトイレであった。電気については、PAF は引き込み費として 16 万ルピーを支払わなければならなかった。従って彼らはこの代金の払い戻しを要求している。

4. 同コミュニティの数名のものが Bukit Tinggi に本部を置く NGO のメンバーであると主張している。同 NGO は彼らの生活の惨状の責任は日本国にあると考えて JBIC を裁判所に提訴する予定である。
5. 優先的に解決する必要がある問題を 3 つ並べると、ゴムプランテーション、雇用および電気である。

図 12 Koto Tuo 村の重要施設までの距離

… 省略

13.0 MUARA MAHAT BARU 村 PRA ミーティング

村の名称 : MUARA MAHAT BARU 村
実施日 : 2002 年 3 月 9 日
時間 : 午後 2 時 ~ 4 時 30 分
場所 : コミュニティ・ホール

議長 : DR.SUARDI TARUMUN

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ahmad Rifai, SP, MP
2. Dr. Suardi Tarumun

- ・PT. Bitu Bina Semesta (BBS): 1. Ir. Agus Siswanto
2. Ir. Baban Suhendar
3. Suyono, SH
4. Ir. A. Rachman Sabiro

出席者 : 54 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

13.1 一般的事項

会議は、村役員、自助グループ (LKMD)、農家グループの長、村の長老 ("nininik mamak")、コミュニティおよび宗教指導者、女性および若年層を含む 54 名ほどが列席して午後 3 時に始まった。会議の冒頭に UNRI チームが同会議の目的を参加者に説明し、BBS の人員を含めた同調査班のメンバー紹介が行われた。

同コミュニティは、データを求めてやってきた NGO と主張する種々の機関や他の組織により事ある毎に訪問を受けたが、今日に至るまで、それらの訪問から何らかの結果が生じたことはない、よって、今回の会議が彼らの元の村からの移住、殊に土地の補償問題の解決に関して利益をもたらしてくれるよう望むと述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

大多数の住民は、現状にかなり満足している。

B. コミュニティにとって不運な結果をもたらすこととなった、冠水以前に計画された変更点の影響

かなり深刻な影響と考えられるのは洪水である。1 日中雨が降り続いた時には村の半分が影響を受

ける。この原因は道路より上に作られた粗末な集水、排水溝である。PAF は洪水を克服するために適切な排水溝の建設を提案している。

C. コトパンジャン・水力発電プロジェクト開発から生じたプラスおよびマイナスの影響の例

1. プラスの影響

平地入植区域では、油やし栽培からの収入に満足し、摂政首都へのアクセスの便利さ、家々の間隔が接近しているために住人間の行き来が密である。

2. マイナスの影響

粗末な排水溝建設のために降雨時に洪水を起こす。

13.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 政府が約束した補償

会議に出席していたほとんど全ての PAF が土地の補償を受けたことを認めたが、受け取った補償は不相当だと感じている。彼らが受けた補償は以下のとおりである。

- ・ 耕地：Rp750 / m²
- ・ プランテーション：Rp30 / m²
- ・ ゴムの木：1 本につき 2500 ルピー
- ・ ココナッツの木：1 本につき 2600 ルピー
- ・ 墓の移転費用：1 基当たり 75000 ルピー

彼らは政府が、移住のために放棄した土地とともに冠水した土地の補償も約束したのにそれを守らなかったと無念を抱いている。実際のところ、冠水した土地だけは補償されたが、冠水を免れたにも関わらず、現在の村から遠いために、もはや農業を行っていない土地もある。

住人の一部が伝えるところでは 40 から 50 世帯が冠水したゴムプランテーションの補償を受けていないということだ。新しい村から元の村へはかなりの距離があること（ゴムプランテーションまでは 50 キロメートル、放棄された耕地までは 70 キロメートル）を考えると、補償請求を処理するのは困難である。Abdul Somat 氏によると、" tanah ulayat "（共有地）を含めた未補償の土地の合計は Pematang Meriam および Bukit Dasar にある 1500 ヘクタールである。現在、別の人間が彼らの許可を得ずに勝手に土地を耕している。

2. コミュニティの、政府に対する土地補償請求提出の努力

PAF は、1998 年に、DPRD が MuaraMahatBaru 村を訪れた際、陳情したが、いまだに何の反応もな

い。

3. 土地補償問題解決のための PAF の提案

彼らは補償計画が適切に見直しされ、再度支払いがなされることを提案している。

彼らはまた冠水はしなかったが放棄した土地、先祖の墓地についても政府の約束通り補償がなされることを要求している。

B. 上水の供給

1. 上水供給に関する政府の約束

物理的に、地下水が近くにあるため給水の問題はないが、とはいえ政府が約束した設備の供給を怠ったのであるから上水へのアクセスは一つの課題である。政府は 2 世帯毎に 1 つの井戸を供給したが、これが共有する 2 世帯の間での物理的な争いの原因を作る結果となった。争いは井戸の位置が 2 戸の属する土地の境界線の真ん中に位置していないために起こるのである。1997 年に、政府は配管式の水道を供給したが水量が非常に低く色の着いた水だったために短期で打ち切った。さらに揚水用ディーゼル装置の保守費用がコミュニティにとって高すぎるためにポンプは遺棄された。

2. 上水供給に向けての努力

政府が供給した水源は利用できないため、住民は各自が自主的に家に井戸を掘っている。とはいえ、全員が専用の井戸を掘る余裕があるわけではないので、洗い物、沐浴および排泄に川を頼っている。

3. コミュニティによる上水供給に関する提案および勧告

PAF は全世帯に送れる配管もしくは掘削井戸のような上水設備の建設を提案している。

C. MCK 設備

政府は全家屋に MCK 設備の提供を約束したが実際に提供された設備は標準以下のものだった。PAF は MCK 設備は新築の家屋に備わって提供されるものと信じていたが、実際はトイレだけが提供された。そのトイレは低水準のもので腐敗タンクが浅い穴に設置されているものだった。トイレはエルボ型の管だけで、1メートルの高さの厚板で囲まれていた。このような粗末なトイレの建て方なのでコミュニティは短期間で利用しなくなった。

- ・今日に至るまで政府による MCK 設備の改修の努力は何もなされていない。
- ・PAF は各家屋について MCK 設備のやり直しを提案している。

D. 電気供給

政府は、無料で全家屋に電気のコンセントのスイッチを押せばいいところまで電気を引き込むことおよび 1 年間の電気使用料を無料にすることを約束したが果さなかった。

実際は、村に電気が供給されたのは移住から 2 年後のことであり、住民は 5 箇所のコンセントに 15 万ルピーの引き込み料を支払わなければならなかった。今日まで、全世帯の 60% が電気を引いていない。さらに電気の引き込み料は 30 万ルピーから 75 万ルピーの間で値上がりを続け、PAF の電気引き込みを妨げている。

今日まで政府は電気供給向上の努力を何もしていない。

電気供給の提案

- ・一部の住民の支払済み電気引き込み料金を払い戻すこと
- ・電気関税を引き下げる

E. 住宅の供給

1. 政府の住宅供給についての約束

移住の前に、政府は水道および MCK 完備の 36 型半永久住宅を供給すると約束していたが、そのような約束は果されず、その代りに薄いセメント床の 4×6 メーターの木板囲いの家を与えられた。合意文書によると、政府は住居用として 20×50 メートルの土地区画を割り当てると約束したが、たしかに道路わきの排水溝までを含めればその値になるだろう。つまり、排水溝を除外した土地の正味の寸法は 19×48 メートルである。

2. 政府は何も住宅設備改善の努力をしてこなかった。

PAF は政府の約束に則して住宅が改修および再建されることおよびそれには MCK 設備も含まれることを提案している。

F. ゴム / 油やしプランテーション

1. 油やしプランテーション供給についての政府の約束

コミュニティの新しい村での主な収入源は油やしプランテーションである。プランテーションは核プランテーションクレジット制度を通じて開発された。なので、当村の PAF は、他の村の PAF がゴムプランテーションの土地をただで受領したことから、自分達は不当に扱われたと感じている。当村 PAF は油やし生産高の 30% カットは大きすぎて、生計のために僅かしか残らないとして、クレジットの返済を渋っている。

約20世帯が油やしプランテーションが川の側に位置していて地すべりで潰滅したためにクレジットの返済ができないでいる。かくて生産高は減少した。さらに、ゴムの木の列のうちの数列（提供された13列のうちの2,3列）もまた同じ地すべりの際になぎ倒された。

PAF が言及したもう一つの重要な問題は土地の権利についてである。政府が準備した土地は2ヘクタールとして測量されるべきはずであるが、90%の住民は1.8ヘクタールしか受け取っていないと訴えている。

2. 政府のプランテーション改善の努力

PAF のプランテーション用土地、特に川沿いに位置する土地についての改善要求の努力は、正式な報告書をP3Dおよび関係政府機関に提出する形で示されたが、今日に至るまで何の返答もない。

3. PAF は、他の村のように、ゴムプランテーションに関するクレジット返済の免責およびすでに返済済み分の払い戻しを提案している。川沿いの油やしプランテーションは主要プランテーション地域へ移転するよう提案している。

さらに、PAF はコミュニティの新たな収入源を創生するために、特に現在ではめったに利用されなくなった土地での作物の多様化を提案している。

G. 収入

1. 移住の以前は、PAF の収入源はゴムおよびココナッツ栽培、薪集め、魚取りおよび採石であった。新しい村では、主な収入源は油やしプランテーションで、従って、油やしの価格が下落した時は住民は魚釣り、採砂といった他の仕事を求めるか、雇われ農夫として働かざるを得ない。現在のところ、彼らは油やしからの収入に比較的満足している。しかしながら、油やしの生産開始以前は、生活は極めて厳しく、PAF は残してきた元の村にあるゴムの木から樹液を採取するために元の村へ戻らなければならなかった。油やしプランテーションが芳しい収穫高をもたら始めて以来、彼らは元の村へ戻るのを止め、別の者らが、彼らの許可を得ずにゴムの木の樹液を採っている。

新しい村での生活費はとても高いので、新たな活動から上がる収入の増加は元の村での収入より僅かに上回るだけである。

2. 収入の向上のために、コミュニティは農場労働のような補足的雇用を求めている。

3. PAF は新たな収入源の提供、および彼らに提供された 0.4 ヘクタールの果樹園栽培を含む他の事業展開への資本投下を提案している。

H. NGO

1. 今日まで、彼らは NGO 組織からいかなる支援も受けていない。
2. 彼らは自分達の社会経済的な福利の向上においてコミュニティを支援する NGO 活動の存在に確信はない。
3. コミュニティは NGO 組織に何度訪問をうけたか、あるいはそもそも訪問をうけたかどうかについて思い出せない。しかし、村役場の来賓記録は[NGO Patriot]および「NGO BMT Pekanbaru」がコミュニティを訪れたことを示していた。

13.3 その他の確認事項

1. 冠水を免れた元の村の耕作地は補償されなかった。その土地を耕しに元の村へ戻ることは、遠距離のためにできない。現在、他の者が彼らの許可を得ずにその土地を耕している。
2. 元の村に取り残された約 75 世帯は新しい村で土地および家屋を補償されていない。彼らはこれらの世帯にも他の住民と同様の待遇を受けることができるよう提案している。
3. 今現在、Muhat Mahat Baru のコミュニティは日本人、バタク族といった他の民族集団とうまく融合している。
4. コミュニティは、道路の改良、プランテーション、生活費支援等、コトパンジャン水力発電プロジェクトの影響をうけた他の村が無償で与えられたと同じ待遇を受けられるよう要求している。
5. 彼らは、ここまで自分たちが率先して村の開発に責任をもってきたのだから、その費用を償還してもらいたいと請願した。

調査の結果、以下の優先事項が明らかになった。

1. 油やしプランテーション問題：コミュニティは彼らのクレジットの債務が免除され、他の村でのゴムプランテーションが無償で受けているように肥料支援が受けられることを望んでいる。
2. 補償問題：彼らは補償計画が見直され、彼らが元の村に残してきた土地も補償されることを要求している。
3. 住宅条件問題：彼らは政府がその約束通りに彼らの家屋を改修することを要求している。

優先事項の全結果

MUARA MAHAT BARU 村における解決すべき問題の優先順位

No.	問題の種別	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地の補償	15	7	1
2	ゴム / 油やしプランテーション	0	9	32
3	上水道	1	0	1
4	電気	1	1	6
5	住宅条件	3	2	15
6	MCK	0	0	0
7	道路条件	1	2	1
8	生計	1	1	1
9	世帯の展開	0	0	0
10	村の境界	0	0	1
11	Jadup (生活保証)	0		0

PAF はゴムプランテーション、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等のよく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた。（図 13 参照のこと）

13.4 PRA ミーティングの概要

1. PAF は、油やしプランテーションが住民にとって十分な収入を供給しているため、現在の村での生活状況は元の村より比較的向上したと報告した。油やしプランテーションは核プランテーションクレジット制度を通じて開発された。かくて、PAF は、他の村々がゴムプランテーションを無償で受領していることから、自分たちは不当な処遇を受けたと感じている。従って、PAF の要求はクレジット債務の返済を免除されることである。
2. PAF は土地の補償を受けたとはいえ、政府により支払われた額は、実効値より低いと考えられるため、再吟味すべきである。さらに、元の村における土地の中には冠水しなかったが、今の村からは遠距離すぎるため、もはや耕作していない所がある。政府はそのような土地についても補償を約束したにも関わらず、その約束は守られなかった。
3. PAF が与えられた 4×6 メーターの木造の住居は政府が当初約束した水道および MCK 設備完備の 36 型半永久型住居とは相応しないものだった。通常、コミュニティは、地下水層が比較的接近しているために、水の供給の問題はない。しかし、2 世帯毎に水の供給用の井戸が提供されているとはいえ、2 世帯の境界線上に位置していないために、当該 2 世帯間に物理的な争いを引き起こしている。政府が準備した MCK 設備もまた全く不満足なもので、腐敗タンクは浅い穴であった。それ故、PAF の中には自身で個人用の井戸を掘った者もあるが、多くは洗濯、沐浴および排泄の目的に川を利用してしのいでいる。

4. コミュニティが電気を受けたのは移住から実に 2 年後のことで、しかも引き込みおよび接続費用を支払わなければならなかった。
5. PAF が、NGO が彼らを訪問したかどうか確信がないと報告したが、村役場の来賓記録は Patriot NGO および MBT Pekanbaru NGO が村を訪れたことを示していた。
6. PAF が優先的に解決されるべき 3 課題として挙げたのは、油やしプランテーション、補償問題および居住条件である。

図 13 Muara Mahat Baru 村の重要施設までの距離

… 省略

14.0 GUNUG BUNGSU 村 PRA ミーティング

村の名称 : GUNUG BUNGSU 村
実施日 : 2002 年 3 月 9 日
時間 : 午後 8 : 00 - 午後 11 : 10
場所 : MDA (Madrasah Diniyah Awaliyah)

議長 : DR . Yoserizal、MS

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI)
 1. Dr.Suardi Tarumun
 2. Ir.SaktiHutabarat, 農業経済修士
 3. Ahmad Rifai
 4. GME. Manurung,、SP,MP
 5. Ir.Lumen Mfundu
 6. Desriwan, SH

- ・PT. Bita Bina Semesta (BBS):
 1. Ir. Agust Siswanto
 2. Ir. A.RahmanSabiro
 3. Soeyono,SH

参加者 : 90 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

14.1 一般的事項

会議は、90 名の参加者により 8 時に始まった。住民の一人から述べられた最初の質問は経過報告および会議の目的に関するものであった。後者は NGO や大学関係者がすでに何度も村に来て同じ問題を調べていったにも関わらず、今日まで住民の生活に何の経過報告も改善もないと述べた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

概して、コミュニティは、政府に騙された被害者であるという事実を遺憾としている。政府はその約束を守ることを怠った。不幸にして、政府の約束は全て口頭であり、書面に残されてはいない。だが、他村の住民も口を揃えて、同じ内容の政府の約束を報告していることに注目すべきである。コミュニティは何の約束も実現しなかったことを認め、結果的に政府に対する信頼を喪失している。彼らの経済的生活は元の村で米作、農耕、栽培をして生計を立てていた頃とは変わってしまった。

元の村のあった一帯は今は水力発電プロジェクトの電力発電用の水がめとして没してしまっている。したがって、現在彼らは安定した生計手段を何ももっていない。

B. コミュニティにとって災いをもたらした冠水の前に計画された変更の影響

今コミュニティが直面している最も重要な問題のひとつが、Gunug Bungsu 村および Tanjung 村の境界に関するものである。それをめぐるいさかいは頓にエスカレートしてきている。事実 PAF 会議の最中にも、Gunug Bungsu のコミュニティに属する木々を Tanjung コミュニティの者が切り倒したという理由で、あやうく大きな乱闘が起こるところだった。潜在的対立は州政府が境界の線引きを明瞭にしなかったことにある。Tanjung コミュニティは、GunugBungsu コミュニティが開墾した土地についても、彼らは同地域に地方移住民としてやってきたのであり問題の土地区画を与えられてはいないとして、原住民としてその所有権を主張している。一方、Gunug Bungsu コミュニティは土地は政府の補償の印であると感じている。身体的乱闘傾向をもつ対立は頻繁に起こっているが、当局は何の対応も示していない。

コミュニティは政府が書面による命令のかたちで、村の境界を設定するか、もしくは他の居住区を見つけることを提案している。PAF は親戚達との境界にかんする継続的な対立よりは、新しい地域に移住することを望んでいる。

C. コトパンジャン水力発電プロジェクト開発により生じたプラスおよびマイナスの影響例

1. プラスの影響

- ・コミュニティ、農地、産業および政府への電力供給を目的とする水力発電プロジェクト開発はコミュニティおよび灌漑地域周辺の地元村民に直接間接的なプラスの影響をもたらす結果となった。
- ・水力発電による電気の供給はコミュニティにとって燃料の節約を可能にし、子ども達が夜も電灯のもとで勉強ができるようになった。
- ・コトパンジャン水力発電プロジェクトは灌漑の影響をうけた家屋にも受けなかった家屋にも直接電気を供給することになり、家内工業に便益をもたらした。

2. マイナスの影響

Tigabelas KotoKampar 地区の 12 ヶ村を水没させた同プロジェクトはプロジェクト地域内の住民に直接的なマイナスの影響を与える結果となった。それには、農業、定住、住居、漁業および輸送など、種々のコミュニティの局面への影響が含まれる。Gunung Bungsu コミュニティが元の村で得ていた収入源はもはや利用できない。したがって、親が費用を払う余裕がないために通学を中止せざるを得なかった子ども達の将来について非常に憂慮している。

もっともあからさまな、影響は灌水の影響を受けた者とそうでなかった者に対する土地の補償についての社会共同体対立の発生である。新しい村において約束した修復が実現されなかった場合には、政府はコミュニティが政府に対して抱いている信頼を失うことになる。

14.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 補償問題についての PAF の見解

土地の補償に関するプロジェクトの結果として、内在する基本的な問題で表面化してきたものは、今日に至るも、満額支払われていない件があるという問題である。實際上、全 PAF は、この問題を認識している。しかし、PAF 間の支配的な苦情は、コトパンジャン水力発電プロジェクトに影響を受けた土地所有者について、補償額が低く評価されたことおよび確立された土地評価額が存在しなかったことである。PAF が手放した元の村の土地が彼らの生計に相当の貢献を果してきたのに、補償が低額であったので、地方経済の体系は困難な状況となっている。

2. コミュニティの、政府に対する土地補償請求申し立ての努力

PAF は BPN、(国立土地庁) 公共事業および Kamar Penda (地方政府) などの関係機関へ接触し、相当額の金を費やしてきたが、期待に見合う結果は得られなかった。

PAF の中には、一部の土地について補償が行われていないと打って、その問題の解決を要請している者もある。

3. PAF は、一般市場価格に即した価格を受け取れるような補償計画の見直しを提案している。

B. 上水道

1. 上水道に関する政府の約束

新しい村での PAF は、上水設備を有していない。というのは、地下水へのアクセスには最低 10 メートルの深さが必要なのに、政府の供給した井戸は僅か 2, 3 メートルの深さであるからだ。そのため、移住以降、PAF は雨水を集めたり、地元の水源を活用することを選択しているが、それらは限られた水量にすぎない。

2. 上水設備改善の努力

PAF は今日に至るまで、付近に各戸に供給するに十分な地下水源が利用可能であるにもかかわらず、政府がなんの問題解決の努力もしてこなかったと感じている。

3. PAF は政府が地下水井戸の建設費用を負担して、PAF 自身が井戸を実際に掘るという提案をしている。

C. MCK 設備

1. 政府の MCK 設備提供の約束は使用に適さないトイレ以外は何も実現しなかった。現在半数の世帯は、トイレがなく、川もしくは地面の穴で用を足している。会議で集めた情報は、PAF が MCK 設備が約束通り提供されなかったことについてプロジェクト当局に非常に失望していることを示している。現在、住民の多くが、排泄物をビニール袋に入れて、捨てている。それらはそのまま放置されている。その袋は空飛ぶトイレと呼ばれている。
2. 今日まで、政府は使用に適した MCK 設備改善への努力を何もしてこなかった。
3. この問題に関して、PAF は新たな適当な MCK 設備建設を提案している。

D. 電気の供給

1. 政府は新しい村では各住居にスイッチを押すだけの電気供給について PAF に明示的に約束した。その上、PAF は引き込みおよび月々の使用量を課徴されないことになっていた。しかし現実には、PAF は 2 年も待って、引き込み料を 15 万ルピー支払い、おまけに月々の使用料も請求されている。PAF は市街地のようなちゃんとしたものでない電気の引き込みをしてもらうまでに長い間待たされた。
2. PAF は無力で政府のなすがままであった、というのも今日に至るも、街灯料金を徴収されているにもかかわらず、街灯は設置されておらず夜道は真っ暗なままである。彼らは政府にはうんざりしているが、電気の問題解決を期待している。
3. PAF は政府がその約束を守ることを提案している。彼らは、リアウ本土から西スマトラに至る地域の電気供給のための水力発電プロジェクトのために自分等の土地を手放したのだから、彼らへの電気の提供については特別な処遇がなされてしかるべきだと要求している。コミュニティの努力
電気の供給に関して、PAF は電気獲得の努力は何もしなかった。運命にまかせているのだ。

E. 住宅の供給

1. 政府の住宅供給の約束

政府は一部セメントで、一部木製の壁の半永久型住居を提供する約束だった。しかし、その約束は果されず、代わりに、薄いセメント床の厚板の住居を支給された。よって、多くの住民はその住居を放棄し、メインストリートの近くに家を建てることを選んだ。

2. 彼らは政府に訴状を提出したが、今日に至るも回答はなく、終に住民は政府に愛想をつかした。

3. 彼らは彼らの子ども達が赤痢、コレラその他の疾病の脅威から免れるような健全な住居を建設するというので、政府が約束を果すことを提案している。

F. ゴム / 油やしプランテーション

1. 政府のプランテーション提供の約束

ゴム栽培は主たる収入源であるため、その栽培は非常に重要な問題である。政府は PAF に新しい村に移住すれば即樹液の採取が可能なゴムのプランテーションを約束したが、実際は、新しい村には、プランテーションもゴムの木もなかった。事実、PAF は植樹に 5 年間待たなければならなかった。現在木々は 2 歳で、樹液採取までに後 4 年を要する。日常の必要消費を満たすために、灌水を免れたゴムの木から採液するために元の村へ返った PAF もある。他のものは新しい土地で生き延びるためならどんな職でもありつこうとしている。

ゴム栽培は 1999 年に実現されたがその場所は村から極めて遠いため、特に雨季にはアクセスが非常に困難になる。かくて、彼らはよりよいアクセスのために道路の改善を求めている。

2. PAF は、ゴムの木が採液可能になるまでの期間、政府がプランテーションの維持費を支給することを保証してほしいと提案している。

G. 収入

1. 新しい村における収入源

旧（元の）村では、一般的な職業として、農耕、森での材木の切り出し、米作、川での魚捕り、ゴムの樹液採取などがあった。新しい村では、彼らは職業の転換を強いられている。あるものは湖（ダム）での漁業に救いを求めている。しかし限られた魚の群れを多すぎる釣り人が捕獲しようとするので、魚の数が減少してきている。

2. 代替収入源の一つは、ガンビルの栽培であるが、これも限りがある。他の者は、農場労働、クーリーなどの職を求めている。

3. PAF はゴムが採液可能になるまで生活費手当の支給を提案した。彼らはまた代替収入源開発のための貸し付けを要求した。

H. 非政府組織（NGO）

彼らの NGO に対する反応は肯定的である、というのはいくつかの NGO がコミュニティの願望を弁護するために実際に闘った経緯がある。それでもなお、PAF の中には、非現実的な約束をしてコミュニティ内に対立を起こしたとして、NGO に対して否定的な認識を持つ者がいる。彼らの村における生活条件を向上させるためには、UNRI のようなリアウにある他の団体の関与も必要であると感じている。

14.3 その他の確認事項

1. Gunung Bungsu および Tanjung 間の耕作地に関する対立は、ゴムのプランテーション用のものである。Gunung Bungsu コミュニティは土地は灌漑した村の補償として彼らに与えられたものと考えているが、Tanjung コミュニティは補償問題は解決しておらず、彼らが正当な土地の所有者であると主張している。
2. Gunung Bungsu コミュニティは耕作用地を持たない既婚子孫を憂慮しており、そういった若い家族に対する支援を望んでいる。
3. PAF は 3 つの最優先事項を以下のように確認した。
 - ・ Gunung Bungsu および Tanjung コミュニティ間の対立を解決すること
 - ・ 代替収入源の開発用資金貸付の支給
 - ・ 若い既婚家族の問題を解決すること

最優先事項のとりまとめは次のとおりである。

GUNUNG BUNGSU 村における解決すべき問題の優先順位

No.	問題の種類	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地の補償	29	5	6
2	ゴム / ヤシ油プランテーション	3	3	5
3	上水道	0	1	1
4	電気	1	2	3
5	住宅条件	0	2	2
6	MCK	0	0	0
7	道路条件	1	0	6
8	生計	6	12	7
9	世帯の展開	0	0	0
10	村の境界	44	33	11
11	Jadup (生活保証)	0	26	31

PAF はゴム園、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等のよく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた（図 14 参照のこと）。

14.4 PRA ミーティングの概要

1. Gunung Bungsu の PAF の間で大勢を占める苦情は、土地の補償に関するもので、彼らは補償額が低すぎると考えている。加えて、全ての土地区画が補償されたのではなかった。
2. ゴム栽培は主たる収入源である。しかし、政府の当初の約束通り収穫できるゴムの木がある代わりに、PAF は木が植えられるのに 5 年待たねばならなかった。現在、その木々は 2 歳で、さらに成熟まで 4 年を要する。その上、ゴムのプランテーションに利用する土地に関する対立が Gunung Bungsu と Tanjung コミュニティの間に起こっている。Gunung Bungsu コミュニティは土地は灌水した土地の代替地として与えられたものだと考えているのに対し、Tanjung コミュニティは彼らが正当な所有者であると考えている。それ故、コミュニティ間の対立は流血を見る前に出来る限り速やかに解決されなければならない。
3. 政府は上水設備、MCK および電気設備完備の半永久型住居を約束した。しかし住居は薄いセメント層の床の厚板張りのものだった。水を供給する目的の井戸は、地下水のレベルが少なくとも 10 メートルであるのに、深さが 2-3 メートルしかなかった。その様な中で PAF は現在、雨水を集めるか地元の水源を利用している。欠陥トイレでできた MCK 設備のため、半数の世帯がトイレなしで生活している。各家庭に無償で電気を引き込む代わりに、PAF は 2 年間待たされて、引き込み料を支払わねばならなかった。
4. PAF の多くは NGO を善意に捉えている。というのも彼らは NGO が彼らの要望を唱道していると感じているからだ。しかし NGO のコミットメントは非現実的だと考えている PAF もいる。
5. コミュニティは新婚カップルについて憂慮し、政府が彼らのことを考慮してくれる様望んでいる。元の村では、子供たちはまだ若く未婚であったが、その多くは今は大人に成長している。
6. 3 つの優先順位の最も高い課題は村境をめぐる対立の解決、代替収入源開発に対する貸付の給付の問題および新婚カップルへの支援提供である。

図 14 Gunung Bungsu 村の重要施設までの距離

… 省略

15.0 TANJUNG 村 (移住せず) PRA ミーティング

村の名称 : TANJUNG 村 (移住せず)
実施日 : 2002 年 3 月 15 日
時間 : 午後 2 : 00 - 午後 5 : 30
場所 : Tanjung 村の小学校
議長 : IR.LUMEN MUNDI

チームメンバー

- ・リアウ大学 (UNRI) : 1. Ir.SaktiHutabarat, 農業経済修士
2. Ahmad Rifai, SP,MP
- ・PT. Bit a Bina Semesta (BBS) : 1. Dr.Lucia Nugroho, MSc
2. Ir. Agus Darsono
3. Ir.AgustS iswant

参加者 : 53 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

15.1 一般的事項

会議は、Tanjung 村の小学校 SD016 の敷地内で午後 2 時に始まり、村の職員、LKMD、農家団体の長、長老、コミュニティのリーダー達、イスラム教聖職者、女性、若者を含む 53 名の参加者が出席した。会議は UNRI のチームによる参加者への会議の目的および目標の説明で始まった。

その後、Tanjung 村の村長が歓迎の辞を簡単に述べ、その中で、コトパンジャン水力発電開発プロジェクトが Tanjung 村にも影響を与えていること、即ち、今日まで住宅およびプランテーションの支援を何も受けていない Balik Tanjung のコミュニティに言及した。

リアウ大学の調査チームに対するコミュニティの反応はまたかという感じであった。というのもすでに多くのチームが同じ目的で村を訪れたが何の結果も得られなかったからだ。当然、コミュニティは当日の会議の目的、チームの出生地および集めた情報やデータをどうするのかなどについて尋ねた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

1. コミュニティの大多数は、彼らの経済的および教育的見地からみた生活は、コトパンジャン水力発電所の存在の前と同じであると述べた。
2. 灌水に先立ち計画された変更の影響は、とどのつまり、コミュニティにとって好ましくない結果となった。

コトパンジャン水力発電プロジェクトによって煽られたマイナスの影響には、補償プロセスの不明瞭さにより、社会的絆が弱まったことが含まれる。この状況が生じたのは、「補償の仲介役」の存在のせいで、多数の正当な所有者が政府が払い出した補償金を受け取ることがなかったのだ。この結果、多くの人々が自分達の村の長老（nirik mamak）をもはや信頼しなくなってしまった。

3. Balik Tanjung 村出身の 45 世帯が補償金を受け取ったが、他の再定住村落に与えられた、ゴムのプランテーション等の施設は何も得ていない。

B. コトパンジャン・ダム開発により生じたプラスおよびマイナスの影響例

1. プラスの影響

良い道路設備により、輸送が自由に往還するようになった。それにより農産物が楽に市場に出せるようになった。他のプラスの影響にはコミュニティ全体への電気および湖での魚釣りなどの新規の収入源の出現がある。

2. マイナスの影響

- a. 人々が、通常は大衆の模範であるべきはずの、自分達の村の長老達（nirik mamak）をもはや信頼しなくなったために社会的絆が崩れ壊れてしまった。
- b. かつて上水源であった川がダムに沈んでしまったために上水源が欠乏している。
- c. Tanjung 住民の中には所有する土地がダムに沈んでしまった者もある。よってそのような土地はもはや利用できないので、生計は苦しくなった。

15.2 具体的事項

A. 土地の補償

海拔 + 85 メートルの予定灌水上昇に正に位置していた Tanjung Balik 村出身の 45 世帯の PAF を除き、Tanjung 住民の大多数はコトパンジャン・ダムの灌水による影響を受けていない。その 45 世帯の PAF は政府から住宅、土地および植物の補償を受け取った。Tanjung 村は、独自により高所へ移住することを選択したので、政府の再定住プログラムの下で移住した PAF が政府から得たような設備類は何も得てはいない。

それにも関わらず、PRA ミーティングの間に、PAF が自分達はより高所へ移動することを強要されたと考えていることが明らかになった。よって会議中に、その 45 世帯の PAF の代表は、他の再定住村落と同じように、住宅の提供、2 ヘクタールのプランテーション用地、ゴムの木および生活手当てを含む待遇を要求した。

彼らは自分達もまたコトパンジャン・ダムの灌水のせいで移住を余儀なくされたとして、自らの要求を正当化した。現在、PAF は耕地を所有しておらず、再定住設備を受け取った PAF の中には Gunung Bungsu コミュニティと結束している者もある。

B. 上水道

Tanjung の上水供給の主水源は、サンヨーのポンプを利用した掘削井戸である。

C. MCK 設備

Tanjung 住民の 40% は自宅に MCK 設備があるが、60% は、MCK の営みに川を利用している。

D. 電気の供給

コトパンジャン水力発電所は Tanjung 住民に屋内の照明および、炊飯などの家内活動の享受を可能にした。

E. 住宅

総じて、Tanjung 村での人々の住宅はコンクリート製で、こざっぱりしている。

F. プランテーション

Tanjung で開始されたプランテーションの活動は、主としてゴムおよびガンビル、それにオレンジの木である。

G. 収入

Tanjung の人々の主な収入源は農業、即ちゴムおよびガンビルの木である。しかし、コトパンジャン水力発電所開発に伴い、現在ダム湖で魚を捕っている者もある。

H. 非政府組織 (NGO)

コミュニティは、今日に至るまで、コミュニティの福利向上を支援した NGO はないと報告した。

15.3 その他の確認事項

1. Balik Tanjung に住んでいる 45 家族がコトパンジャン水力発電所によって直接の影響を受けたと見られる。その 45 家族は Gunung Bungsu 村の移住組に含まれる。しかし、彼らは他の移住者に割り当てられた住宅やプランテーション等の権利を全く受け取っていない。

2. 上記 45 世帯の中の 2 家族ほどが、Gunug Bungsu において住宅を支給されていた。しかし、村長は、今日まで、彼らに住宅証明書を与えようとしないので、問題の家族はその住宅を所有することができない。
3. 住民の中には Gunung Bungsu に土地を持っている者があるが、其処では市場およびやし油プランテーションが現在開発途上である。
4. Tanjung 村は水田用のセミテクニカルな灌漑システムを持っているが、今は最大限に機能していない。したがって、雨季には今でも洪水が発生し、乾季には灌漑溝が乾き切ってしまう。
5. コミュニティは ninik mamak (村の長老) に対する嫌疑を避けるために、灌漑地帯の地図を供給している。

PAF が直ちに解決されるべきだと考えている問題は：

1. ヤシ油プランテーション：住民はプラズマプランテーションのローン返済の免除を希望している。また彼らは無償でゴムのプランテーションを支給された村でなされているように、肥料および維持費の援助を受けたいとも希望している。
2. 補償：住民の補償額再考の要求および強制的に退去させられた土地の補償の要求
3. 住宅事情：住民は住宅が政府の約束を順守して改修されることを要求している。

問題のランキングは次のとおりである。

TANJUNG 村（移住せず）における解決すべき問題の優先順位

No.	問題の種別	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
1	土地の補償	71	4	1
2	ゴム / ヤシ油プランテーション	2	30	10
3	上水道	0	9	3
4	電気	0	1	5
5	住宅条件	0	7	6
6	MCK	0	2	0
7	道路条件	0	3	6
8	生計	6	5	27
9	世帯の展開	0	0	0
10	村の境界	0	0	0
11	Jadup (生活保証)	0	0	0

PAF はゴム園、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等のよく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた。（図 15 参照のこと）

15.4 PRA ミーティングの概要

1. 当初コトパンジャン水力発電所プロジェクトに影響を受けていないと考えられていたTanjung村ではおよそ45世帯が灌水の影響を受けたと見られる。彼らは海拔+85mという、予定灌水上昇の地点にまさしく位置していたTanjung Balik村の出身者である。その45世帯は移住をしたGunung Bungsu村の一部と見なされていたが、今日まで移住PAFが割り当てられた補償調停、住宅、果樹園およびプランテーションを含む権利のいずれも受け取っていない。
2. コミュニティの主な収入源は、ゴム、ガンビルおよびオレンジの木からのものである。Tanjung村の住宅は殆どがコンクリート製で、電気ポンプ付き地下水井戸から水を得ている。つまり、コトパンジャン水力発電所は村に電気をもたらし、住民は彼らの家にMCK設備を供えている(40%)か、もしくは川を利用している。
3. 多くの人々がもはや自分達の「村の長老」、nirik mamakを信頼していないので、コミュニティ内の社会的絆は崩れてきている。この状況は土地補償プロセスの不明瞭性に結果であるとして、コミュニティは村の長老に対する疑惑を回避するために灌水地帯の地図を要求している。
4. コミュニティが最優先的に解決すべきだと考えている3課題は、コミュニティが返済を渋っている、プラズマヤシ油プランテーション・ローン、放棄した土地の補償および住宅の改修である。

図 15 Tanjung 村（移住せず）の重要施設までの距離

… 省略

18.0 TANJUNG BALIK 村 PRA ミーティング

村の名前 : Tanjung Balik
実施日 : 2002 年 3 月 8 日
時刻 : 午後 2 : 00 - 午後 5 : 00
場所 : Tanjung Balik 村 コミュニティホール

議長 : DRS. AFRIZAL, MA

チームメンバー

- ・ アンダラス大学 (UNAND) :
 1. Prof. Dr. A. Azis Saleh
 2. Prof. Dr. Bujang R
 3. Dra. Mira E. MS
 4. Drs. Syahrizal, MS

- ・ PT. Bita Bina Semesta (BBS) :
 1. Drs. Ano Sumarno
 2. Ir. Baban Suhendar

参加者 : 55 人 (参加者リストは別紙)

18.1 一般的事項

会合は昼食の後、午後 2 時から始まり、午後 5 時に終わった。44 人の参加者の中には、村長や宗教指導者、村の名士、若者、女性、村の代議員、BPAN の書記が含まれていた。会の終わりごろ、地区の役人が到着し、閉会を任せられた。会は、議長によって開会され、続いて村の役人とアンダラス大学の代表者の演説、次に討論が行われ、閉会となった。

議長は、移住問題とその体験のデータを集めるという、会の目的を説明した。居住者たちは、不当な扱いに対する不満を述べた。

Tanjung Balik 村の代議員は、村の将来の生活環境の改善を期待して、アンダラス大学チームの到着を長いこと待ちわびていたと述べた。この作業を容易に行うためには、村人たちからの協力の下に、必要な情報を集めることが不可欠である。

討論に入る前に、何人かの居住者から以下の質問を受けた。

- ・ アンダラス大学チームの訪問の目的は、前回の会合の評価や追跡調査なのか、あるいは、コトパンジャン・ダムによる被害を調査したり改善したりすることなのか。
- ・ 招待が予定されていた West Sumatra 州政府と 50 Kota 県政府の欠席について。村の代議員は、会合に関して行き違いがあったと述べた。

・ PAF の参加者は、データ集めの会合に退屈して、会を実際の行動にうつすことを求めた。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

まず、居住者が移住の結果、苦しめられている。いくらかの居住者は、暮らしの改善を経験したが、約 70%は新しい村の生活に苦しんでいる。新しい村は、彼らの暮らしに価値のあるものをもたらさなかった。ゴムとその他の作物（それぞれ 4000 m²）は、資本が不十分、土壌が（ゴムやガンビルの）栽培に不適切など様々な理由で、収穫できなかった。さらに、ガンビルの生産に必要な薪や水が容易に手に入らなかった。

居住者の大半は、清潔な水を手に入れるために困難を強いられており、その水の量も限られている。彼らは、政府が様々な約束を果たさなかったことに幻滅しており、政府への信頼はとても低い。彼らは、データ集めの作業に飽き飽きしており、問題を解決するための行動を求めている。

村の代議員は、新しい村での生活条件についてのコミュニティー・アセスメントを開くことを確認した。いくらかの居住者は、彼ら自身の努力によって暮らしを改善したが、同時にほかの人々は移住によって苦しんでいる。しかし、いまだに補償金を個人的な楽しみに使う者がいる。

B. 浸水前に計画された変化による影響。村人は、それを徐々に受け入れ難くなってきている。

会合は、コトパンジャン 水力発電所プロジェクトによるポジティブな面の代わりに、ゴム農園や清潔な水、家、無料の電力が提供されるという約束が実現しなかったことによるネガティブな面を明らかにした。居住者たちは、ダム開発によって不利益を被ったのである。

C. コトパンジャン・ダム開発によるポジティブな面とネガティブな面の例。

政府が約束した Kotapanjang 水力発電所によるポジティブな面は、それが果たされなかったことによって、ネガティブへ変化した。居住者たちは、採取が可能な状態のゴムの木農園や、適切な補償、良い家、清潔な水、無料の電力など、権力者に約束されたものを受け取ることができなかった。

1. ポジティブな面

- a. 補償金や新しい村の外部からの収入によって、たくさんのコンクリートの家が建てられた。
- b. 広い道路

- c. クリニック
- d. 電力の導入

ダム開発によって、居住者たちの村の60%の家に電力が導入されたことは事実と認められる。電力の導入によって、居住者たちは、テレビやラジオ等電気製品を利用することができるようになった。実際、何人かは電気炊飯器や冷蔵庫を所有している。

移住によって、新婚夫婦は土地と家が与えられた。居住者の報告によると、例えば、前の村では一軒の家に4世帯が住んでいたが、いまでは、それぞれの世帯が、小さい土地に一軒ずつ家を持っている。

少数の者は、副業としてダムで漁をする。

2. ネガティブな面

a. 収入源が遠くなり、アクセスが悪くなった。

政府が提供した農園から収入が得られる期間は、期待よりも短く、ほかの収入源は利用できない。その結果、前の村の浸水を免れているゴムとガンビル農園に頼らなければならないが、今の村から少なくとも10km離れている。さらに、農園の水位が高い場合は、ボートで行かなければならない。

b. 農業用地の減少

ダムは、農業用地の面積を減少させた。まだ補償を得られていない農地は、アクセスが悪いことや、水位が高いときの浸水によって、耕作できない。

c. 雇用の変化

居住者のうち少数の者は、農地が失われたため、農民から石の採集業に従事するようになった。

清潔な水へのアクセスが難しくなった。

- 水道設備がない
- 浅い井戸は、水質が悪く（色、悪臭）、乾季には干上がるので、使えない。
- 多くの居住者たちは、費用がかさむため、深い井戸を掘れない。
- 水源が少なく、家につなぐには費用がかかる。
- 乾季には、水を得るために、隣の村（元の村）に戻らなければならない。
- 何人かは、水を得るための交通費に一回 Rp 2000 使わなければならない。

伝統文化が変化し、村人たちは結婚パレードを執り行なえない。

歴史的な場所の喪失。

18.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 政府が約束した補償

土地と家の補償についての PAF の意見：

- a. 政府は、浸水や孤立したすべての土地と作物を補償することを約束した。現在までに、浸水した土地のみが補償され、他は、係争中。
- b. 約 50%の土地が補償されていない。
- c. 何人かの居住者は、前回浸水と分類された土地が、後にまだ浸水していないと判断され、補償が延期されたと報告している。
- d. 補償されていない土地の区画が幾つか存在する。
- e. 多くのゴム農園とオレンジ果樹園が補償されていない。
- f. 補償スキームは以下のようにになっている。
 - 家の価値は、そのタイプに依る。
 - 作物の価値は、そのタイプに依る。
 - 価値は、主な道路からの距離に依る。
 - 村長は、補償額は一度固定されたと発表した。
 - しかしながら、何人かの居住者は、政府によって固定された補償額について、交渉することを許されなかったと報告している。
- g. 村人たちの財産の目録には、森の中 5km のものまで記録されている。
- h. 補償額は、不公正だと思われる。
- i. 村人たちは、政府の職員に強制され、補償スキームを受け入れてしまったことを後悔している。
- j. 補償スキームについて不整合や不公正と言われていること
 - 道路沿いの土地は、Rp 750/m で補償されるという合意があったにもかかわらず、実際は、それよりも少なかった（実際の金額は述べられていない）。
 - 遠くにある農園の作物も補償されると思っていた。
 - 家の補償額が決まったとき、負債の償却についての説明が無かった。しかし実際の支払いのとき、負債の分は財産の価格から差し引かれていた。例えば、家が Rp 2500 万と言われていても、実際の実受取額が、負債の償却後の金額で、Rp 1500 万になった。居住者たちは、受け取った補償額が新しい家を建てるのに不十分なので、このようなやり方を遺憾に思っている。
 - 補償の決定が不明朗。例えば、補償額が Rp 300 万となるような家でも、その家の写真を見せると、Rp 700 万に増えたりする。居住者たちは、補償スキームが、無責任な役人に作り変えられていると感じている。
 - すべての営利目的の作物は補償される。
 - 幾つかの土地区画は補償されていない。
 - 浸水した土地の作物は補償されていない。

2. 村人たちによる、土地補償要求を政府に届ける努力

村人たちは、補償を求める幾つかの努力を行った。

- a. 与えられた補償額が不本意であることを表明し、幾つかの要求は満足された。
- b. 不満を村長や地区の役人に提出したが、現在までに、結果は得られていない。
- c. ある一人の居住者は、何組かの世帯を代表して、問題を裁判所に持ち込んだが、弁護士が買収されてしまい、失敗した。さらに彼は、治安将校に脅迫され、訴訟を取り下げた。彼のケースは、すでに人権委員会へ持ち込まれている。
- d. 何人かの居住者は脅迫によって、自らの権利を要求することを恐れている。

3. 土地補償問題を解決するための PAF の提案

補償問題が係争中のすべての土地区画を見直し、完全に補償すること。

B. 上水供給

1. PAF は、いくつかの問題を、以下のように特定した。

移住の前、彼らは、前の村と同じように清潔な水を新しい村でも得られると約束された。井戸は、二軒に一つずつ提供されると約束された。しかし、移住してみると、井戸は浅く（3-4m で、コンクリート製）、水質は低く（色、悪臭）、乾季には干上がるものであると分かった。

2. 改善への努力

浅い井戸の問題を解決するために、PDAM は、居住者に清潔な給水設備を提供した。

- PDAM は、Tanjung Balik 村の居住者に水を供給するために給水車を持ってきたが、その活動は短期間で終わった。
- PDAM は、水道管ネットワークと貯水槽を備えた水道設備を建設したが、二日後に壊れた。

3. PAF は、以下を提案した。

- すべてに家に水道を引く。
- 水道管ネットワークはすでに敷設されているので、政府がすでに存在する PDAM の貯水槽を修理すること。

C. MCK 設備

1. 約束と実現

PAF は、MCK 設備が新しい村での清潔な水の供給において特に重要だと感じている。何人かの居住者は、トイレの無い MCK 設備を受け取った。このような設備は浸水地域にあり、乾季には水源が貧弱で役に立たない。

2. 改善への努力

政府は、MCK 設備の改善に何の努力もしていない。

3. PAF の提案

- ・ 村人たちは、メンテナンスの問題から、共用の MCK 設備を求めている。
- ・ MCK 設備をすべての家に設置すること。

D. 電力供給

1. 移住の前、無料で電力がそれぞれの家に導入され、最初の年は利用料がいらないと約束されていた。しかし、

- ・ 導入費用として Rp 12 万支払わなければならなかった。
- ・ 最初の年も利用料金を請求された。
- ・ 費用 Rp 50 万（現在の料金）を支払う余裕が無いため、現在までに、50%の家には電力は導入されていない。

2. 現在まで、政府は電力供給についての約束を果たしていない。

3. 居住者たちは給電設備をすべての家に導入することを求めている（ただし電力は除く）。

4. 会合では、PAF からの電力に関する提案を公開しなかった。

E. 住宅の供給

1. 移住の前、彼らは 6×6 の半永久式の家を約束されていたが、実際に受け取ったものは、非永久式の家だった。

- ・ 家は、木材とトタン屋根でできていた。
- ・ 低品質の床（薄く接着された木の床）
- ・ 幾つかの家は、丘や沼地に建設された。

2. 政府は、家の基礎に二列の中空レンガを付け足し、改善した。一般に、村人たちは、自分たち自身で家を修復した。

3. 会合では、PAF からの住宅改善に関する提案を公開しなかった。

F. ゴム農園

1. 移住の前、彼らは 2 ha の採取可能なゴム農園を約束されていた。
 - ・彼らが受け取ったのは、数本のゴムの木以外何も無い土地だった。
 - ・ゴムの木は、二年前に採取が可能な状態にされていなければならなかった。
 - ・彼らは、2 ha の土地を受け取るはずだったが、実際には、それよりも少なかった。
 - ・彼らは、一世帯当たり 4000 m²の農地を耕作のために受け取った。
 - ・ゴム農園に行くには 30～90 分かかる。
2. ゴム農園の向上のための努力
 - ・政府は、一世帯あたり、Rp 70 万と 800 の苗木を提供した。
 - ・これらの努力は、低品質の苗木と不十分な資金のため失敗した。何人かの居住者は、資金は苗を再び植えるためには使わず、貧しい生活の足しに使ったと言った。
3. 提案
 - ・政府は、2 ha のゴム農園再生のために完全な補助を提供すべきである。
 - ・何人かの居住者は、2 ha の農園のうち、半分の責任は政府が負うべきだと提案している。
 - ・お金は不適切に使われたり、別の目的に使われたりするので、補助はお金以外の形で行われるべきである。
 - ・政府は農園再生のために、直接的な補助を提供すべきである。
 - ・村人たちは、ゴム農園が採取が可能な状態ならば、2 ha より小さくても受け入れる用意がある。
 - ・農園再生の前に、居住者が再生を見て取れるように、土地は再測量されるべきである。

G. 収入

1. 収入源

移住後、いくらかの居住者は職業を変えた。少数の者は、農民からパヤクンプ-プカンバル ハイウェイ沿いで石の採集を行うようになり、ダムでの漁に頼らざるを得ない者もいる。

居住者たちは、収入を増やすために様々な努力をしている。それは、直接に新しい村の土地を耕すという方へは向かず、元の村に戻ったり、新しい村の外へ出たりして行われている。実際、多くの村の若者が職を探しに他の地域へ出て行く。

PAF は、彼らの村の貧困を和らげるための、具体的な作業に着手することを提案する。それは、貧しい居住者にとって必要なものが何かを特定する研究であり、BPAN もこの研究に巻き込んでいくべきである。

H. NGO

居住者たちは、NGO の存在を気づいているが、現在までに、政府の約束に対する彼らの権利の要求を助けた NGO は無かった。

18.3 その他の確認事項

1. 様々な理由から、約 30%の居住者が新しい村を去り、元の村に戻った。主な理由は、彼らが、新しい村で収入源を見つけられなかったことだ。何人かの居住者は隣の村に住んでいる。
2. 彼らは、ゴムの木や、ランブータンの木、キャッサバ、ドリアンを、与えられた何も無い土地区画に植えた。しかし、その土地は焼かれてしまい、再び何も無い土地になってしまった。彼らは、土地を耕さなかった居住者がねたんで放火したと思っている。
3. 村の土壌の pH は、標準よりも低い。
4. 彼らは、Tanjung Balik 村から分離した市場のような設備支援を求めている。
5. 社会文化の変化。新しい村は山がちなので、結婚パレードは行われなくなった。先祖代々の墓地は移住の際に補償されず、彼らは、このような歴史的な場所を失った。
6. もし、NGO が支援プログラムの実施に巻き込まれていたら、村の若者は Tanjung Balik 村での NGO の活動に係わりたいとは思わなかっただろう。
7. Tanjung Balik 村とタンジュン・パウ村の関係は、プログラムや設備の共通での実施(たとえば、後者に設置された清潔な水源を共有するなど)に、彼らが喜んで参加しないことが示しているように、仲はあまりよくない。
8. 問題の優先順位。
9. PAF は、3つの優先すべき問題を特定した。それは、ゴム農園と、土地と作物の補償、清潔な水の供給である。

優先事項のランキング：

番号	具体的問題	得票数
1	土地の補償	33
2	清潔な水	26
3	MCK	1
4	電力	5
5	家	3
6	ゴム農園	37
7	職業	12
8	道路の状態	3
9	NGO の協力	0

PAF は、頻繁に訪れる必要のある場所までの時間と距離を尋ねた。例えば、ゴム農園、市場、学校（小学校、中学校）、礼拝の場所、クリニック、村役場など（図 18 を参照）。

18.4 PRA ミーティングの概要

1. Tanjung Balik 村の PAF は、コトパンジャン・ダム計画が村人たちの生活を困難にしたと感じている。村人たちは、約束を守らない政府にだまされたと感じている。
2. PAF によると、村にコンクリートとレンガ造りの家や、広い道路、クリニック、電力が整備されたことなど、ダムによるポジティブな影響がある。一方で、収入源へのアクセスが困難になったことや、農業用地の減少、雇用の変化、歴史的場所の喪失など、ネガティブな影響もある。
3. 政府は、土地の補償についての約束を守っていない。現在までに、浸水した土地だけが補償され、それ以外は係争中のままである。
4. ほとんどの PAF は、政府がそれぞれに清潔な水と MCK を提供することになっていたと述べたが、実際には、政府が提供した給水設備は十分なものではなかった。提供された幾つかの MCK にはトイレが無い。給水の問題を解決するため、ほとんどの PAF は、乾季に水を水販売業者から買っている。
5. PAF は、政府と PLN に、給電設備への接続と、一年間の電力を無料で提供されると約束されていたが、実際には、その料金を支払わなければならなかった。設備への接続は相対的に高価なため、多くの PAF は、接続しないままである。
6. PAF は、政府によって提供された家が、標準よりも質が悪く、政府が約束した半永久的に使える家ではないと思っている。
7. 移住の前、PAF は、採取可能な 2 ha のゴム農園を約束されていたが、それは単にうそであった。政府によってこの問題を解決する幾つかのプログラムがあるが、現在までに、ゴム農園はまだ、採取可能になっていない。

8. PAF にとって、解決が優先されるべき問題は、ゴム農園と、土地の補償、道路の状態である。

図 18 Tanjung Balik 村の重要施設までの距離

… 省略

19.0 TANJUNG PAUH 村 PRA ミーティング

村の名称 : TANJUNG PAUH 村
実施日 : 2002 年 3 月 8 日
時間 : 午後 8 : 30 - 午後 10 : 30
場所 : 小学校第 1 学年教室

議長 : DRS . AFRIZAL, MA

チームメンバー

- ・ アンダラス大学 (UNAND):
 1. Prof. Dr. A.A.Saleh.
 2. Prof. Dr. Bujang R
 3. Dra. Mira E, MS
 4. Drs. Syahrizal, MS.

- ・ PT. Bita Bina Semesta (BBS):
 1. Drs. Ano Sumarno
 2. Ir. Baban Suhendar

参加者 : 33 名の参加者 (添付資料に参加者名簿あり)

19.1 一般的事項

会議は、午後 8 時半に始まり、午後 10 時半に終わった。村長、宗教指導者、コミュニティの代表者、若者助成および村役場職員を含む 33 名の参加者が出席した。参加者のうち 2 名は NGO 活動家である。雰囲気は和やかなものだったが、参加者の数名、特に若者は発言する際にやや感情的になった。会議は議長によって開始され、村役場職員およびアンダラス大学の代表によるスピーチ、討議セッション、会の終結と続いた。

議長は移住問題および体験のデータ収集のためという会議の目的を説明した。A.A.Saleh 教授とともに住民は彼らの意見および懸念を自由に表明するよう告げられた。Tanjung Pauh 村の職員はそのスピーチの中で、参加者がその要望に関して調査チームに情報を提供するよう鼓舞した。彼は今日まで政府側がコミュニティに対し政府の要望を押し付け、その逆ではなかったことを強調した。

会議は住民が過去に何度も同じことを経験したが何も実現しなかったため、そのようなデータ収集の会合には辟易していることを確認した。かくて、彼らは今回の会議が本当に結果を生み出すものになることを熱望している。

A. 現状についての PAF の一般的な所感

全体として、住民は移住の結果苦しみを経験した。中には生計に改善を経験した者もいるが、大多数は新しい村での生活に苦慮している。かつては親は子どもに高等教育を受けさせることができたのが、今では中学校を修了させるのさえ難しいのである。

住民の大多数は非常に限られた上水へのアクセスに困難を極めている。彼らは政府が果さなかった約束によって、幻滅させられ、その結果政府への信頼度は非常に低い。彼らはデータ収集の営みには飽き飽きして、問題解決の行動を要求している。

B. コミュニティにとって災いをもたらした灌水の前に計画された変更の影響

会議では、ゴムのプランテーション、上水、住居および無料の電気供給という約束が実現されなかったことから、コトパンジャン水力発電プロジェクトからプラスの影響の代わりに、彼らはマイナスの影響を受けたことが判明した。よって住民はダム開発によって不利益を被っている。

C. コトパンジャン水力発電プロジェクト開発により生じたプラスおよびマイナスの影響例

1. プラスの影響

電気

彼らは村の世帯の 60% に電気が来たのでダム開発が村に電気をもたらしたということを確認した。この設備により住民はテレビやラジカセなどの電化製品が使えるようになり、一部の住民は電気炊飯器や冷蔵庫を所有している。

住居および土地

移住により新婚世帯に元の村では持っていなかった土地および住居が支給された。

よく計画された定住

新しい村での定住計画が優れているため元の村より新しい村のほうが良い。

2. マイナスの影響

a. 収入へのアクセスが遠く困難になる

政府が提供したプランテーションは彼らの期待通りのものではなく、他に収入源はない。

結果的に、彼らは最短でも 8 15 キロメートル離れた元の村にある灌水を免れたゴムおよびガンビルのプランテーションに頼らざるを得なくなった。さらに、ある者は、公共交通手段を利用し、舟に乗り換えさらに徒歩でたどり着くなど、仕事場へのアクセスがより困難になった。

b. 土地の減少

彼らは先祖から受け継いだ土地を失い政府が与えた土地を所有するのみである。彼らは入植者が増えるにつれ住居用の土地が乏しくなるとして将来を憂慮している。

c. 雇用の変化

会議に参加した PAF の数名が以下のように語った。

- ・住民の少数は土地を失ったために農業から採石へ職業を変えた。
- ・ダム湖での魚捕りを始めた住民もある。

d. 上水へのアクセスが困難になる

- ・浅い井戸は質の悪い水（濁った臭い水）しか得られないし、乾季には干上がってしまうため、使用できない。
- ・水道管設備は故障している。
- ・費用が高いために住民の多くは深い井戸を掘ることができない。
- ・2000 年に、村で調査を行っていた日本人学生から住民は 15 万ルピーを寄付された。その支援もごく僅かの住民の上水問題を解決できるに過ぎない。

19.2 具体的事項

A. 土地の補償

1. 政府の約束した補償

土地および住居の補償についての PAF の見解

- Limapuluh Kota 摂政政府は、灌水および隔離された全ての土地および作物を補償すると約束した。彼らは補償は完了していないと考えている。
 - ・補償対象リストに挙がっている土地および財産がまだ補償されていない住民が多くある。
 - ・隔離された土地区画の多くがまだ補償されていない。
 - ・灌水したおよそ 9 区画が補償されていない。
- PAF は補償計画の一貫性のなさについても苦情を呈している。隔離されたとちについては補償を受けたが、灌水した土地については何も補償を受けていない者もある。

2. コミュニティの、政府に対する土地補償請求申し立ての努力

コミュニティは補償請求の努力を過去現在においていくつか行っている。

- a. 約 67 世帯が補償問題で政府を法廷に訴えたが敗訴した。その結果、彼らは法制度を信じなくなった。
- b. 数人の住民は、法廷は政府に属しているのだから、政府が負けるはずがないとの意見を持っている。
- c. 補償請求で訴えを起こしたことで脅しを受けた者もある。
- d. Tanjung Pauh の青年達は NGO BKDP、コトパンジャン水力発電の被害者を守る組織を結成し、NGO の Taratak と提携した。同 NGO はプロジェクトにより被害を受けた 10 ヶ村の権利のために闘い、さらに日本の NGO の支援も受けている。政府が請求を解決しない場合には日本の NGO が日本の法廷に提訴することになる。

3. 土地補償問題解決への PAF の提案

補償問題の解決にあたり 2 つの提案がある。

- a. 補償されると約束された、元の村における全ての土地（灌水した土地および隔離された土地）は補償されなければならない。
- b. 補償を行う前に、土地を再測量するべきである。

B. 上水道

1. PAF は以下の通り、数点の問題を確認した。

- a. 移住の前に、彼らは、新しい村でも元の村で見られるような上水を約束されていた。
- b. 移住したところ、彼らに提供されたのは、濁った臭いを放つ水が出る浅い井戸で乾季には干上がるものだった。
- c. 浅い井戸からの質の劣った水のせいで、住民の間には皮膚の発疹が生じた。

2. 改善の努力

浅い井戸の問題を解決するため、PDAM は住民に対し、上水設備を提供した。

- a. PDAM は Tanjung Pauh の住民に配るための水を積載したトラックを手配したが、このような努力は長くは続かなかった。
- b. 1993 年、PDAM は、水道管網および貯水槽を含む配管設備を建設したが、2 日後にその設備は壊れた。
- c. 2000 年には、Tanjung Balik にダムが建設され、水道管が敷設されたが、今日まで水は来ていない。

3. PAF は次のように提案した。

- a. 各戸への配管

- b. 彼らは Tanjung Balik 村からの水源を受け入れるのは不本意で、自分達の村からの水源を望んでいる。
- c. 彼らは上水設備の建設を自分達自身で請け負いたいと望んでいる。

C. MCK 設備

1. 約束と実現

PAF は新しい村での上水設備の中に MCK 設備も含まれていると考えている。政府は 1 億 3000 万ルピーを費やして、13 ユニットの MCK を建てたが、その中にはトイレが含まれていなかった。同時にそれらは乾季には水が乏しく、冠水地域に位置しているため役に立たない。

2. 改善の努力

政府は MCK 設備の改善に向けての努力を何もしてこなかった。

3. PAF の提案

- a. MCK 設備はいまも必要とされている。
- b. MCK 設備の建設は性差を考慮するべきである。男性は用を足しているのを女性に見られるのは困惑するので、トイレは洗濯場に面した所にあるべきではない。
- c. MCK 設備は男性用と女性用を分けてほしいと考えている。

D. 電気の供給

1. 移住の前に、彼らは無償で住居に電気が引き込まれ、最初 1 年間は電気代が免除されると約束されていた。しかし、

- a. そのような約束は守られなかった。
- b. 彼らは引き込み料を徴収された。
- c. 最初の 1 年間の電気料金を請求された。
- d. 今日まで、住居の 40% には電気が引き込まれていない。彼らが 52 万ルピー（時価）の費用を払う余裕がないためだ。

2. 今日まで、政府は自らの電気提供の約束を果すための対応を何もしていない。

3. 住民は 2 つの要求をしている。

- a. 全戸に無償で電気の引き込み工事を行うこと
- b. すでに支払済みの引き込み料金は償還すること。

E. 住宅の供給

1. 移住の前に彼らは 6×6 メートルの半永久型住宅を約束されたが、実際には非永久型の住宅を支給された。

- a. 住宅は厚板とトタン屋根製だった。
- b. 質の悪い床張り（薄いセメントを張った木の床）

2. PAF は住宅の改善の提案はしなかった。

F. ゴムプランテーション

1. 移住の前に、彼らは2ヘクタールの採液可能なゴムのプランテーション政府のプランテーションを約束されたが、彼らが支給されたのは数本のゴムの木を除いては空の土地だった。

2. ゴムプランテーション改善の努力

- a. 政府は75万ルピーおよび再植樹用の苗木を支給した。
- b. その甲斐も無く、苗木の質が悪かったのと、資金が不十分だったために失敗に終わった。住民の中には、資金を再植樹のためでなく、貧しいために日常の入用にってしまったと言う者もあった。

3. 提案

- a. 政府は再植樹の全面的支援を提供し、住民は再植樹に精を出す。政府の役割は資本提供者および世話人に限定する。
- b. 彼らは村役場の職員が復興プログラムの実施に中心的役割を果たすことを望んでいる。
- c. ゴムプランテーションの復興の前に、政府は1987年に遡って2ヘクタールのゴムの植えられていないプランテーションによる損失を補償すべきである。

G. 収入

1. 収入源

移住の後、住民の中には職業を変えた者もある。少数派は農業から Payakumbuh Pakan Baru ハイウェイ沿いでの採石業に職を変えた。

2. 住民は収入を向上させるために様々な努力に取り組みは始めている。その努力は新しい村における開墾ではなく、元の村に帰ったり、新しい村の外の地域に向かっている。

3. PAF は特に、村の貧困緩和への積極的な取り組みを提案している。住民の然るべきニーズを確認するための調査の必要性、およびそのような調査において、BPAN の参画を勧告している。

H. NGO

2000年以降、BKDP NGO が活発に住民の権利のための闘いを支援してきた。同 NGO は Bukittinggi に本部を置く NGO の Taratak と連携している。

19.3 その他の確認事項

1. 非常に多くの住民が様々な理由で、新しい村を離れ元の村に戻っている。その主な理由は新しい村では収入源が見つからないというものである。
2. 彼らは支給された何も生えていない土地区画にゴムの木、ランブータンの木、カッサバおよびドリアンの木を植えた。しかし、土地は焼き払われて、その後また空き地になったままである。彼らは開墾をしなかった住民の中に羨望から放火をした者がいるとほのめかしている。
3. 彼らは市場など、Tanjung Balik とは切り離れた施設の支援を要求している。
4. 社会文化的指向における変化。若者は新しい村への移住以降自身のミナンカバウとしてのアイデンティティを失ってしまったかに見える。
5. 2人の住民が自分達をそれぞれ BKDP および Taratak の各 NGO の一員であると認めている。前者は日本の同等の NGO との会議から戻ったところであり、彼によると、同日本の NGO は日本の法廷に提訴するつもりだと言う。NGO Taratak の会員の方は、マニラでのダム被害者に関する世界 NGO 会議から帰ったばかりである。
6. Tanjung Pauh および Tanjung Balik 村の関係は、共通プログラムや Balik 村に位置する共用上水源施設に対する消極的な態度が示すように、調和を欠いているように見える。
7. 問題の優先順位
8. PAF は3つの優先事項を確認した。ゴムプランテーション、土地および作物の補償それに上水供給の問題である。

最優先事項の順位は次のとおりである。

GUNUNG BUNGSU 村における解決すべき問題の優先順位

No	具体的問題	投票数
1	土地の補償	25
2	上水道	20
3	MCK	1
4	電気	0
5	住宅	2
6	ゴムプランテーション	25
7	仕事	6
8	道路事情	1
9	NGO の支援	0

PAF はゴム園、市場、学校（初等、中等）、礼拝堂、診療所、村役場等によく訪れる場所までの距離および所要時間についても調査を受けた。（図 19 参照のこと）

19.4 PRA ミーティングの概要

1. 総じて、Tanjung Pauh の PAF は不安で混乱している。彼らは自分達をコトパンジャン・ダム開発の被害者とみている。元の村での生活は新しい村よりもよかった。
2. PAF によれば、コトパンジャンプロジェクトのプラスの影響もいくつかあると言う。具体的には、電気が使用可能になったこと、若い新世帯が家や土地を手に入れる機会、および定住計画が優れていたことが挙げられる。マイナスの影響の中には、収入へのアクセスが困難になったこと、未解決の土地補償、土地の減少、雇用の変化および水へのアクセスの難しさがある。
3. Tanjung Pauh の PAF にとっての最大の問題は、未支払の土地補償である。多くの土地の区画がまだ補償されていない。
4. 土地の補償問題以外に、PAF は不満足な結果を露呈した水の供給、電気、住宅供給およびゴムプランテーションについての政府および PLN の約束にも不満を持っている。
5. ゴムプランテーションが利用できないため、PAF の殆どが職業を変えた。このような状況で多くの PAF の収入が減少した。
6. 彼らの権利要求の努力は組織的に妨害されている。もし現在の状況が続けば、不安が急進的な行動に繋がるかも知れず、そうなるとコトパンジャン水力発電にとって悪影響となるであろう。
7. Taratak NGO と連携して、BKDP NGO は PAF の彼らの権利のための闘いを活発に支援している。
8. Tanjung Pauh において、緊急に解決する必要のある 3 つの問題は、土地の補償、ゴムプランテーション、それと水供給問題である。

図 19 Tanjung Pauh 村の重要施設までの距離

… 省略